



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PROBOX



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 オーディオ

オーディオの使い方など

6 室内装備・機能

室内装備の使い方など

7 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

8 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

9 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	31
排気ガスに対する注意	37
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	38
チャイルドシート	39
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの	
特徴	57
ハイブリッドシステムの	
注意	61
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	68

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	70
計器類	75
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	76

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	
(フロントドア・リヤドア) ...	88
バックドア	92
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	104
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	106
インナーミラー	108
ドアミラー	110
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	112

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	116
荷物を積むときの注意	126

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	127
EV ドライブモード	131
トランスミッション	134
方向指示レバー	138
パーキングブレーキ	139

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	140
リヤフォグランプスイッチ	145
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	147
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	149

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	151
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	155
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	161
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報）	173
オートマチックハイビーム	178
先行車発進告知機能	182

4-6. 運転支援装置について

バックモニター	184
運転を補助する装置	195

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	202
寒冷時の運転	204

5 オーディオ

5-1. オーディオの基本操作

オーディオの種類	208
----------------	-----

5-2. オーディオの使い方

快適に聞くために	209
----------------	-----

5-3. ラジオの使い方

ラジオの使い方	210
---------------	-----

5-4. 外部入力接続機器の使い方

AUX 端子（外部入力接続） の使い方	212
------------------------------	-----

5-5. アンテナの取り扱い

アンテナ	214
------------	-----

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン	216
シートヒーター	222

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	224
・フロントルームランプ・ リヤルームランプ	225

6-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	226
・センタートレイ (ドリンクホルダー付)	228
・マルチホルダー	230
・インパネトレイ	233
・開閉式 ワイドフリーラック	234
・センターボックス	234
・カップホルダー・ ボトルホルダー	235
・オープントレイ・ ポケット・小物入れ	237

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	239
・サンバイザー	239
・時計	240
・アクセサリソケット・ アクセサリコンセント	241
・充電用 USB 端子	243
・インパネテーブル	245
・コートフック	247

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	250
内装の手入れ	254

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	256
ガレージジャッキ	259
ウォッシャー液の補給	260
タイヤについて	261
タイヤ空気圧について	265
エアコンフィルターの 交換	267
駆動用電池冷却用吸入口／ 吸入口カバーの清掃	270
ワイヤレスキーの電池交換	274
ヒューズの点検・交換	277
電球（バルブ）の交換	280

8 万ーの場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	294
非常点滅灯 (ハザードランプ)	295
発炎筒	296
車両を緊急停止するには	298
水没・冠水したときは	299

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	300
警告灯がついたときは	307
パンクしたときは	313
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	324
補機バッテリーが あがったときは	325
オーバーヒートしたときは	331
スタックしたときは	336

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	340
--------------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	346
--------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	350
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	353
アルファベット順さくいん	354
五十音順さくいん	356

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

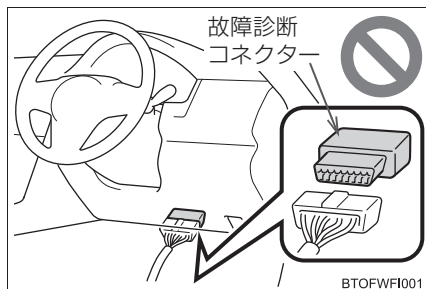
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 10 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 駆動用電池の状態
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense ★

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

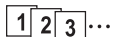
本書の見方



お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



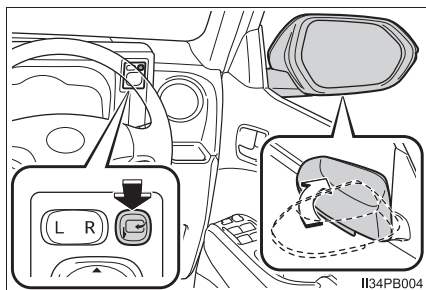
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

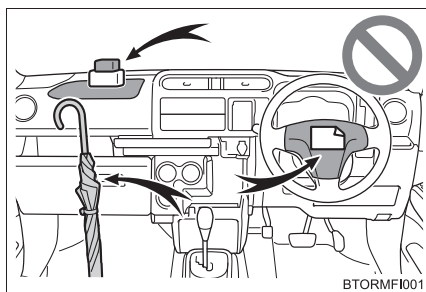
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

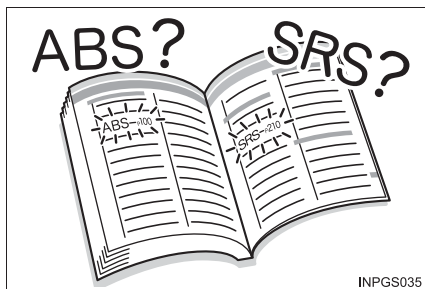


機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

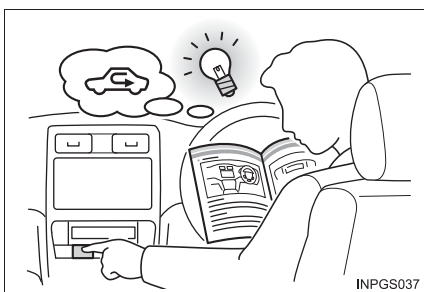
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん356
- ・ アルファベット順
さくいん354



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次14



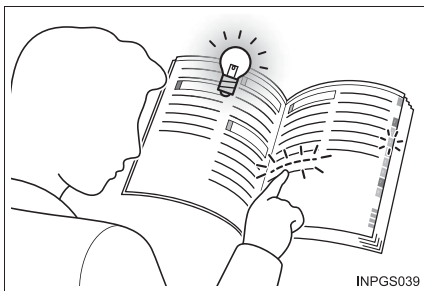
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)350
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)353



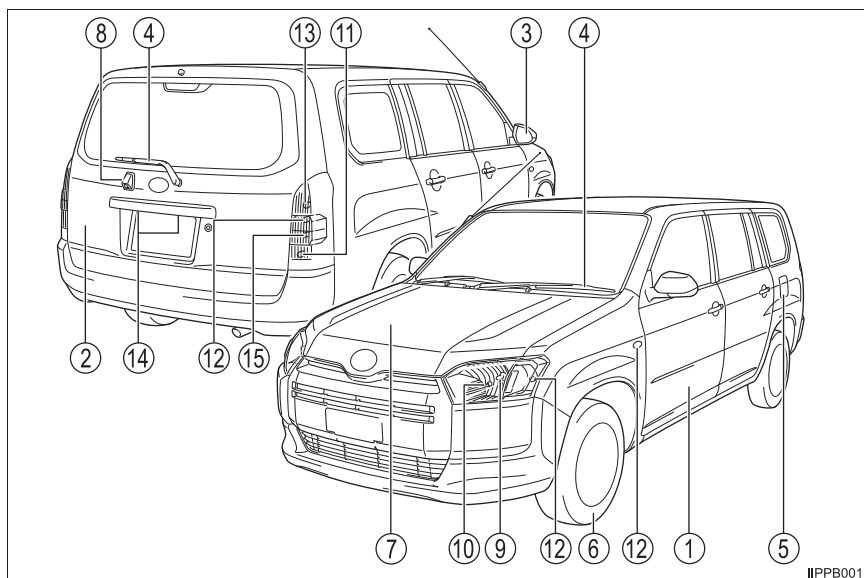
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



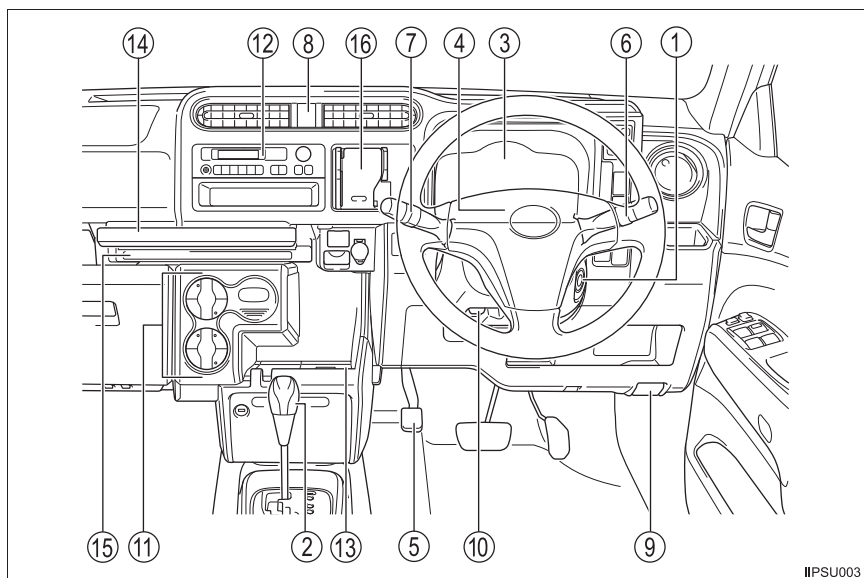
- ① ドア P. 88
 - 施錠／解錠 P. 88
 - ドアガラスの開閉 P. 112
 - 警告灯..... P. 309
- ② バックドア P. 92
 - 施錠／解錠 P. 92
 - 警告灯..... P. 309
- ③ ドアミラー P. 110
 - 鏡面の角度調整..... P. 110
 - ミラーの格納 P. 110
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★..... P. 218
- ④ ワイパー..... P. 147, 149
 - 冬季の注意 P. 204

⑤ 給油口.....	P. 151
給油方法.....	P. 151
燃料の種類・燃料タンク容量.....	P. 340
⑥ タイヤ.....	P. 261
サイズ・空気圧.....	P. 344
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....	P. 204
点検・ローテーション.....	P. 261
パンク時の対処.....	P. 313
⑦ ボンネット.....	P. 256
開け方.....	P. 256
エンジンオイル.....	P. 341
オーバーヒート時の対処.....	P. 331
⑧ カメラ（バックモニター）★.....	P. 184

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 280, ワット数：P. 345)

⑨ ヘッドランプ.....	P. 140
⑩ 車幅灯.....	P. 140
⑪ リヤフォグランプ★.....	P. 145
⑫ 方向指示灯.....	P. 138
緊急ブレーキシグナル.....	P. 195
⑬ 制動灯／尾灯.....	P. 140
ヒルスタートアシストコントロール.....	P. 195
⑭ 番号灯.....	P. 140
⑮ 後退灯.....	
シフトポジションを R にする.....	P. 134

■インストルメントパネル

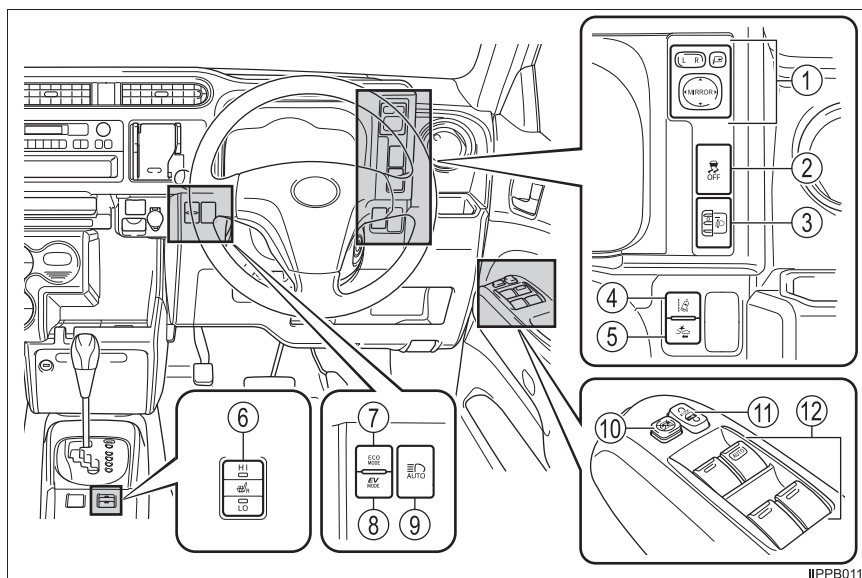


IIPSU003

- ① **パワースイッチ**P. 127
 - ハイブリッドシステムの始動・位置の切りかえP. 127
 - ハイブリッドシステムの緊急停止P. 298
 - ハイブリッドシステムが始動できないときの対処P. 324
- ② **シフトレバー**P. 134
 - シフトポジションの切りかえP. 134
 - けん引時の注意P. 300
 - シフトレバーが動かないときの対処P. 136
- ③ **メーター**P. 75
 - 見方・明るさの調整P. 75, 79
 - 警告灯／表示灯P. 70
 - 警告灯点灯時の対処P. 71, 307

④	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 76
⑤	パーキングブレーキ	P. 139
	かける・解除する	P. 139
	冬季の注意	P. 205
	警告ブザー	P. 139
⑥	方向指示レバー	P. 138
	ランプスイッチ	P. 140
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 140
	リヤフォグランプ ★	P. 145
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 147, 149
	使い方	P. 147, 149
	ウォッシャー液の補給	P. 260
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 295
⑨	ボンネット解除レバー	P. 256
⑩	ハンドル位置調整レバー	P. 106
⑪	オートエアコン	P. 216
	操作方法	P. 216
	リヤウインドウガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー)	P. 218
⑫	オーディオ★	P. 208
⑬	センタートレイ (ドリンクホルダー付)	P. 228
⑭	インパネテーブル	P. 245
⑮	インパネトレイ	P. 233
⑯	マルチホルダー	P. 230

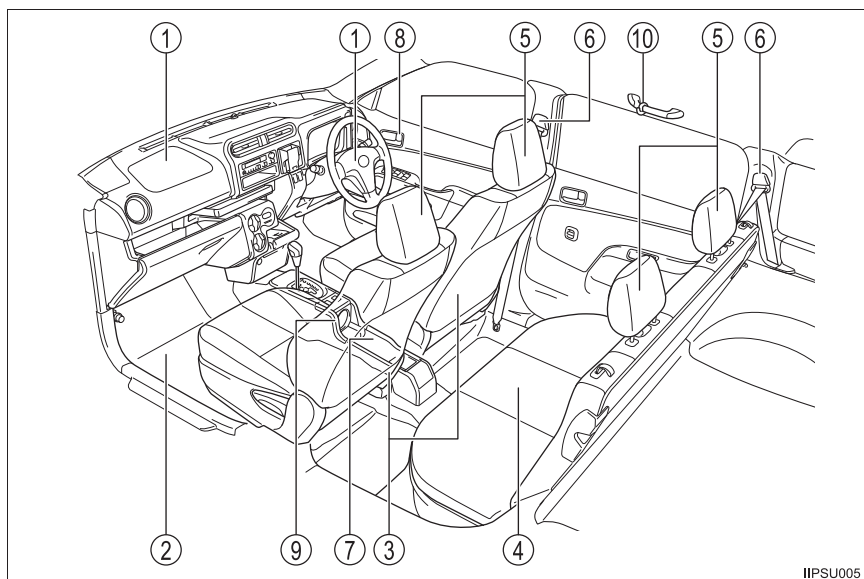
■スイッチ類



IIPPB011

- ① ドアミラースイッチP. 110
- ② VSC OFF スイッチP. 196
- ③ 手動光軸調整ダイヤル.....P. 142
- ④ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチ★.....P. 175
- ⑤ PCS (プリクラッシュセーフティ) スイッチ★.....P. 165
- ⑥ シートヒータースイッチ★.....P. 222
- ⑦ エコドライブモードスイッチ.....P. 135
- ⑧ EV ドライブモードスイッチP. 131
- ⑨ オートマチックハイビームスイッチ★P. 178
- ⑩ ウインドウロックスイッチP. 113
- ⑪ ドアロックスイッチP. 89
- ⑫ パワーウインドウスイッチP. 112

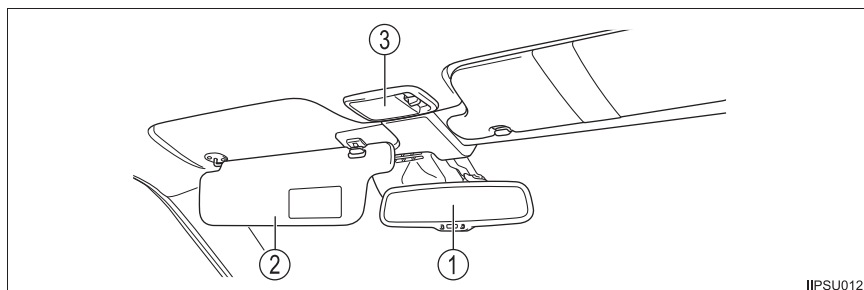
■ 室内



IIPSU005

- ① SRS エアバッグ P. 31
- ② フロアマット P. 22
- ③ フロントシート P. 97
- ④ リヤシート P. 98
- ⑤ ヘッドレスト★ P. 104
- ⑥ シートベルト P. 26
- ⑦ センターコンソールトレイ P. 237
- ⑧ ロックレバー P. 89
- ⑨ カップホルダー P. 235
- ⑩ コートフック P. 247

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



IIPSU012

- ① インナーミラーP. 108
- ② サンバイザー ※¹P. 239
- ③ ルームランプ ※²P. 224

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 42)



※² : 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	31
排気ガスに対する注意	37
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	38
チャイルドシート	39
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの	
特徴	57
ハイブリッドシステムの	
注意	61
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	68

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

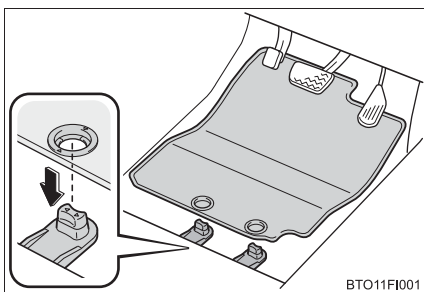
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

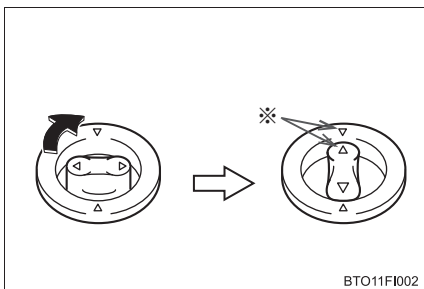
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

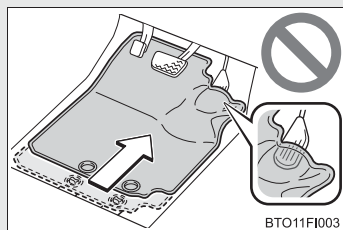
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

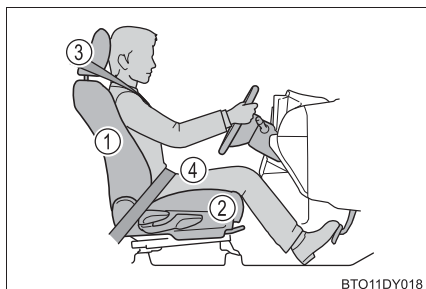


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 97）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 97）
- ③ 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 104）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 39）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 108, 110）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

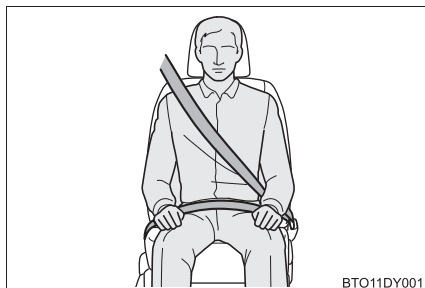
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

◆ 3 点式シートベルト

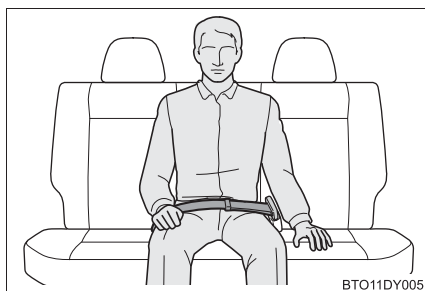
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



BTO11DY001

◆ 2 点式シートベルト

- ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、ベルトの長さを調整する
- 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

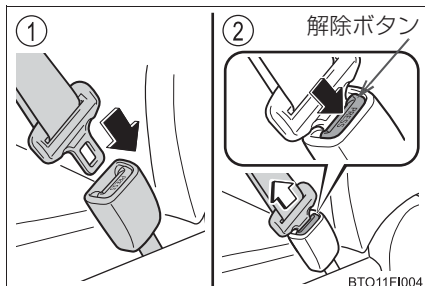


BTO11DY005

着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

はずした 2 点式シートベルトを使用しないときは、プレートバックルにはめておいてください。



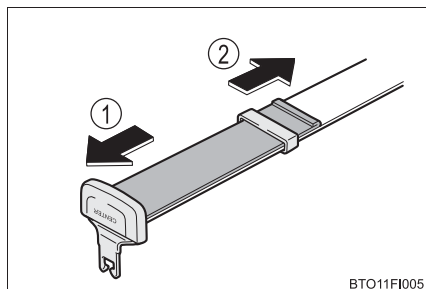
BTO11FI004

シートベルトの長さ調整 (2点式シートベルト)

① 伸ばす

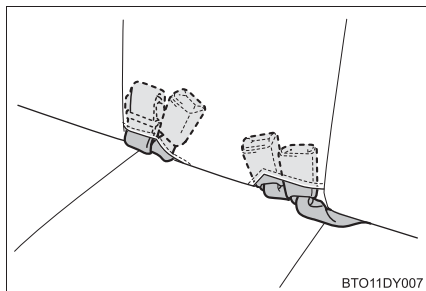
② 縮める

着用時は、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにベルトの長さを調整してください。



格納のしかた (リヤ席)

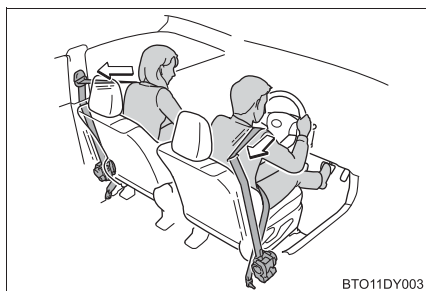
シートベルトを使用しないときは、ポケットに格納しておくことができます。



シートベルトプリテンショナー (フロント席)

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



 知識**■ シートベルトロックの解除方法（3点式シートベルト）**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 39）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

！警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

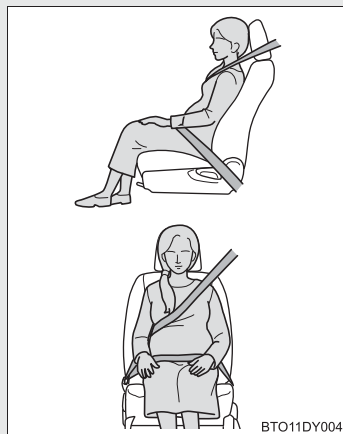
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを格納ポケットの中に押し込んだ状態で使用しない

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

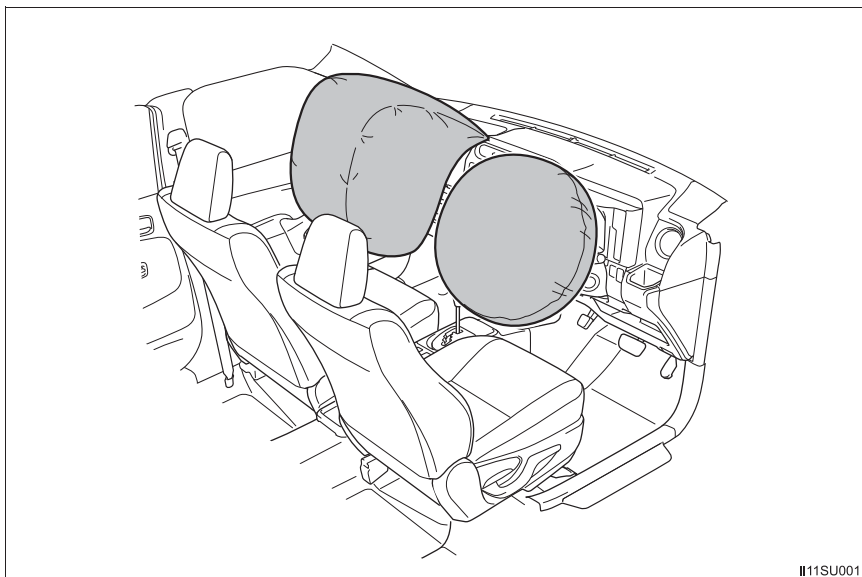
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



111SU001

◆ フロント SRS エアバッグ

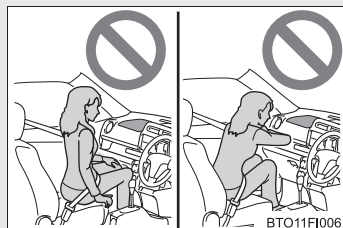
運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

！ 警告**■ SRS エアバッグについて**

次のことを必ずお守りください。

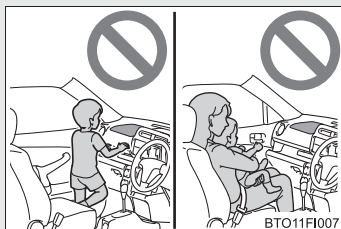
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 39)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

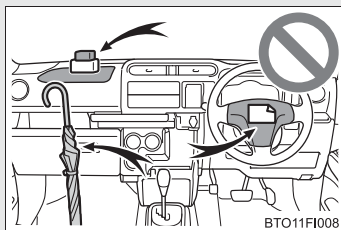


警告**■SRS エアバッグについて**

- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- マルチホルダーやインパネテーブルを引き出したまま走行しない
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告**■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき

- エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

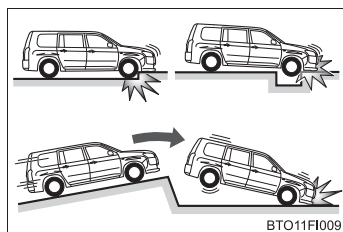
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

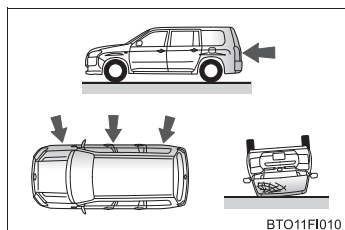
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

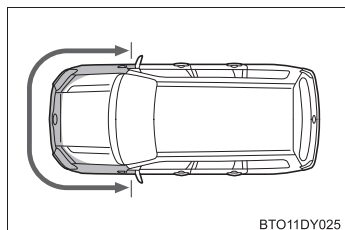
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



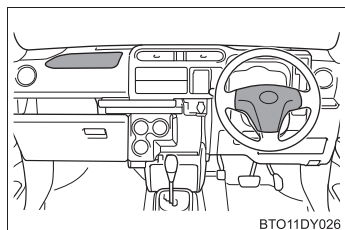
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 39)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 90)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 113)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 39)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	39
チャイルドシートを使用するときは	41
シート位置別チャイルドシートの適合性について	44
チャイルドシートの取り付け方法	54
・ シートベルトで固定する	54

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 44)

 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→ P. 44）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

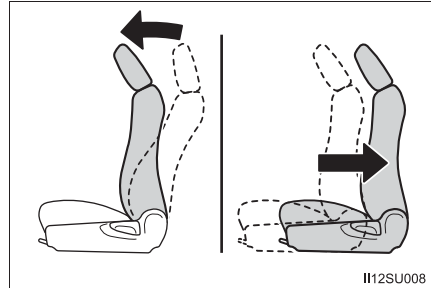
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろにさげる

● シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整する

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

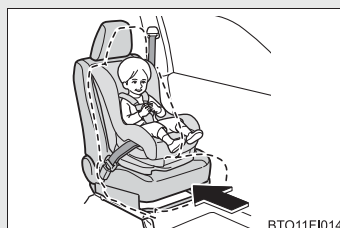
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



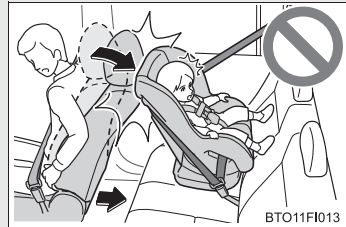
- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



！ 警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 46）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 52）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

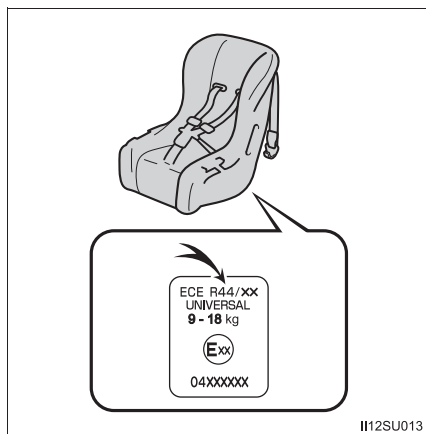
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN(ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



II12SU013

※¹ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

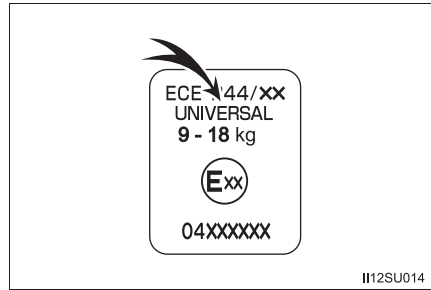
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

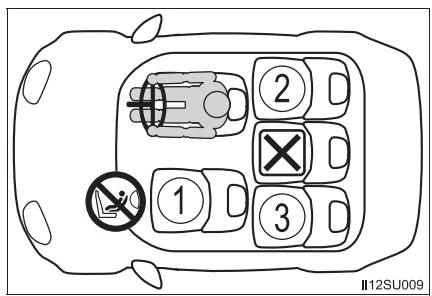
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（I 準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ クッション固定式リヤシート装着車

	① ※1,2	※3 U L
	②	L
	③	L



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 52）に記載されたチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

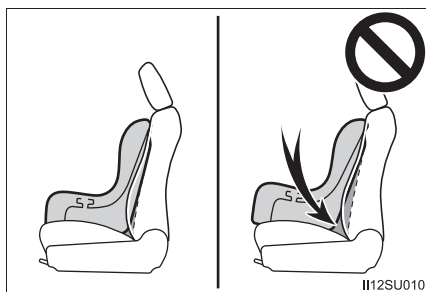


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

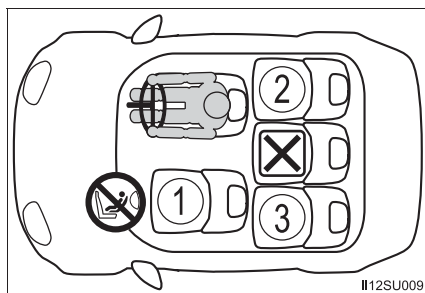
※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

▶ クッション引き起こし式リヤシート装着車



① ※1, 2, 3	※4 U L
② ※3	U L
③ ※3	U L



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 52）に記載されたチャイルドシートに適しています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

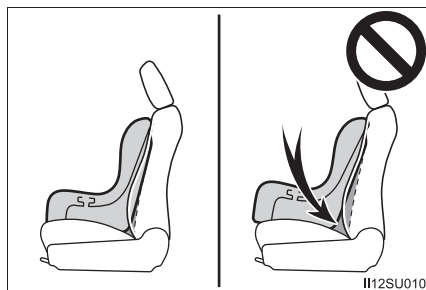


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

▶ クッション固定式リヤシート装着車

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	無	無
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ クッション引き起こし式リヤシート装着車

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

- ▶ クッション固定式リヤシートおよびクッション引き起こし式リヤシート装着車

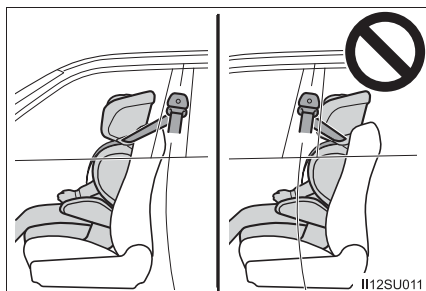
質量 グループ	推奨チャイルド シート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
I (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

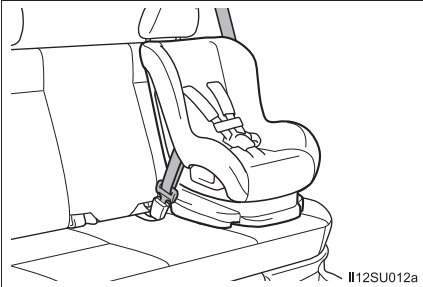
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 54

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

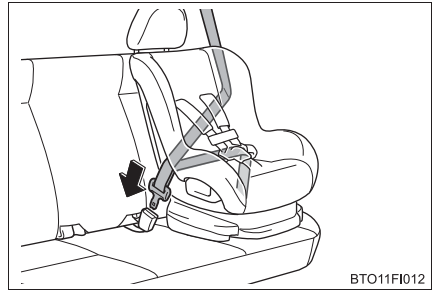
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 45、46）

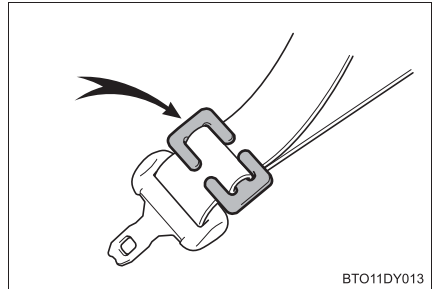
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 41）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 104）

- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 56）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

**警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

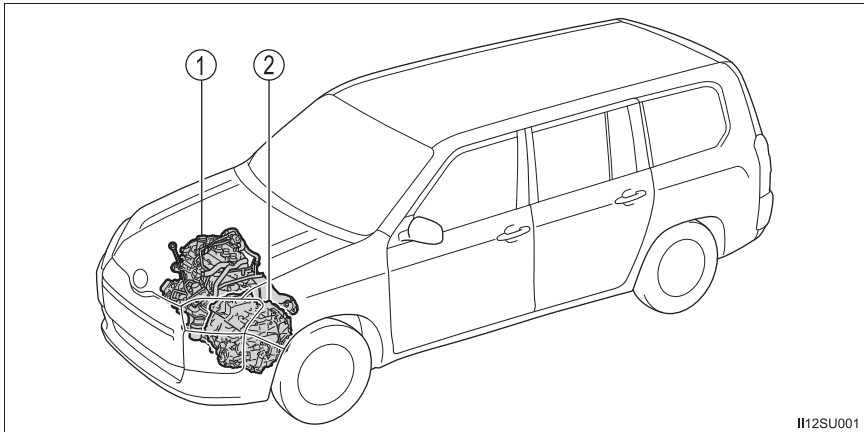
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



II12SU001

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ガソリンエンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 59）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

□ 知識

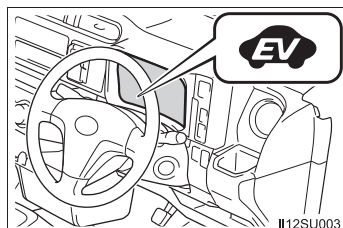
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV 走行インジケータについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV 走行インジケータが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 駆動用電池冷却用吸入口の吸入口カバーにほこりがつまっているとき
・ メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき：→ P. 272

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 327

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるリヤシート下部および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時にリヤシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

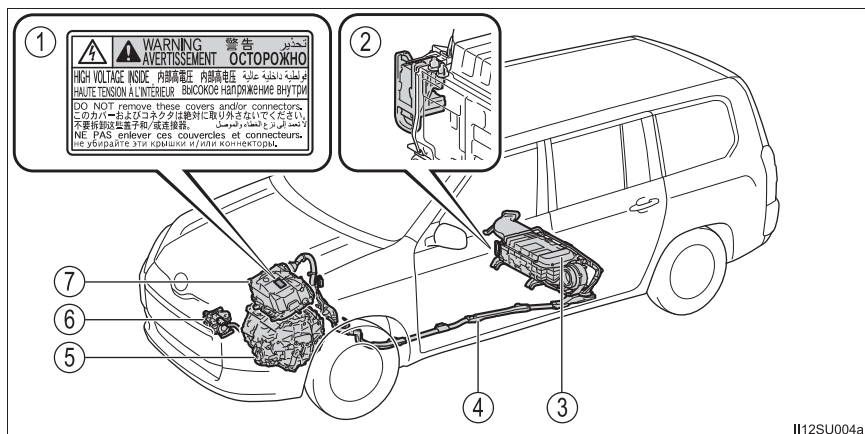
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■車両接近通報装置警告灯（→ P. 71）が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

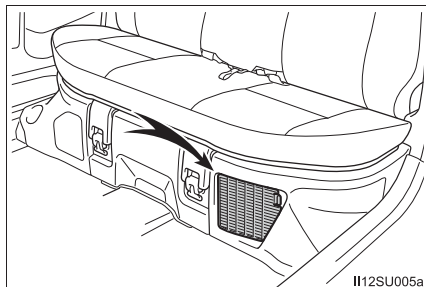


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① ラベル | ⑤ 電気モーター |
| ② サービスプラグ | ⑥ エアコンコンプレッサー |
| ③ 駆動用電池 | ⑦ パワーコントロールユニット |
| ④ 高電圧ケーブル（オレンジ色） | |

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下部（左側）には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力が制限され、燃費性能低下の原因になります。



緊急停止システム

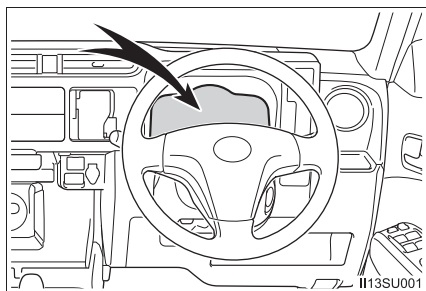
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に警告灯が点灯します。

警告灯はメーター内に点灯されます。

表示された警告灯の対処方法に従ってください。（→ P. 307）



 知識**■ 警告灯が点灯したとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→P. 309)が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約 7.4L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 適合宣言

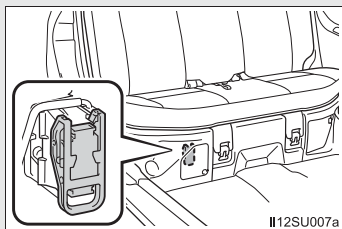
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置しています。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

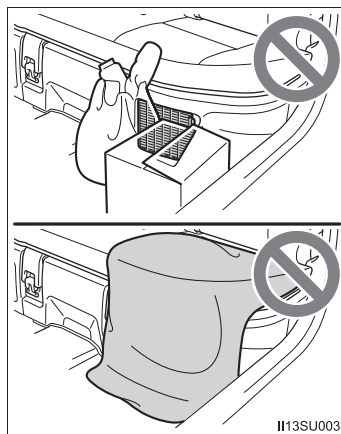
- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 300）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

**警告****■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- シートカバー・荷物やカーペットなどで、吸入口がふさがれないようにしてください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力が制限され、燃費性能低下の原因になります。

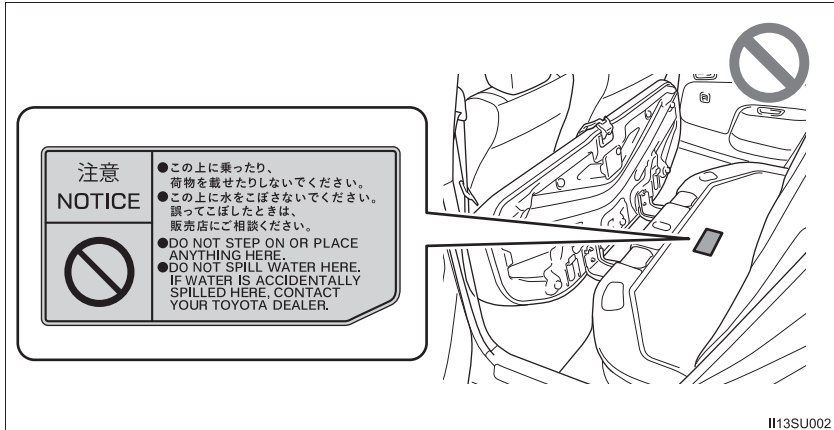


- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
メンテナンス・点検警告灯が点灯したときは、フィルターの目づまりが考えられます。吸入口カバーの清掃をしてください。(→ P. 270)
吸入口カバーを清掃しても表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意**■ リヤシート下のラベルについて（クッション引き起こし式シート）**

リヤシート下に駆動用電池が搭載されています。

ラベルが貼ってある面に足を乗せたり、荷物を置くなどして荷重をかけたり、水をこぼしたりしないでください。駆動用電池の過熱または故障の原因につながるおそれがあります。



1H3SU002

イモビライザーシステム

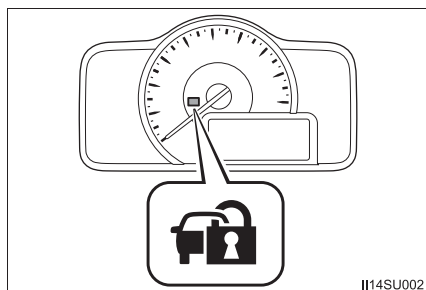
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをパワースイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

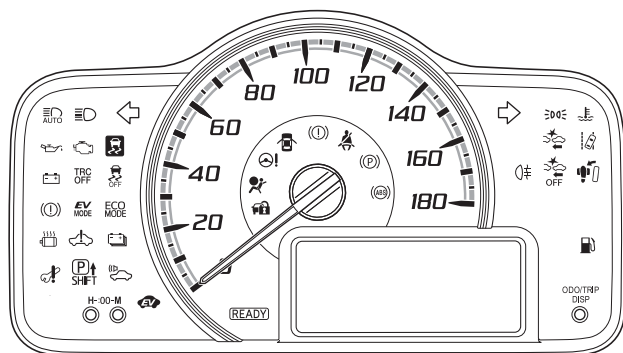
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	70
計器類	75
マルチインフォメーション ディスプレイ	76

警告灯／表示灯

メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



1120SU002a

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 307)



ブレーキ警告灯
(→ P. 307)



PCS 警告灯★ (→ P. 308)



充電警告灯 (→ P. 307)



オートマチックハイビーム
表示灯★ (→ P. 308)



油圧警告灯 (→ P. 307)



LDA (レーン
ディパーチャーアラート)
表示灯★ (→ P. 308)



高水温警告灯 (→ P. 307)



ブレーキオーバライド
システム／ドライブ
スタートコントロール
警告灯 (→ P. 309)



エンジン警告灯
(→ P. 307)



半ドア警告灯 (→ P. 309)



SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
(→ P. 307)



燃料残量警告灯
(→ P. 309)



ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 308)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 309)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 308)



電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 309)



スリップ表示灯
(→ P. 308)



P ポジション要求表示灯
(→ P. 310)



ハイブリッドシステム異常
警告灯 (→ P. 309)



駆動用電池残量低下警告灯
(→ P. 310)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



メンテナンス・点検警告灯
(→ P. 312)



※

ハイブリッドシステム過熱
警告灯 (→ P. 310)



車両接近通報装置警告灯
(→ P. 310)

※ 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 138)



(点滅)

PCS 作動表示灯★
(→ P. 161)



尾灯表示灯 (→ P. 140)



PCS 警告灯★ (→ P. 165)



ハイビーム表示灯
(→ P. 141)



(緑色)

オートマチックハイビーム
表示灯★ (→ P. 178)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 145)



(緑色)

LDA (レーン
ディパーチャーアラート)
表示灯★ (→ P. 175)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 139)



EV ドライブモード表示灯
(→ P. 131)



(点滅)

スリップ表示灯
(→ P. 196)



EV 走行インジケーター
(→ P. 58)



TRC OFF 表示灯
(→ P. 196)



READY インジケーター
(→ P. 127)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 197)



セキュリティ表示灯
(→ P. 68)



ECO MODE 表示灯
(→ P. 135)

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

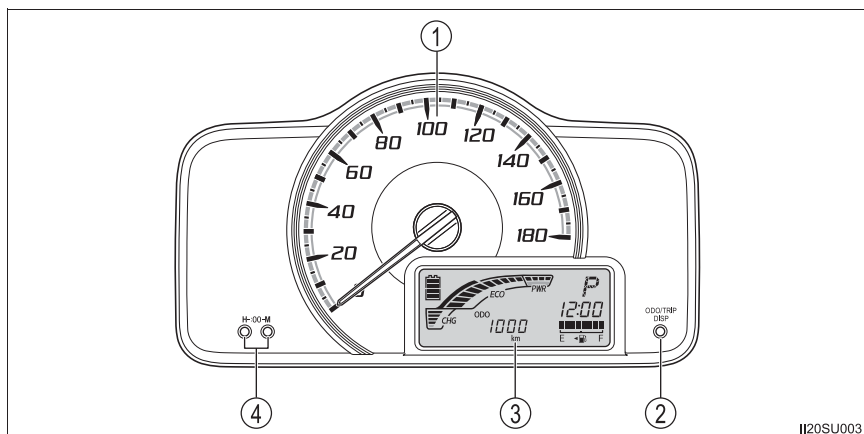
 警告**■安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意**■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために**

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 307）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときはオーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 331）

計器類



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 表示切り換えボタン
オドメーター・トリップメーター・燃費表示などの切り換えができます。
(→ P. 77)
- ③ マルチインフォメーションディスプレイ
時計や外気温、走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 76)
- ④ 時計調整ボタン
時刻を調整します。(→ P. 240)

 知識

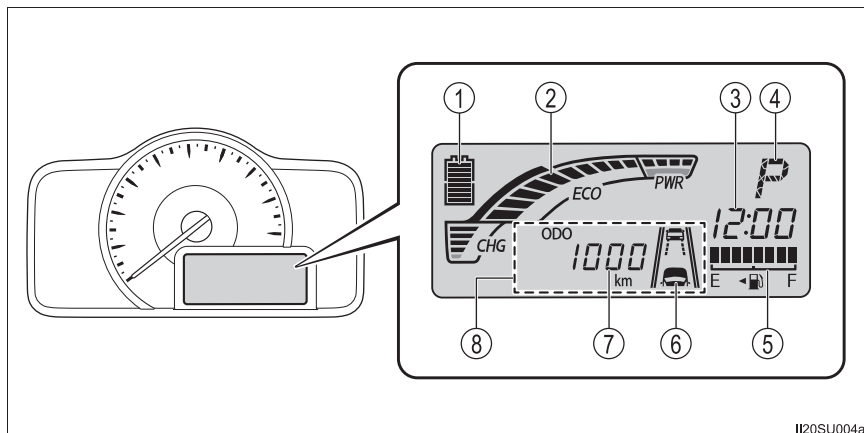
■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、時計や外気温、走行に関するさまざまな情報を表示します。



① 駆動用電池残量表示

現在の駆動用電池残量を 8 段階で表示します。(→ P. 82)

② ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します(→ P. 82)

③ 時計 (→ P. 240)

④ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を表示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ LDA (レーンディパーチャーアラート) ★／先行車発進告知機能★ (→ P. 173, 182)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑦ トリップインフォメーション (→ P. 78) / PCS (プリクラッシュセーフティ) ★ (→ P. 161)

オドメーター、トリップメーター、航続可能距離や燃費など、走行に関する情報の表示や、外気温の表示、プリクラッシュセーフティの設定変更、メーター照明の明るさを調整することができます。

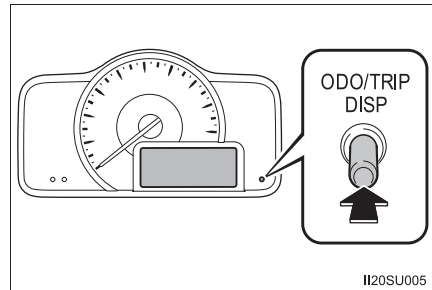
⑧ カスタマイズモード (Toyota Safety Sense 装着車) (→ P. 80)

次のカスタマイズをすることができます。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)
- ・ 先行車発進告知機能

表示切りかえボタン

トリップインフォメーションの表示の切りかえや、カスタマイズモードで設定を変更するときにボタンを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの機能

■ オドメーター

画面内に **ODO** と表示されます。

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター

画面内に **TRIP A** / **TRIP B** と表示されます。

リセットしてからの走行距離を表示します。

- ・ 区間距離は、トリップA・トリップB の2 種類で使い分けることができます。
- ・ 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押すと 0 にもどります。

■ 外気温

－ 40 ℃ ～ 50 ℃ のあいだで外気温を表示します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

画面内に **AVG.** と表示されます。

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費の表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

画面内に **RANGE** と表示されます。

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象・渋滞など）や運転方法（急発進・エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 83）

■ 始動後走行時間表示

ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

■ ブランク表示

駆動用電池残量表示とハイブリッドシステムインジケーターが非表示になります。

■ メーター照度表示

メーター照明のレベルを表示します。

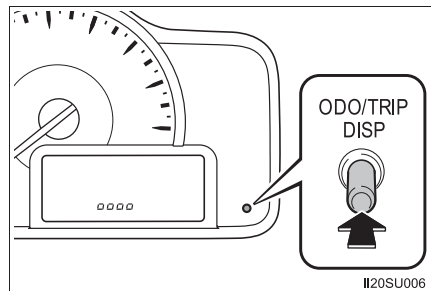
車幅灯が点灯しているときのみ表示されます。

メーター照度調整のしかた

車幅灯が点灯しているときに、メーター照明の明るさを調整することができます。

- 1 車幅灯を点灯させる
- 2 表示切りかえボタンを押してメーター照度表示に切りかえる
- 3 表示切りかえボタンを押し続けて照度を調整する

照度は 4 段階に調整できます。



カスタマイズモード (Toyota Safety Sense 装着車)

LDA (レーンディパーチャーアラート) と先行車発進告知機能の設定を変更することができます。

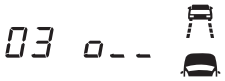
■ 設定変更のしかた

- 1 オドメーター表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、画面をカスタマイズモードに切りかえる
- 2 表示切りかえボタンを押し、設定を変更したい項目を表示させる
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。
- 3 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、設定を変更する
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

カスタマイズモードを終了するには、画面に *End* が表示されるまで表示切りかえボタンを押したあと、ボタンを約 1 秒以上押してください。

End が表示された状態で約 5 秒経過したときもカスタマイズモードが終了します。

■ 設定変更できる項目

表示	設定内容	
	高い 00	LDA（レーンディパーチャーアラート） 警報感度 車線逸脱時の警報ブザーが鳴る感度を 2段階から選択することができます。
	普通 0-	
	ON	先行車発進告知機能 告知機能の作動・非作動を選択するこ とができます。
	OFF	
	遅い 0--	先行車発進告知機能の告知タイミング タイミングを3段階から選択するこ とができます。
	普通 00-	
	早い 000	

知識

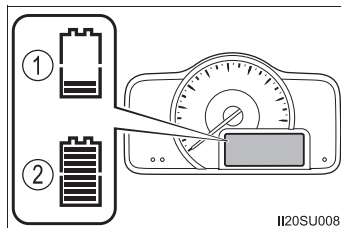
■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■駆動用電池の残量表示について

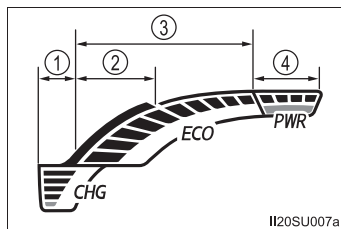
駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

- ① 残量が少ない
- ② 残量が多い



■ハイブリッドシステムインジケータについて

- ① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。
- ② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。



- ③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。
- ④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

●インジケータをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを“LOCK”にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを“ON”にする
- 5 そのまま約 5 秒間、表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す
オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
(再計算されるため、補機バッテリー端子脱着前と距離が異なることがあります)
- 車幅灯が点灯しているときのメーター照度(最大照度になります)
- 時計(1:00 になります)

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行(約 20km/h 以下)のとき
- 外気温が急激に変化したとき(車庫・トンネルの出入り口付近など)

■外気温度表示で“—”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズモードの操作について(Toyota Safety Sense 装着車)

- 走行中はカスタマイズモードに切りかえることができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 次の場合はカスタマイズモードが中断され、オドメーター表示にもどります。
 - ・約 30 秒間操作しなかったとき
 - ・走行し始めたとき

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。



警告

■ 設定を変更するとき (Toyota Safety Sense 装着車)

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■ 設定を変更するとき (Toyota Safety Sense 装着車)

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作

3

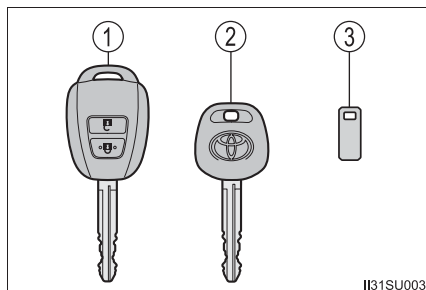
3-1. キー	
キー	86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	
(フロントドア・リヤドア)	88
バックドア	92
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	104
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	106
インナーミラー	108
ドアミラー	110
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	112

キー

キーについて

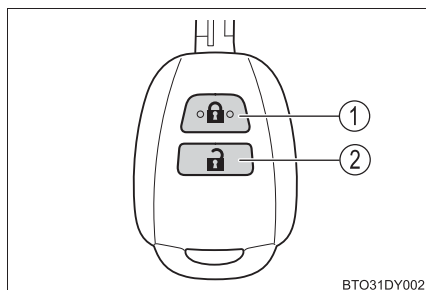
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① ワイヤレスリモコン付き
マスターキー
- ② スペアキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 88)
- ② ドアの解錠 (→ P. 88)



 知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

● 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

● ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。

次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 274）

- ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

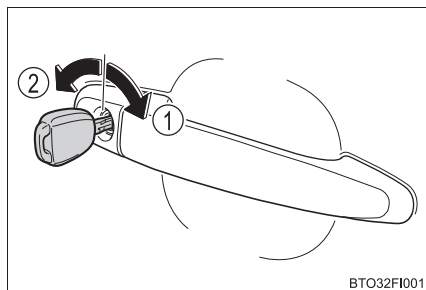
- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠・解錠

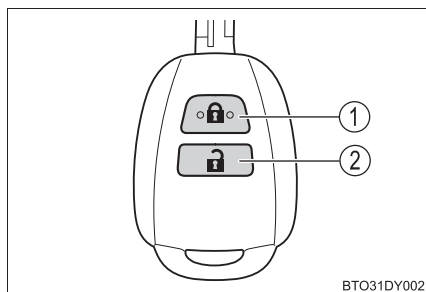
◆ キー

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



知識

■ 作動の合図

ワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ワイヤレスリモコンの作動条件

- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- パワースイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

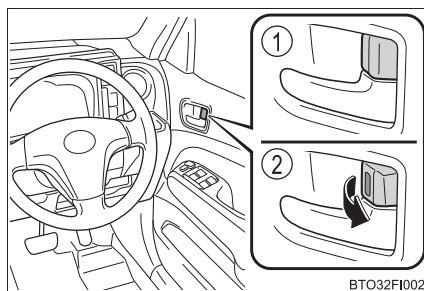
ワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内からの施錠・解錠

◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

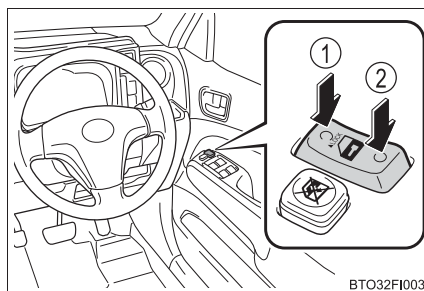
運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



BTO32FI002

◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



BTO32FI003

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

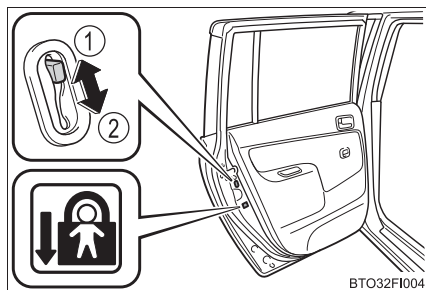
キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



BTO32FI004

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、リヤドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

- 次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。
 - ・ ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - ・ ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
 - ・ 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
 - ・ ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき
 - ・ リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乘せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

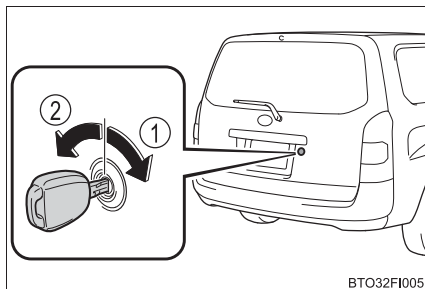
バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ キー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



◆ ワイヤレスリモコン

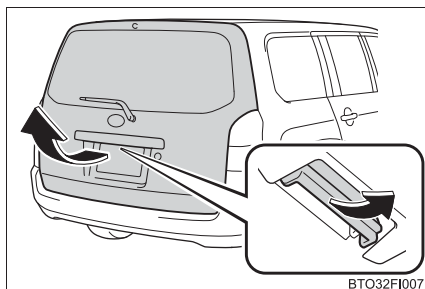
→ P. 88

車内からの施錠・解錠

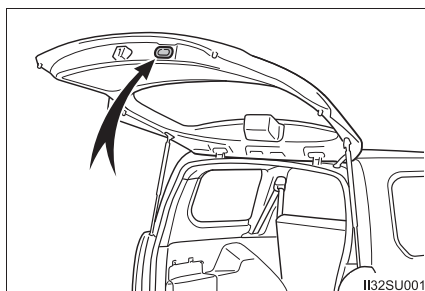
→ P. 89

バックドアを開けるには

バックドアハンドルを引いて、バックドアを持ち上げる

**バックドアを閉めるときは**

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

！ 警告**■ バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

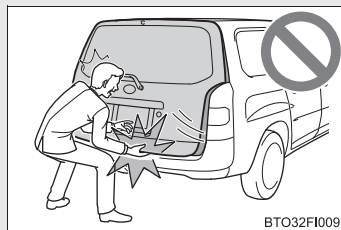
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

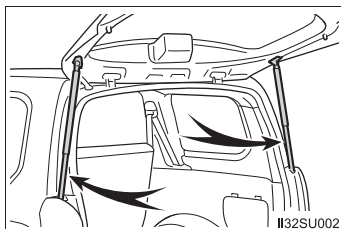


- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

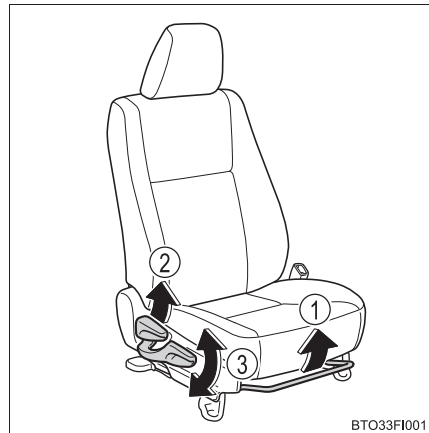
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■ リヤシートの背もたれを前に倒して使用するとき (クッション引き起こし式リヤシート装着車)

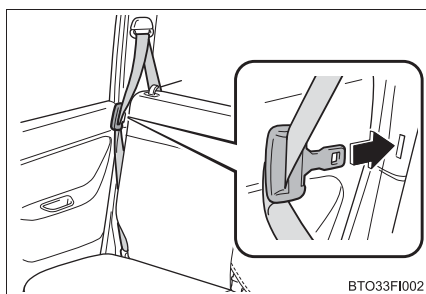
正しい運転姿勢がとれないなどでフロントシートをさらにうしろに下げたい場合は、リヤシートのクッションを取りはずしてください。(→ P. 100)

リヤシート

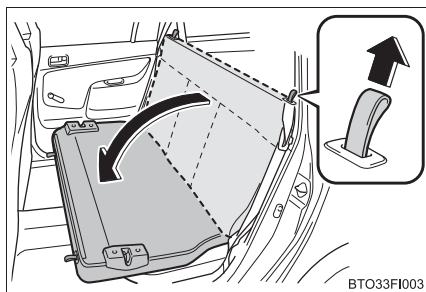
リヤシートは、背もたれを前に倒して折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す（クッション固定式シート）

- 1 フロントシートを前方に移動させる（→ P. 97）
リヤシートの背もたれを倒したときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する（→ P. 27）
- 3 左右席シートベルトのプレート
をベルトハンガーに格納する



- 4 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す

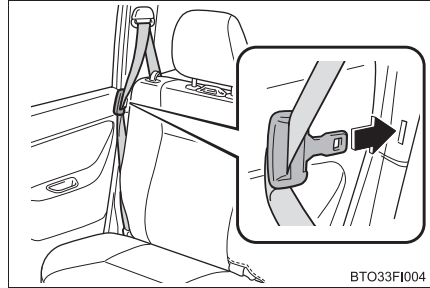


■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

背もたれを前に倒す（クッション引き起こし式シート）

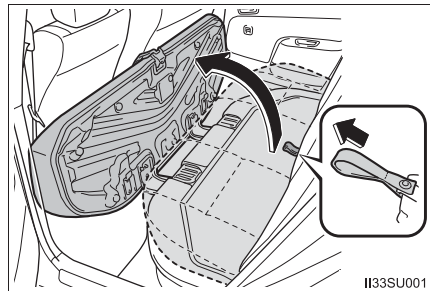
- 1 フロントシートを前方に移動させる（→ P. 97）
リヤシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する（→ P. 27）
- 3 左右席シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納する



- 4 ヘッドレストをはずす（→ P. 104）

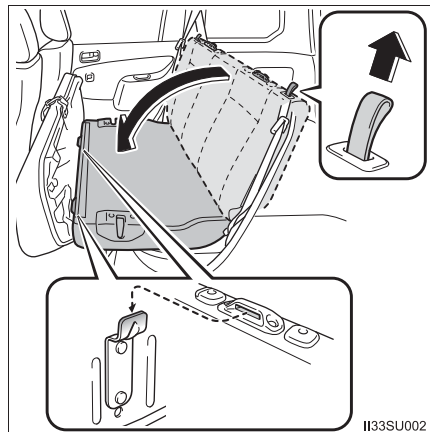
- 5 ストラップを持ったままクッションを引き起こす

クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。



- 6 シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す

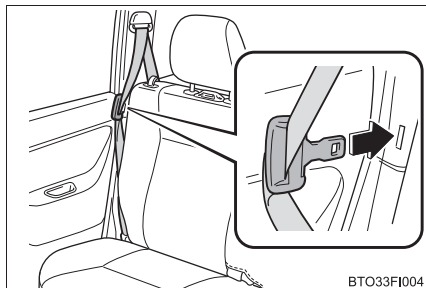
背もたれのホルダーがクッションのフックに固定されていることを確認してください。



■ クッションを取りはずすときは

必要に応じてクッションを取りはずすことができます。

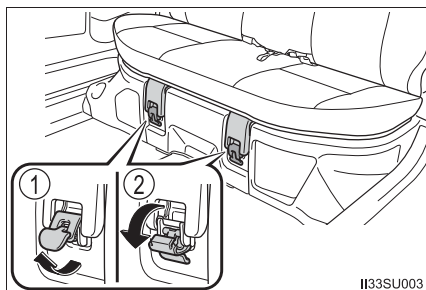
- 1 フロントシートを前方に移動させる (→ P. 97)
リヤシートのクッションを引き起こしたときに、あたらないようにします。
- 2 左右席シートベルトのバックルと中央席シートベルトを格納する (→ P. 27)
- 3 左右席シートベルトのプレートをベルトハンガーに格納する



- 4 ヘッドレストをはずす (→ P. 104)

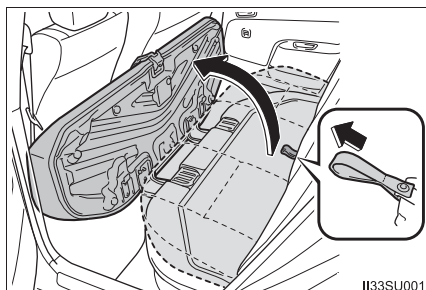
- 5 クッションヒンジ部のロックをはずす

- ① レバーを引き上げる
- ② フックをはずす

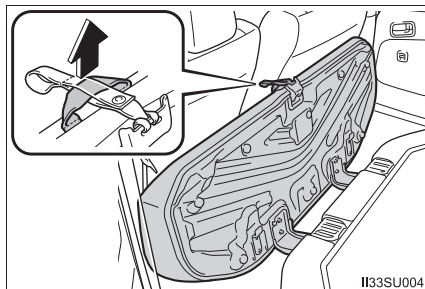


- 6 ストラップを持ったままクッションを引き起こす

クッションに手をかけず、ストラップを引いてクッションを引き起こしてください。

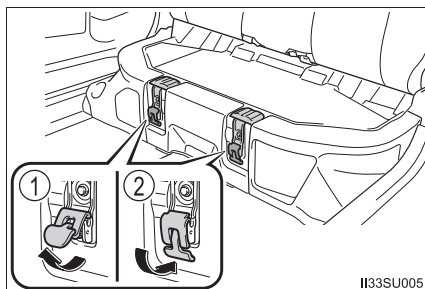


- 7** バンドを持ってクッションを引き上げ、取りはずす
ストラップではなく、バンドを持って引き上げてください。

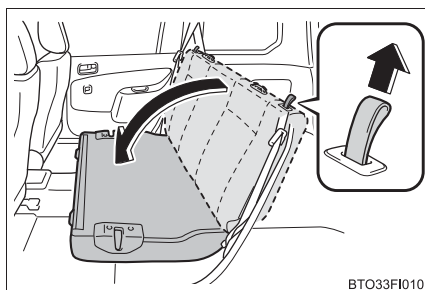


- 8** クッションヒンジ部をロックする

- ① フックをかける
- ② レバーを下げる



- 9** シート両端のストラップのいずれか片方を引いてロックをはずし、背もたれを前方に倒す



■ 背もたれをもどすときは

左右席シートベルトのプレートがベルトハンガーに格納されていることを確認してから、背もたれを起こしてロックしてください。

■ 取りはずしたクッションを取り付けるときは

- 1** ヒンジ部のロックをはずす
- 2** クッションを取り付ける
- 3** ヒンジ部をロックする

 警告**■ 背もたれを倒すときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作前に、周囲の安全を確認する
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

**■ クッションの引き起こし・取りはずしについて
(クッション引き起こし式シート)**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- クッションの引き起こしは、必ずストラップを持って行う
- クッションを取りはずした状態でリヤ席に乗車しない
- 取りはずしたクッションの上に座ったり、ものを置かない

■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを背もたれやクッションに挟み込まないようにする
- クッション引き起こし式シート：ヘッドレストをもとどおりに取り付ける

 注意**■ リヤシート下のラベルについて（クッション引き起こし式シート）**

→ P. 67

■ 背もたれを倒して荷物を積むときは（クッション引き起こし式シート）

必ずクッションを引き起こすか取りはずしてください。

クッションを引き起こさず、背もたれを倒すだけで荷物を積むと、シートが破損するおそれがあります。

■ 取りはずしたクッションを保管するときは（クッション引き起こし式シート）

再度取り付けて使用することができるように、なくしたり、破損させたりしないでください。

■ 車検の際は（クッション引き起こし式シート）

クッションを取り付けて検査を受ける必要があります。

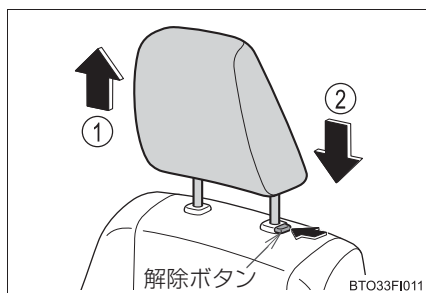
ヘッドレスト★

調整のしかた（フロントシート）

① 上げる

② 下げる

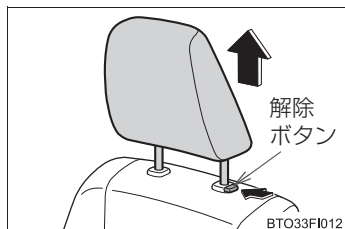
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

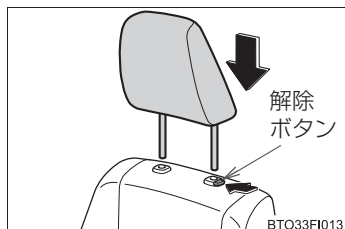


■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、固定される位置まで押し下げます。

フロントシート：

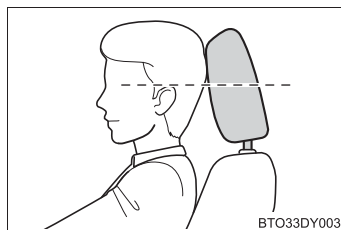
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

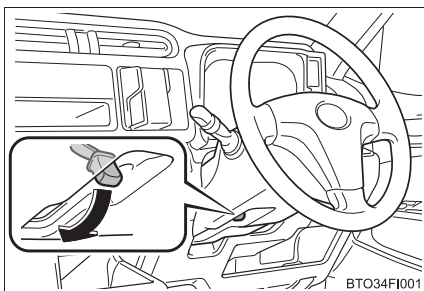
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

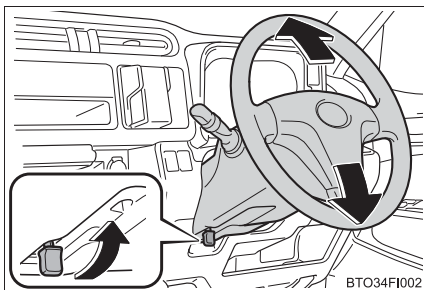
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



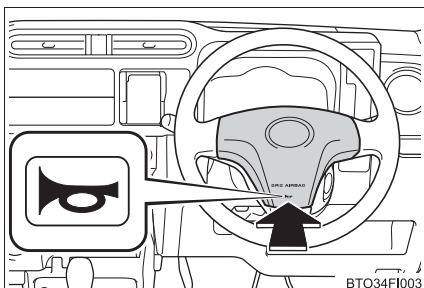
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

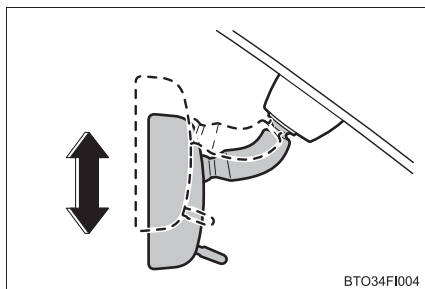
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

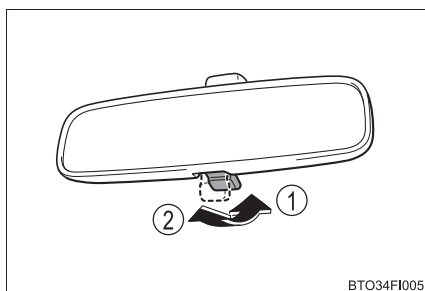


防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

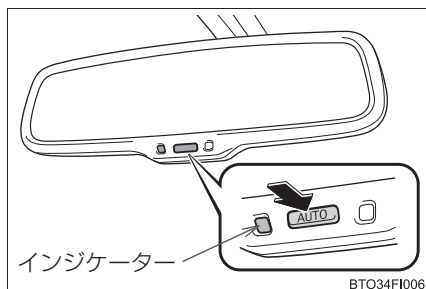
自動防眩機能の切り換え

ON / OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチを“ON”にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

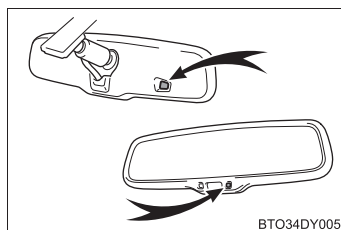
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



警告

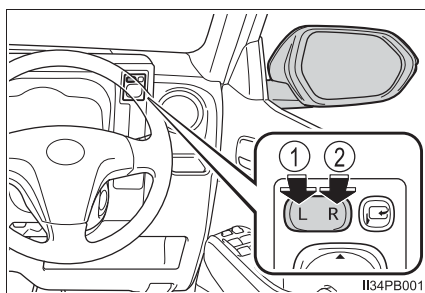
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

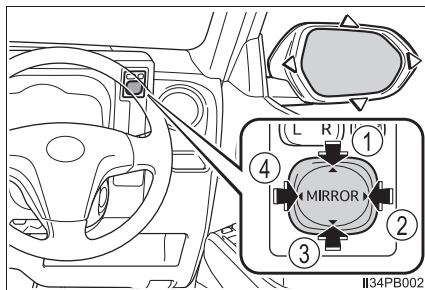
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

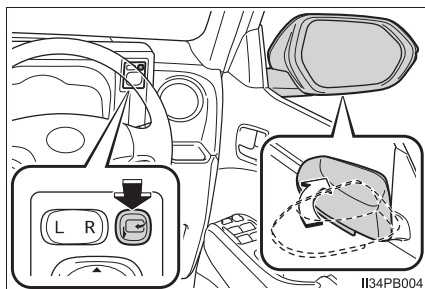
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 218）

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

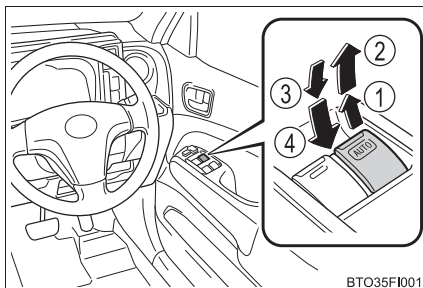
パワーウィンドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

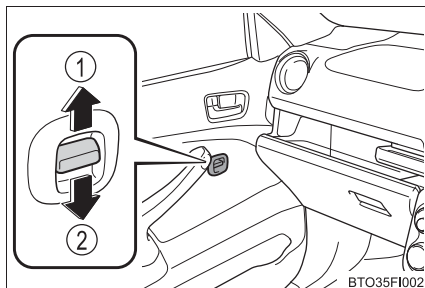
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

▶ 運転席



- ① 閉める
- ② 自動全閉
(運転席ドアガラスのみ) ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開
(運転席ドアガラスのみ) ※

▶ 運転席を除く

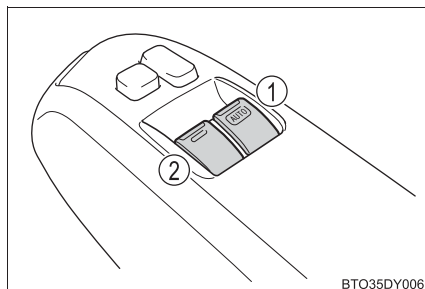


- ① 閉める
- ② 開ける

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

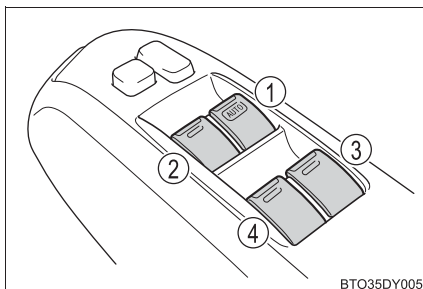
■ 運転席スイッチ

▶ 前席パワーウィンドウ装着車



- ① 運転席ドアガラススイッチ
- ② 助手席ドアガラススイッチ

▶ 前席+後席パワーウィンドウ装着車



- ① 運転席ドアガラススイッチ
- ② 助手席ドアガラススイッチ
- ③ 後席右側ドアガラススイッチ
- ④ 後席左側ドアガラススイッチ

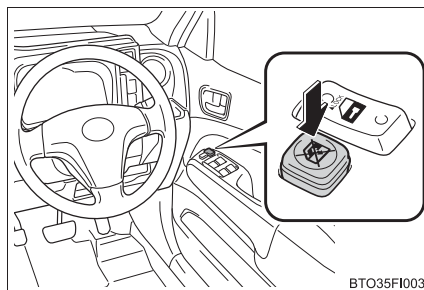
3

各部の操作

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

 警告

次のことを必ずお守りください。

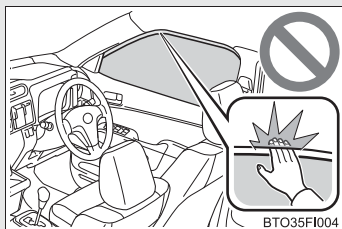
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 113）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはパワースイッチを“LOCK” にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席ドアガラス）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	116
荷物を積むときの注意	126

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	127
EV ドライブモード	131
トランスミッション	134
方向指示レバー	138
パーキングブレーキ	139

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	140
リヤフォグランプスイッチ ...	145
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	147
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	149

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	151
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	155
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	161
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報） ...	173
オートマチックハイビーム ...	178
先行車発進告知機能	182

4-6. 運転支援装置について

バックモニター	184
運転を補助する装置	195

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	202
寒冷時の運転	204

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 127

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 134)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 139)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 134)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 139)、シフトレバーを P にする (→ P. 134)
- 3 パワースイッチを“LOCK”にしてハイブリッドシステムを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※] 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 195)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→ P. 202)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。(→ P. 309)

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は B ポジションを含む）この場合、警告灯が点灯します。(→ P. 309)
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏み過ぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 196）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 298を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 134)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの異常など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを開閉式ワイドフリーラックなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 313 を参照してください。

 注意**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- ハイブリッドシステムの異常

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積みすぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

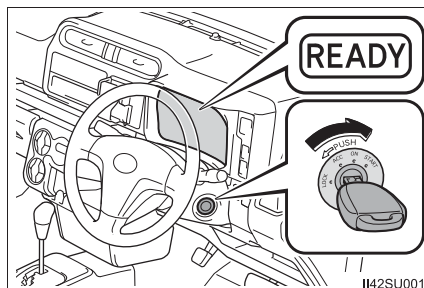
これらはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



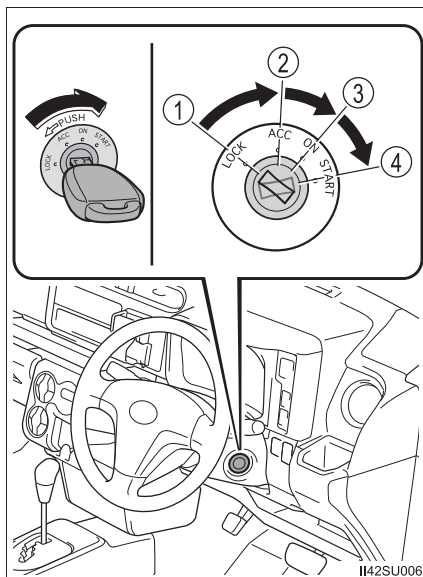
- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

パワースイッチの位置の切りかえ

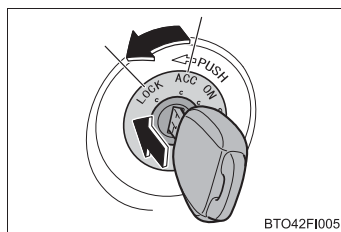
- ① “LOCK” (OFF)
 - ・ キーを抜き挿しできます。
(シフトレバーがPのとき、キーを抜き挿しできます)
 - ・ ステアリングロックがかかります。
- ② “ACC”
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
ハイブリッドシステムが始動できます。



知識

■キーを “ACC” から “LOCK” にまわすには

- ① シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- ② キーを押し込みながら “LOCK” までまわす



■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 60

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケータの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるときは

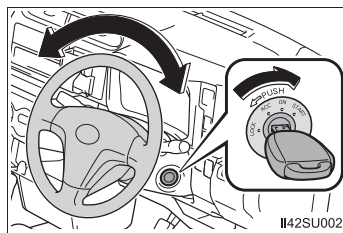
→ P. 309

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 68)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。

■ ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、パワー スイッチをまわしてください。



■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが“ACC” または“LOCK” のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。



警告

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はパワースイッチを“LOCK” にしないでください。

緊急時は走行中にハイブリッドシステムを停止し、“ACC” にしてください。

走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。(→ P. 298)

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

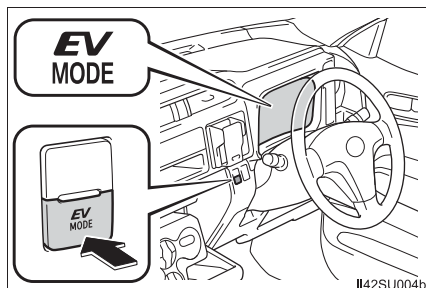
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



 知識**■ EV ドライブモードの切りかえについて**

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴ります。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→ P. 76)
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 76）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

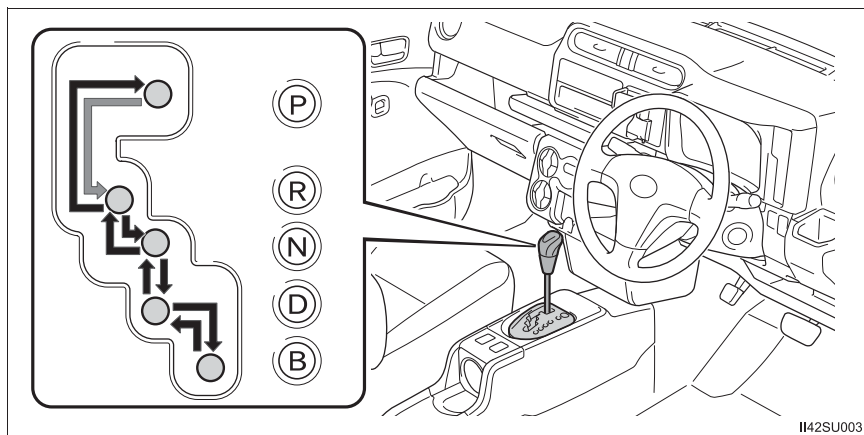
警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

エコドライブモードの選択

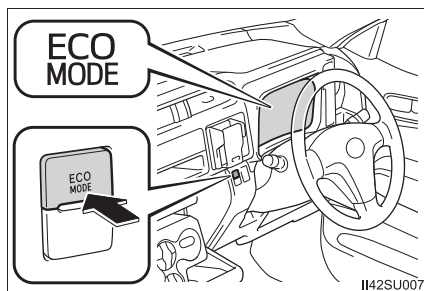
通常にくらべてアクセルペダルの踏みこみに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

エコドライブモードが ON の状態は、パワースイッチを OFF にしても記憶されています。



知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 117

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

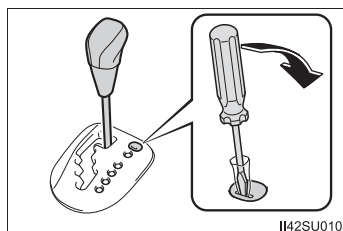
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

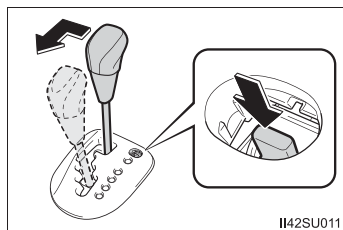
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。(→ P. 220) 空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジnbrレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

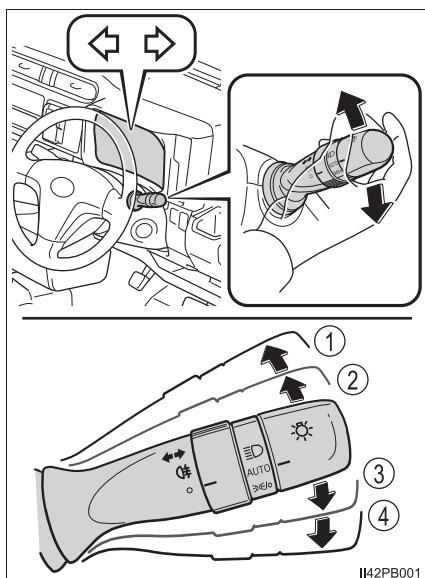
 注意**■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

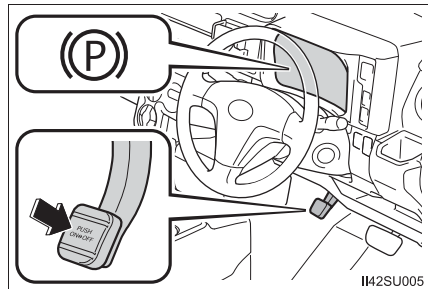
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 116

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 205

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

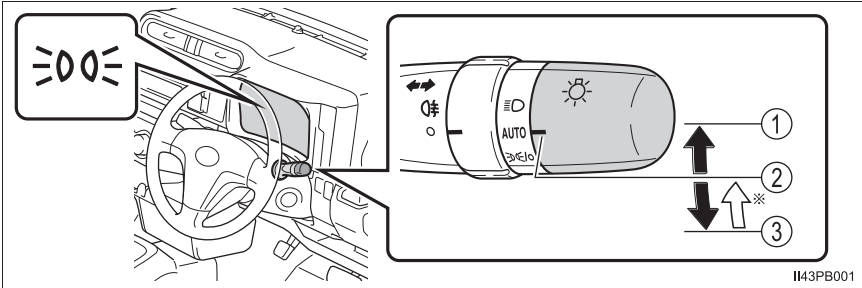
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に②  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
②  ※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

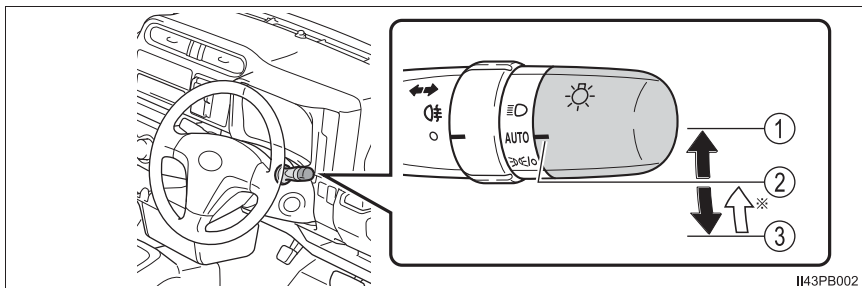
※¹ 操作するたびに、②  による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると②  による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀ スイッチを③ OFF/O の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① D か③ OFF/O の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



II43PB002

※ スイッチを③ OFF/O の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ OFF/O	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

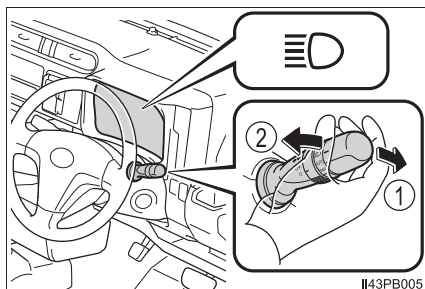
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時、ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

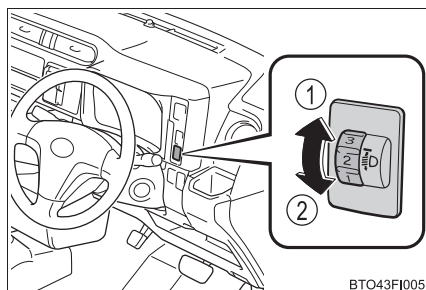


II43PB005

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



BTO43FI005

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者	ラゲージルーム満載時	3

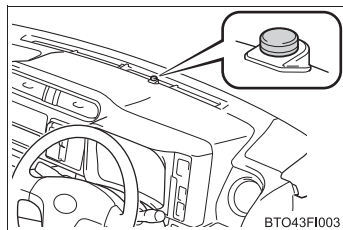
 知識

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチにキーが挿さっていない状態でヘッドランプ・尾灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるとランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが“LOCK”の状態ではヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- パワースイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 346)

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

リヤフォグランプスイッチ★

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

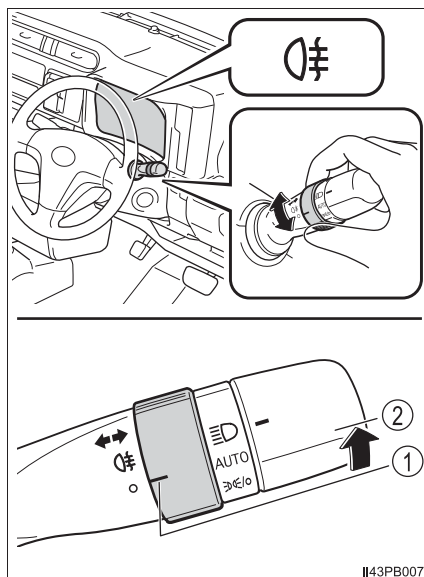
操作のしかた

① ○ 消灯する

②  点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■点灯条件

- ヘッドランプが点灯しているときに使用できません。
- リヤフォグランプが点灯しているときにヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
- リヤフォグランプが点灯しているときに車幅灯が消灯すると、リヤフォグランプも消灯します。

■リヤフォグランプについて

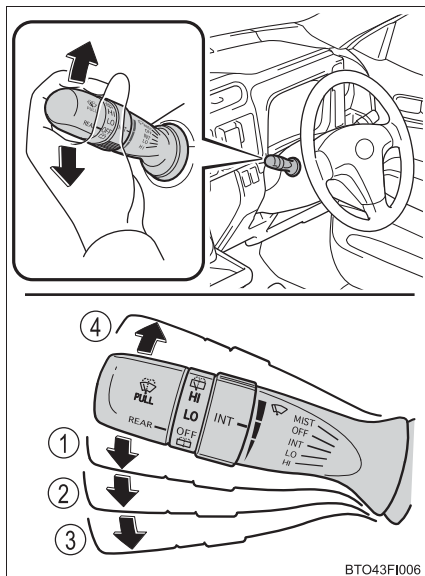
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

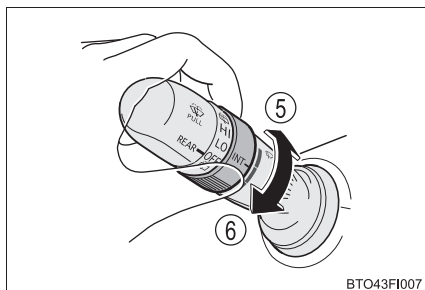
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

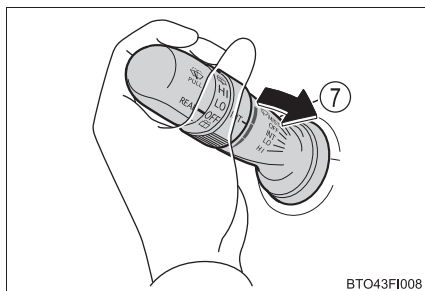


間欠作動（INT）を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調整式ワイパー装着車）

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑦ ウォッシャー液を出す()
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったらときは

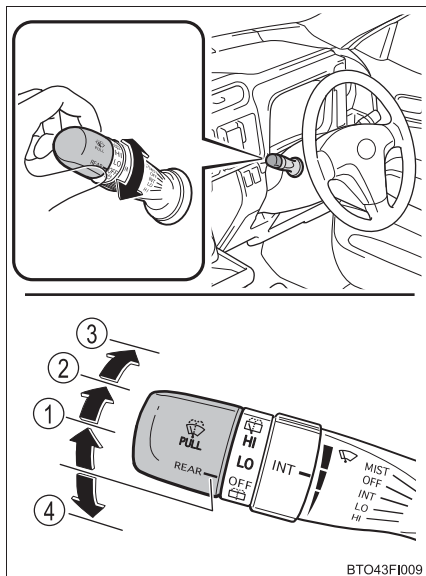
ノズルがつまったらときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

操作のしかた

次のように“REAR”スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① 間欠作動（LO）
- ② 通常作動（HI）
- ③ ウォッシャー液を出す（  ）
ワイパーが連動して作動します。
- ④ ウォッシャー液を出す（  ）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを“LOCK”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

 警告**■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

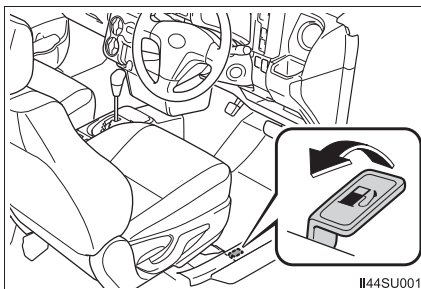
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ガソリンエンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

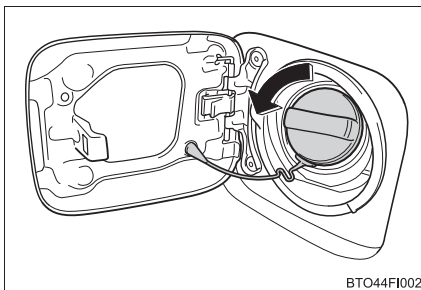
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを引き上げて、給油扉を開ける



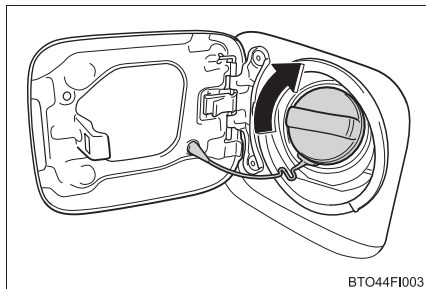
- 2 キャップをゆっくりまわして開ける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。



BTO44FI003

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense ★

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 161

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 173

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 178

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 182



警告

■ Toyota Safety Sense について

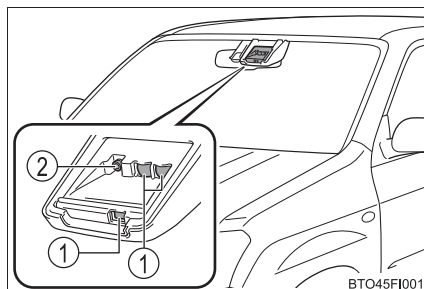
Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 前方カメラ





警告

■前方センサーについて

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007

Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

警告

■ 前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

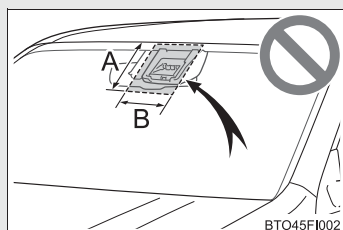
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

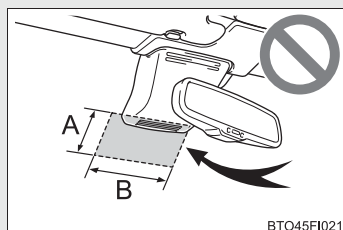
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 218）

● 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る 水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

 警告

- 前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

■ フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇りやすい状況のときには、ヒーターにより前方センサー周辺のフロントウインドウガラスが熱くなっていることがあり、ふれるとやけどをするおそれがあります。

 知識

■ PCS 警告灯が点滅または点灯したとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

● 次の状況が改善されると PCS 警告灯が消灯し、作動可能状態になります。

対処を行っても PCS 警告灯が点滅、または点灯したままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・ 汚れや付着物を取り除く。 ・ 前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 218）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外るとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周囲の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

● 周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯が点滅、または点灯したままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）★

進路上の作動対象（→ P. 161）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 165）

システムの作動対象

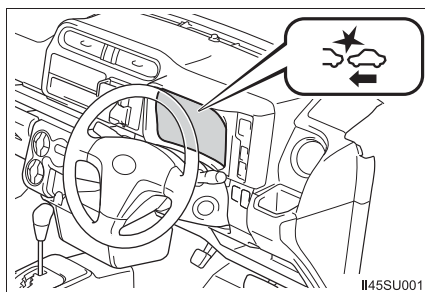
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 作動表示灯が点滅し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→ P. 167
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 170
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→ P. 167)
 - ・ プリクラッシュセーフティを OFF にする (→ P. 165)

 警告**■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 261, 266）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、メーターにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

パワースイッチを“ON”にするたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

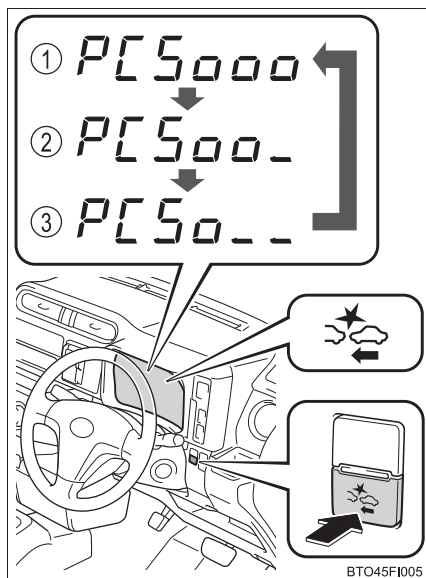


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと PCS 作動表示灯が点灯し、メーターに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

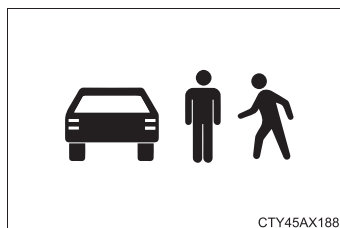
- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 170）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

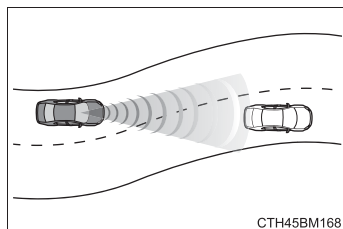
- アクセルペダルを強く踏み込む ※
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

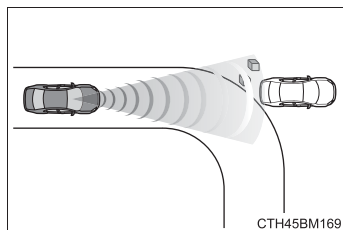
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



CTH45BM168

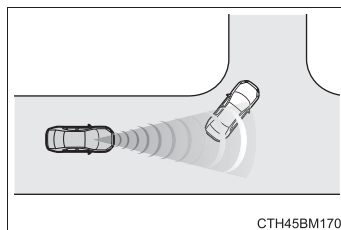
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



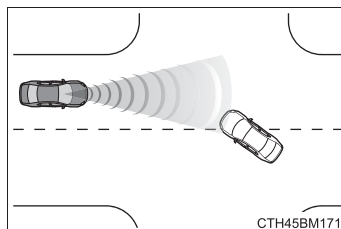
CTH45BM169

- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

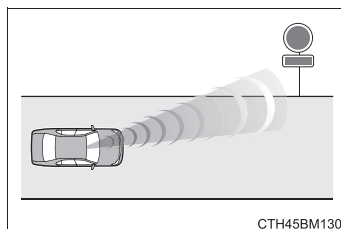
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



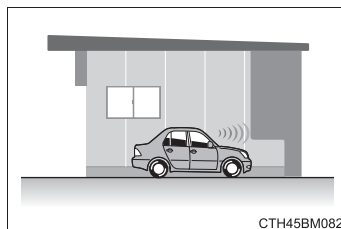
- ・ 右左折時に作動対象とすれ違ったとき
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



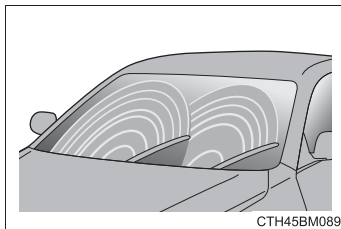
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



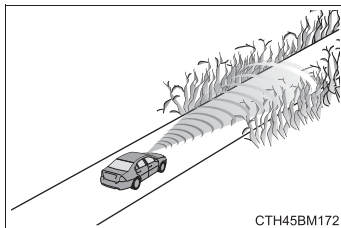
- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



- ・ フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

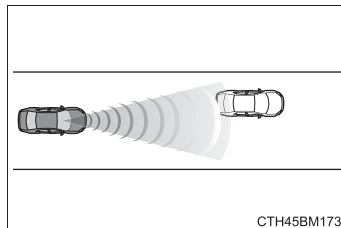


- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

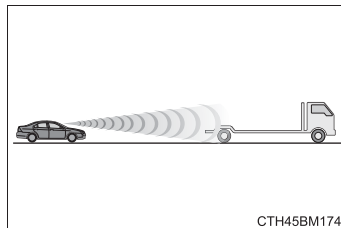
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



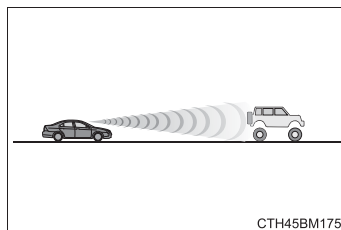
CTH45BM173

- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両が自転車・オートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

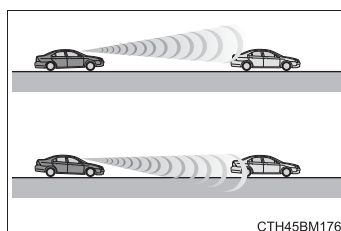


CTH45BM174

- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

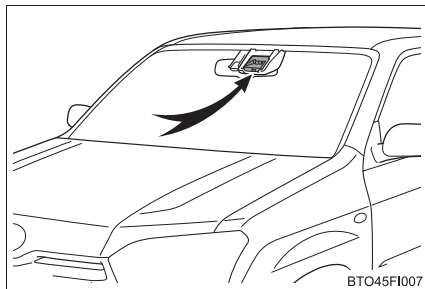
- VSC の作動を停止（→ P. 197）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯します。

LDA (レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報) ★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

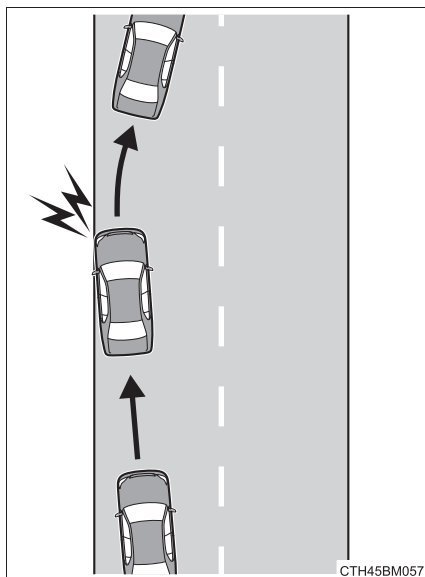
LDA は、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

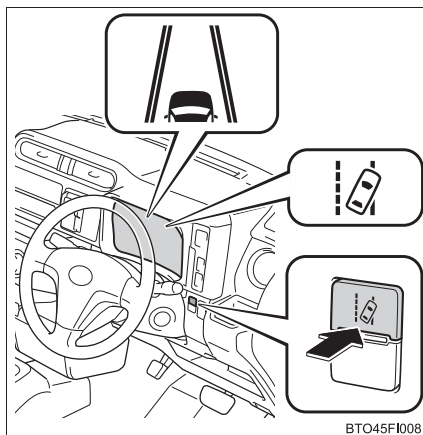
設定のしかた

LDAを使用するにはLDAスイッチを押す

メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

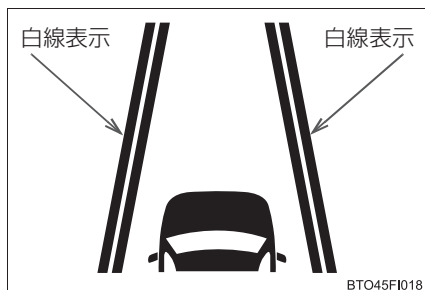
OFFにするには再度 LDA スイッチを押します。

いったんLDAをON/OFFすると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



BTO45FI008

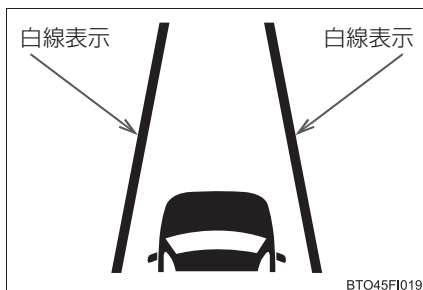
マルチインフォメーションディスプレイ表示



BTO45FI018

白線表示が 2 本線のとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。



BTO45FI019

白線表示が 1 本線のとき：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 308）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 176）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再び作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、PCS 警告灯が点滅することがあります（→ P. 160）。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 156）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路びょう）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■LDA 表示灯が黄色で点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■LDA の警報感度を切りかえるには

→ P. 80

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

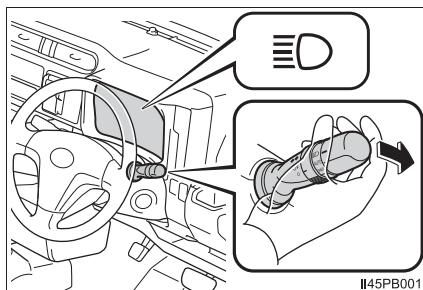
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

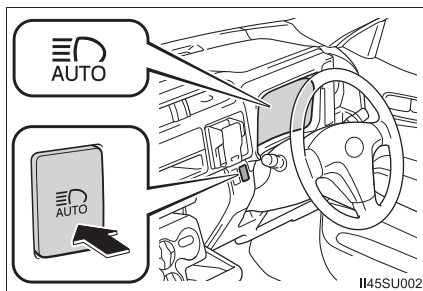
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを **AUTO** または  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

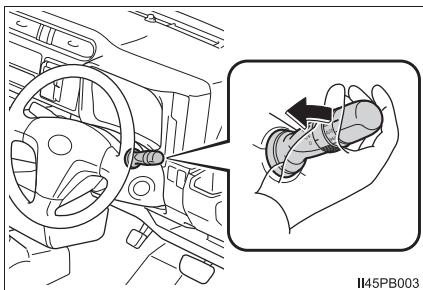
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。



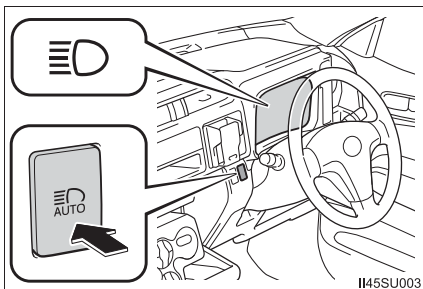
II45PB003

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



II45SU003

 知識**■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方センサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号機・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・前方センサーの温度が非常に高いとき
 - ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
 - ・急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・自車のヘッドランプが破損しているときや、汚れているとき
 - ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■オートマチックハイビーム表示灯が黄色で点灯したとき

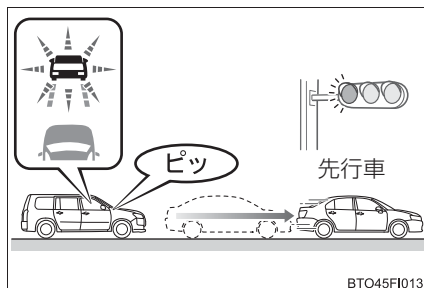
システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

シフトレバーが P・R 以外で、ブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズモード（→ P. 80）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

- 先行車発進告知機能の ON / OFF
- 先行車発進告知機能の告知タイミング

バックモニター★

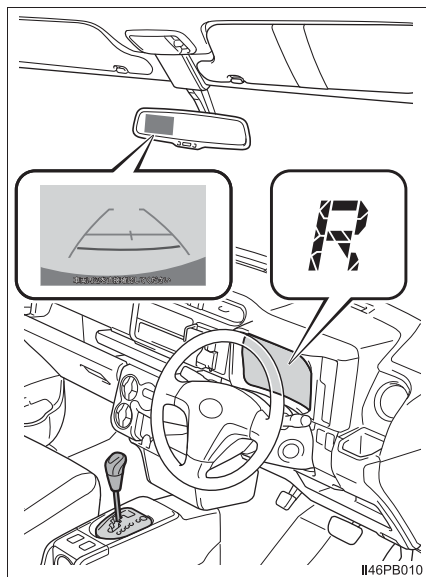
車両後方の映像とガイド線をモニター画面に映し出し、駐車時などの後退操作を補助する装置です。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パワースイッチが“ON” のとき、シフトレバーを R にすると、バックモニターの画面が表示されます。

次のとき、バックモニターの画面が解除されます。

- ・ シフトレバーを R 以外にしたとき
- ・ バックモニターの画面を表示して、5 分が経過したとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

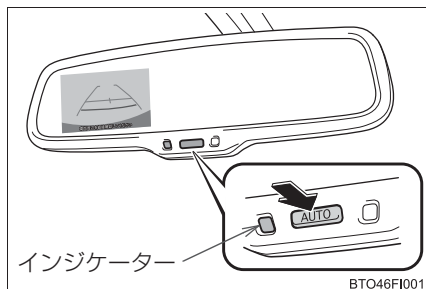
画面の表示／非表示

バックモニターの画面が表示されているとき、インナーミラーのAUTO ボタンを押して、画面のON モードと OFF モードを切りかえることができます。

ON モード：画面が表示され、緑色のインジケーターが点灯します。

OFF モード：画面が非表示になり、橙色のインジケーターが点灯します。

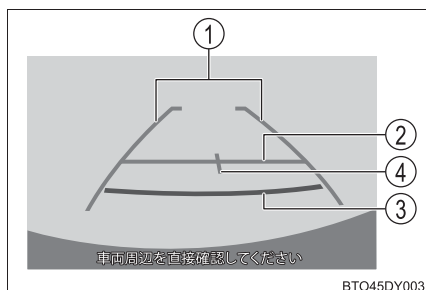
パワースイッチを“LOCK” から “ON” にすると、バックモニターの画面は ON モードになります。



画面の見方について

ガイド線は画面に表示されます。ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。

- ① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
実際の車幅より広く表示します。
- ② 距離目安線（青色）
バンパー後端から約1m先を示します。
- ③ 距離目安線（赤色）
バンパー後端から約0.5m 先を示します。
- ④ 車両中央線（青色）
車幅の中心を示します。

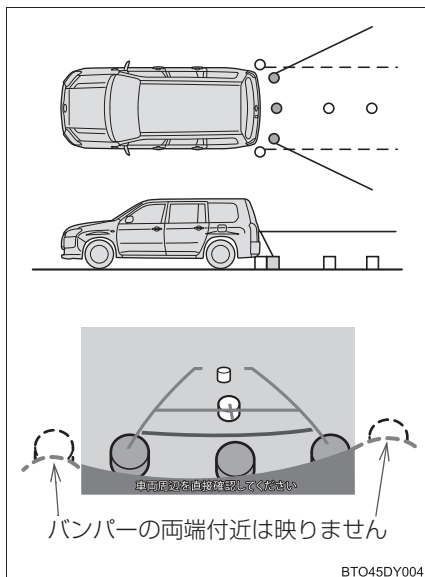


バックモニターの注意点について

■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、バンパー後端から車の後方が映ります。

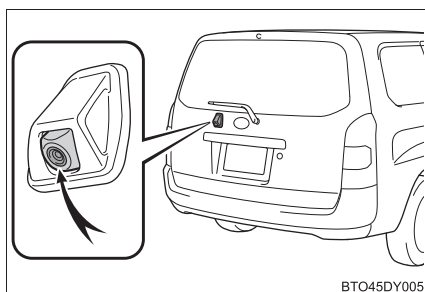
- ・ 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- ・ バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- ・ カメラのレンズの特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ・ カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- ・ 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。



BTO45DY004

■ カメラについて

バックモニターのカメラは、トヨタエンブレムの左側にあります。



BTO45DY005

● カメラのお手入れについて

カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

■ 画面と実際の路面との誤差について

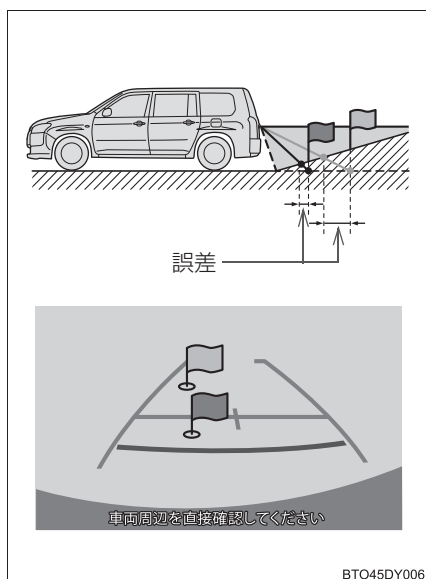
距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

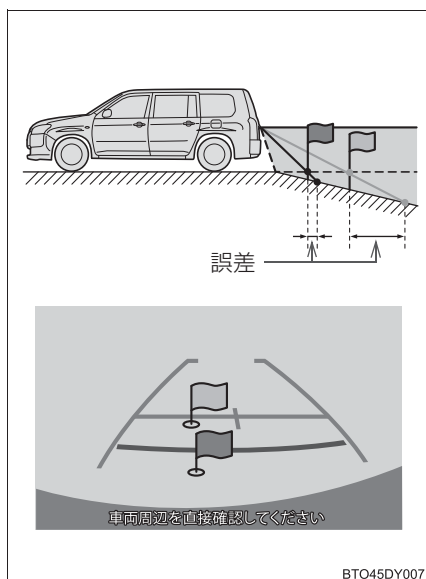
● 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



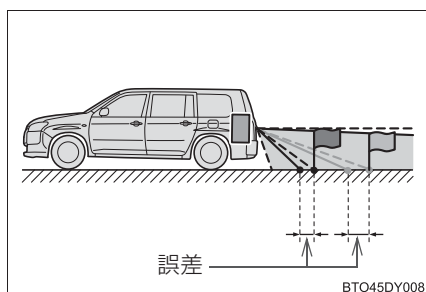
- 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



- 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

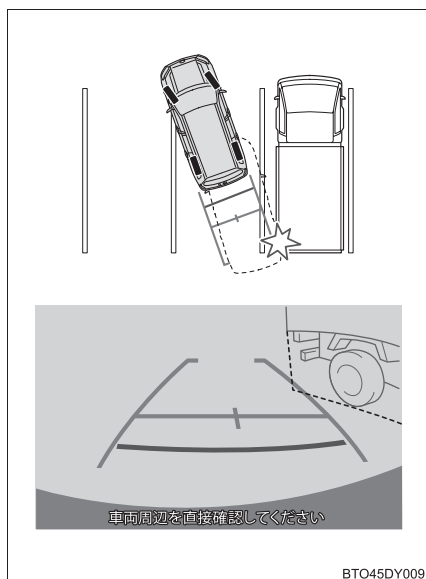


■ 立体物が近くにあるとき

車幅延長線・距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物の距離を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

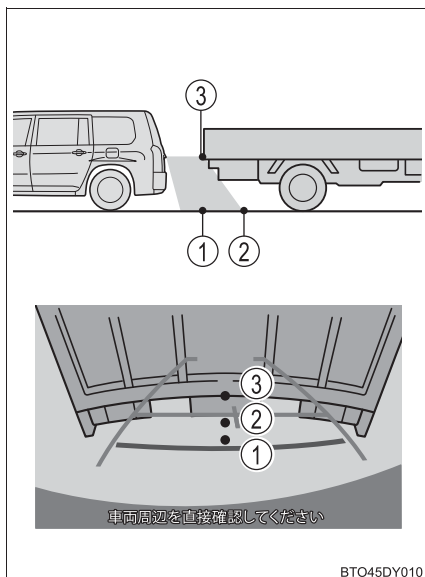
● 車幅延長線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が車幅延長線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



● 距離目安線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により ② の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には ① の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では ①、②、③ の順に近く見えますが、実際の距離は ① と ③ は同じ距離で、② は ① と ③ より遠い距離にあります。



知っておいていただきたいこと

■ 故障とお考えになる前に

下記のような症状になったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
□ 画面が見にくい	
・ 夜間など暗いところで使用するとき ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき ・ 外気温が低いとき ・ カメラに水滴が付いたとき ・ 雨天時など湿度が高いとき ・ カメラ付近に異物（泥など）が付いたとき ・ カメラにすり傷が付いたとき ・ 白壁や明るいものが画面に映り込んだとき ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用したとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、バックモニターをご使用ください）
□ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着しているとき	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
□ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が加わったとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
□ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれているとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・ 車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ・ 傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

 知識

■バックモニターを使用するときは

インナーミラーの防眩機能が解除されます。

■バックモニターの設定について

パワースイッチが“ON” かつシフトレバーがRのとき、下記の設定ができます。

●画面を継続的に非表示にするには

AUTO ボタンを 12 秒以上押し続けると、次のように画面が切りかわり、画面が継続的に非表示になります。

- ・ ボタンを押し続けると、画面が非表示になり、約 6 秒後にいったん画面が表示されます。それから約 6 秒後に画面が非表示になり、インジケーターが橙色に点灯します。
- ・ パワースイッチを“LOCK” から“ON” にしても画面が表示されなくなります。

●画面を表示するには

AUTO ボタンを押します。（インジケーターが緑色に点灯します）

 警告**■バックモニターを使用するときは**

バックモニターは、後退操作を補助する装置です。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。
- 駐車時の道路事情・路面や車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。十分理解したうえで、バックモニターをご使用ください。
- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。
- 次のような状況では、バックモニターを使用しないでください。
 - ・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
 - ・タイヤチェーンを使用しているとき
 - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・カーブや坂道など平坦・まっすぐではない道路
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。特に動いている物の映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。
- タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→ P. 186)

 注意**■カメラの取り扱いについて**

- バックモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラレンズ以外の黒色部分は樹脂でできていますので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

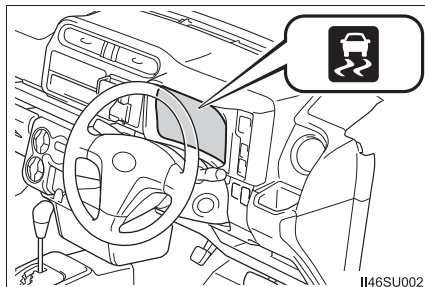
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



II46SU002

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がら

ず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すこと

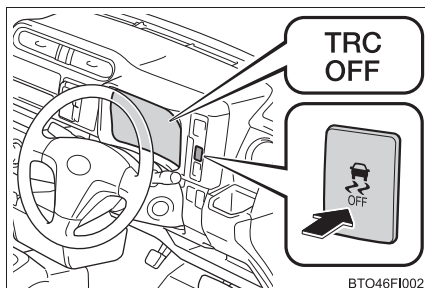
により、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動

可能状態にもどります。



BTO46FI002

 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、PCS 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。
（→ P. 172）

■ を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを“LOCK”（OFF）にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を抑えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 警告**■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 344）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 135)

◆ ハイブリッドシステムインジケータの利用

マルチインフォメーションディスプレイ内のハイブリッドシステムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 82)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときはシフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりまますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 261）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

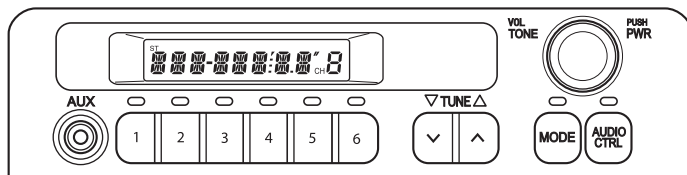
オーディオ

5

5-1. オーディオの基本操作	
オーディオの種類.....	208
5-2. オーディオの使い方	
快適に聞くために.....	209
5-3. ラジオの使い方	
ラジオの使い方.....	210
5-4. 外部入力接続機器の使い方	
AUX 端子（外部入力接続） の使い方.....	212
5-5. アンテナの取り扱い	
アンテナ	214

オーディオの種類★

AM / FM ラジオ



II51PB001

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音聞こえることがあります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

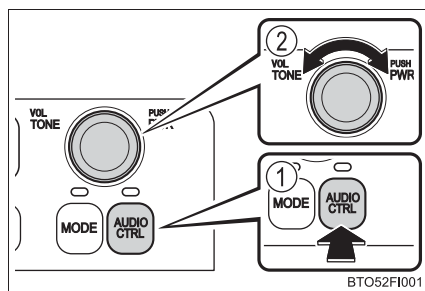
快適に聞くために★

音質や音量バランスの設定を変更することができます。

- ① 調整したいモードを表示する
- ② 音質と音量バランスの設定を変更する

5 秒間操作を行わないと、画面がもどります。

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。



BTO52FI001

設定を変更するには

■ 調整モードの切り換え

AUDIO CTRL を押して調整したいモードを選ぶ

“BAS” ・ “TRE” ・ “BAL” の設定を変更できます。

■ 音質・音量バランスの調整



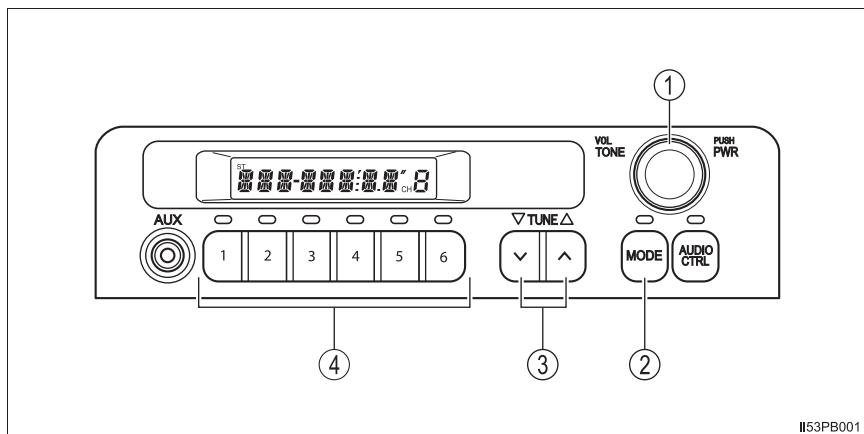
をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
低音	BAS	- 5 ~ + 5	弱	強
高音	TRE	- 5 ~ + 5		
左右音量 バランス	BAL	L7 ~ R7	右側小	左側小

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラジオの使い方★

ラジオを聞くために“RADIO”、“AM”または“FM”が表示されるまで **MODE** を押してください。



II53PB001

- ① 電源の ON / OFF：押す
音量の調整：まわす
- ② AM / FM の切りかえ
- ③ 周波数の調整
自動選局するときは、0.8 秒以上 1.5 秒未満押す
もう一度押すと解除されます。
- ④ 選局

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

放送局を記憶させる

- 1  (高い周波数)、または  (低い周波数) を押す、または
-  (高い周波数) か  (低い周波数) を “ピッ” と音が鳴るまで押し続けて、お好みの放送局を探す
- 2 記憶させたい  1 ~  6 を “ピッ” と音が鳴るまで押し続ける

 知識**■補機バッテリーとの接続が断たれたときは**

 1 ~  6 に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

車の向きにより、アンテナの向きもかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

AUX 端子（外部入力接続）の使い方★

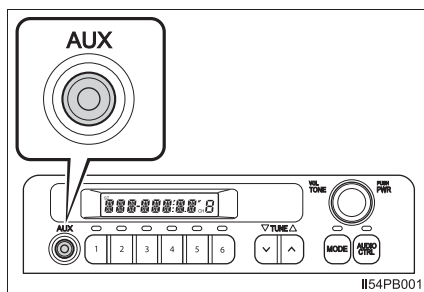
ポータブルオーディオプレーヤーを車両のスピーカーから聞くことができます。

“AUX” が表示されるまで **MODE** を押してください。

ポータブルオーディオプレーヤーとの接続

ポータブルオーディオプレーヤーを接続する

接続したポータブルオーディオプレーヤーの電源が入らない場合は、電源を入れます。



知識

■ ポータブルオーディオの操作について

音量の調整をするときは、車両のオーディオで調整してください。
その他の操作は、ポータブルオーディオで行ってください。

■ ポータブルオーディオの電源について

車両のアクセサリソケットに接続して使用すると、再生時にノイズが発生することがあります。ポータブルオーディオに付属のバッテリーなどを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 走行中の警告**

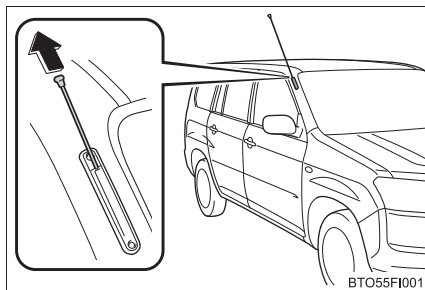
運転中にポータブルオーディオプレーヤーを操作しないでください。

 注意**■ ポータブルオーディオプレーヤーや AUX 端子の故障を防ぐために**

- 炎天下など、車室内が高温になるため、ポータブルオーディオプレーヤーを車室内に放置しないでください。
- ポータブルオーディオプレーヤーが接続されているときに、ポータブルオーディオプレーヤーの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。
- AUX 端子に異物などを入れないでください。

アンテナ

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



⚠ 注意

■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

室内装備・機能**6****6-1. エアコン・デフォグガーの
使い方**

オートエアコン.....	216
シートヒーター.....	222

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	224
・フロントルームランプ・ リヤルームランプ	225

6-3. 収納装備の使い方

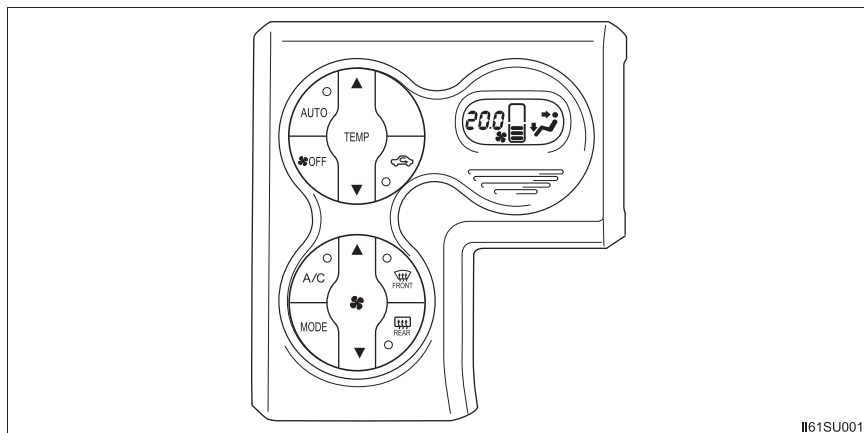
収納装備一覧.....	226
・セタートレイ （ドリンクホルダー付）.....	228
・マルチホルダー.....	230
・インパネトレイ.....	233
・開閉式 ワイドフリーラック	234
・センターボックス.....	234
・カップホルダー・ ボトルホルダー.....	235
・オーブントレイ・ ポケット・小物入れ.....	237

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	239
・サンバイザー	239
・時計	240
・アクセサリソケット・ アクセサリコンセント	241
・充電用 USB 端子	243
・インパネテーブル.....	245
・コートフック	247

オートエアコン

エアコン操作について

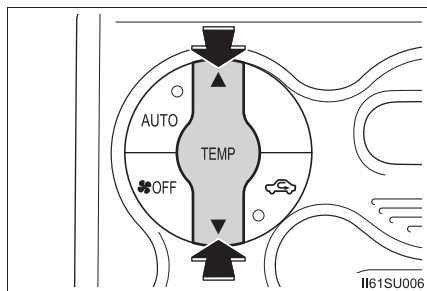


II61SU001

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは
“TEMP” の “▲” 側を、下
げるときは “▼” 側を押す

“A/C” が押されていない場合は、
送風または暖房で使用できます。

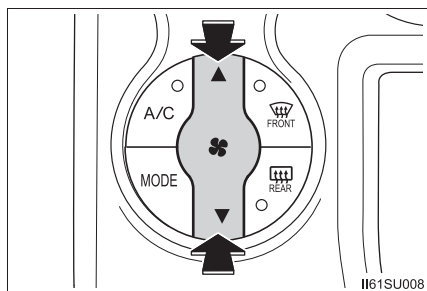


II61SU006

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  の “▲”
側を、減らすときは “▼” 側を
押す

“OFF” を押すと、送風が止まりま
す。



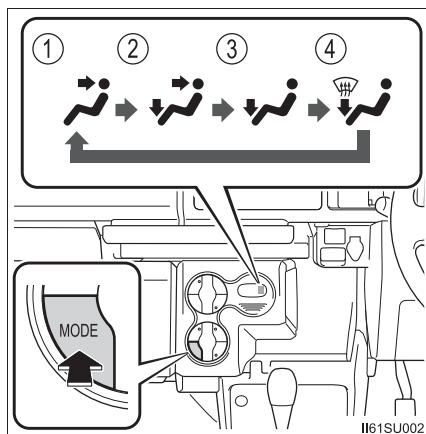
II61SU008

■ 吹き出し口を切りかえる

“MODE” を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

- 1 “AUTO” を押す

表示灯が点灯し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

- 3 “A/C” を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。

ON のときは表示灯が点灯します。

- 4 送風を止めたいときは、“OFF” を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

作動中は表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

- ・ 押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
- ・ リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的にオフになります。

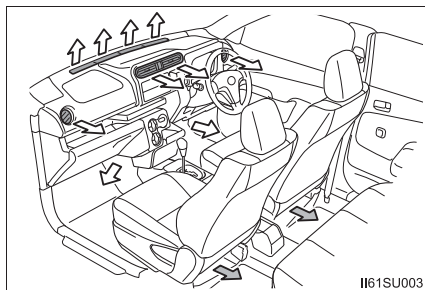
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

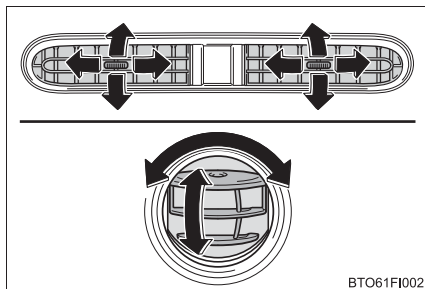
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

←：寒冷地仕様車のみ

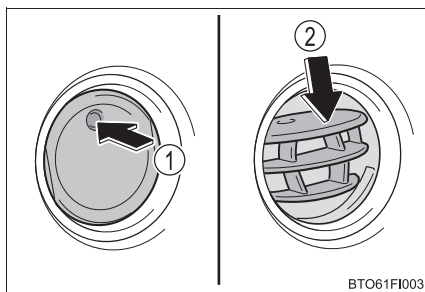


■ 風向きの調整



■ 吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO” を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

“A/C” を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコドライブモード (→ P. 135) のエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを解除する
 - ・ 設定温度を調整する

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 267

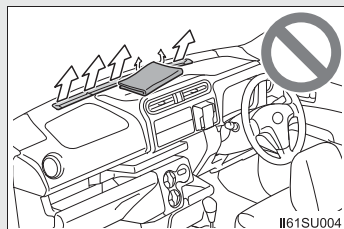
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 346)

警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウィンドウデフォグター&ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

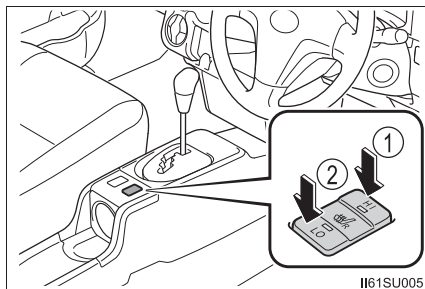
ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

シートヒーター★

シートを温めることができます。

- ① HI（強）
- ② LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 使用しないとき

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■ やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常加熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

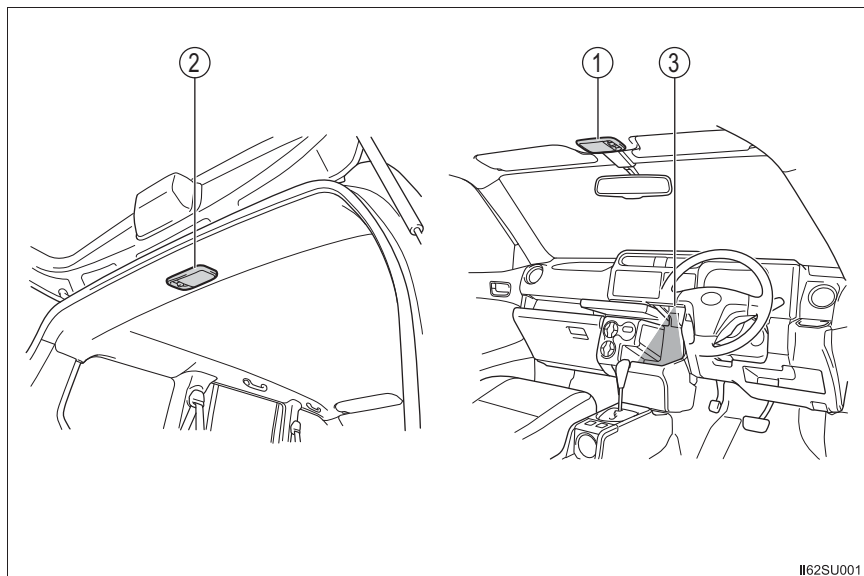
 注意**■ シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

室内灯一覧



I62SU001

① フロントルームランプ

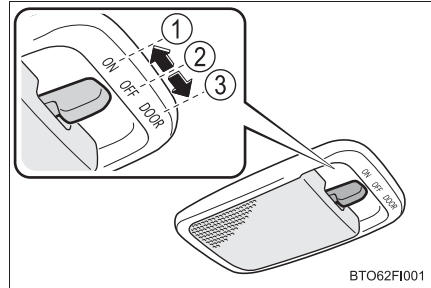
② リヤルームランプ

③ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明
（車幅灯が点灯しているとき）

フロントルームランプ・リヤルームランプ

- ① ランプを点灯する
- ② ランプを消灯する
- ③ ドアの開閉作動に連動して、ランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

リヤルームランプは、バックドアの開閉作動にのみ連動します。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により、フロントルームランプが自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でフロントルームランプのスイッチがドアポジションのときに、フロントルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

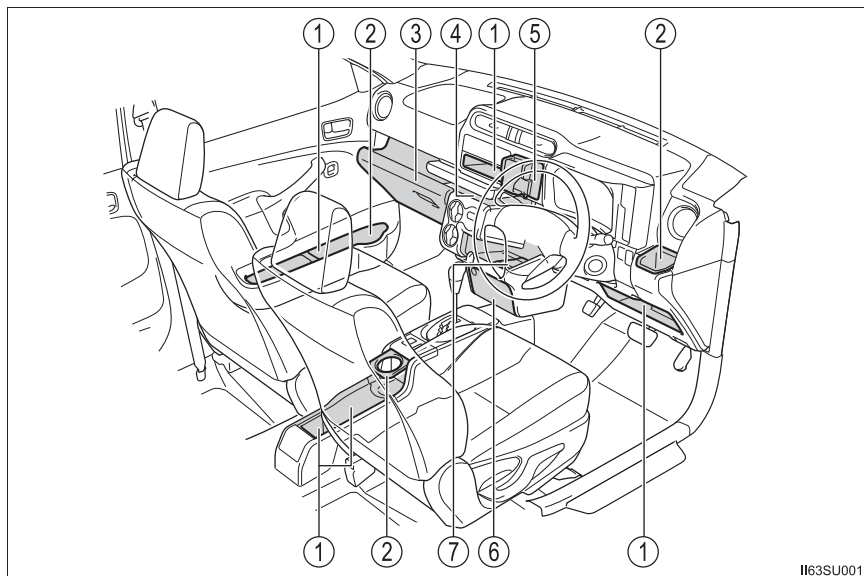
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 346）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



II63SU001

- ① オープントレイ・ポケット・小物入れ (→ P. 237)
- ② カップホルダー・ボトルホルダー (→ P. 235)
- ③ 開閉式ワイドフリーラック (→ P. 234)
- ④ インパネトレイ (→ P. 233)
- ⑤ マルチホルダー (→ P. 230)
- ⑥ センターボックス (→ P. 234)
- ⑦ センタートレイ (ドリンクホルダー付) (→ P. 228)

 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

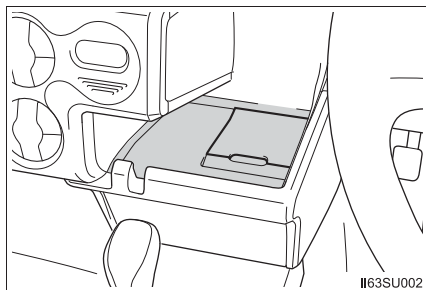
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

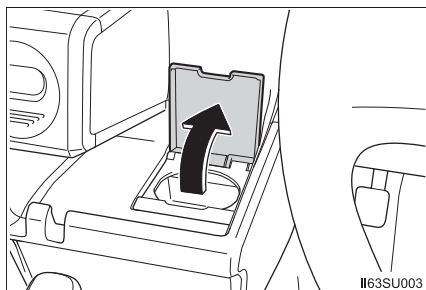
- 収納装備を使わないときは、必ずフタを閉じたり、格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタや収納装備に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

センタートレイ（ドリンクホルダー付）**■ オープントレイとして使う**

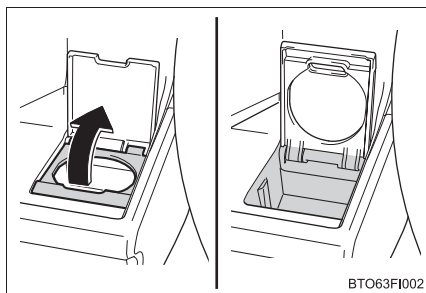
フタを閉める

**■ カップホルダーとして使う**

フタを開ける

**■ 1L 紙パックホルダーとして使う**

フタとカップホルダーを開ける



知識

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 236

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

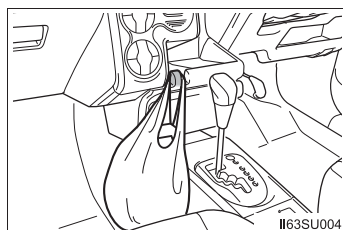
- 紙パックのフタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- 紙パックの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

■ センタートレイ（ドリンクホルダー付）照明

車幅灯が点灯しているとき、照明が点灯します。（→ P. 224）

■ 買い物フック

センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックには、袋などをかけることができます。



警告

■ オープントレイとして使うときは

→ P. 238

■ カップホルダーとして使うときは

→ P. 236

■ 1L 紙パックホルダーとして使うときは

1L 紙パックホルダーには紙パック以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

注意

- 1L 紙パックホルダーとして使うときは、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 破損を防ぐために、センタートレイ（ドリンクホルダー付）左側のフックに 3kg をこえるものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

マルチホルダー

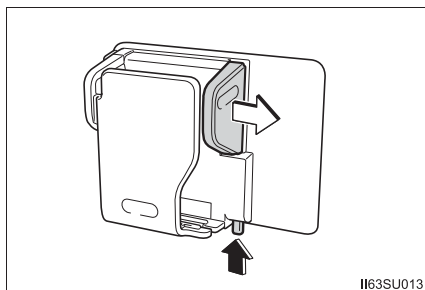
マルチホルダーは、スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを収納するための装備です。

携帯機器などを固定して画面を見たり操作するための装備ではありません。

■ スマートフォンなどの携帯機器やメモ用紙などを置く

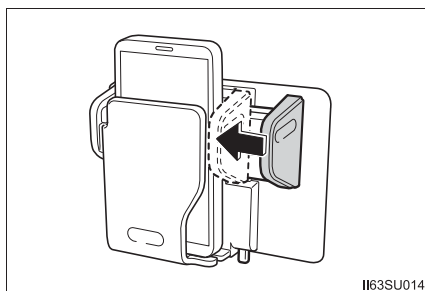
1 ボタンを押す

アジャスターが開きます。



2 アジャスターを閉める

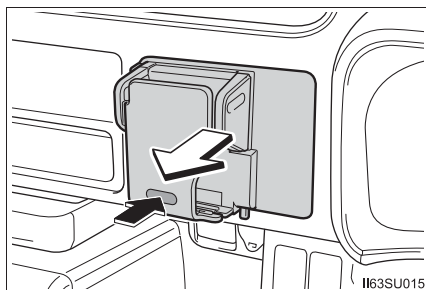
置いたものの大きさに合わせて閉めてください。



■ 小物入れとして使う

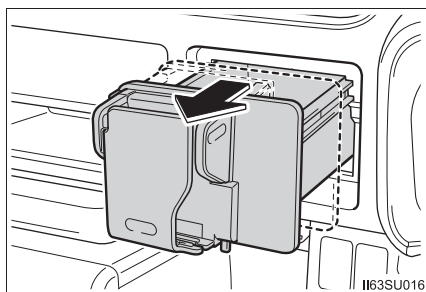
1 押して開ける

小物入れが少し開きます。



2 手前に引く

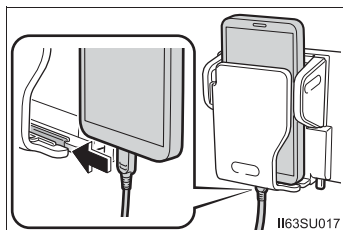
ストッパーにあたり止まるまで、小物入れを引き出すことができます。



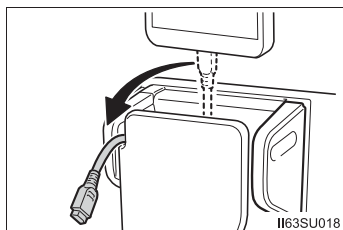
知識

■ スマートフォンなどの携帯機器を置くときは

- 携帯機器に接続したケーブルは、マルチホルダー下部のスリットから出しておくことができます。ケーブルは、スリット右側から通すことができます。



- マルチホルダーから携帯機器を持ち出すときは、はずしたケーブルをホルダー左上のくぼみに引っかけておくことができます。



 警告

- アジャスターの操作時などマルチホルダーを使用するときは、ワイパー&ウォッシャースイッチに手があたらないように気を付けてください。
手があたりワイパー&ウォッシャーが不意に作動すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、走行中は必ず閉じてください。
開いたマルチホルダーに手があたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

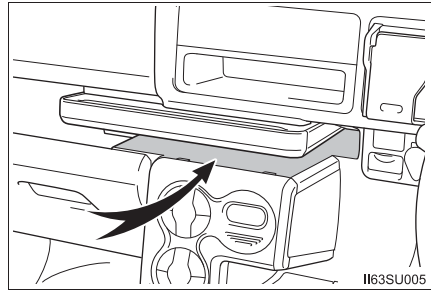
 注意

- エアコンの使用状況や車室内外の温度・湿度によっては、マルチホルダーに置いたスマートフォンなどの携帯機器内部が結露するおそれがあります。
それぞれの携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。
- マルチホルダーを小物入れとして使う場合、重いものを入れないでください。
引き出しにくくなったり、変形するおそれがあります。

インパネトレイ

A4 サイズまでのバインダーや書類などを入れることができます。

A4 サイズのものは、横向きに入れてください。



⚠ 警告

インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものや、転がりやすいものを置かないでください。

急ブレーキ時などに、はみ出した部分に体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

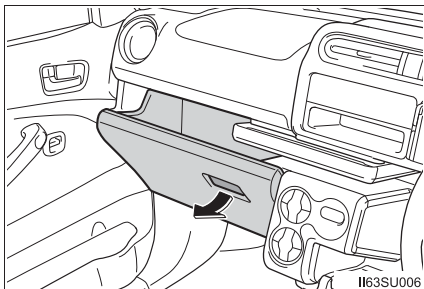
⚠ 注意

インパネトレイには、トレイから大きくはみ出るようなものを置かないでください。

インパネテーブル（→ P. 245）を引き出したときにあたり、破損するおそれがあります。

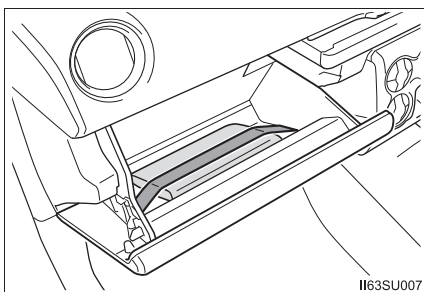
開閉式ワイドフリーラック

開口部を広げるには、レバーを引き上げる



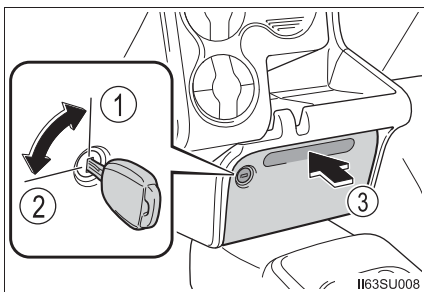
■ 車検証入れや取扱書などの収納

ラック内側のゴムバンドで留めることができます。



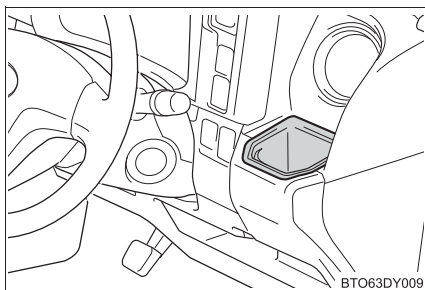
センターボックス

- ① 施錠
- ② 解錠
- ③ 押して開ける

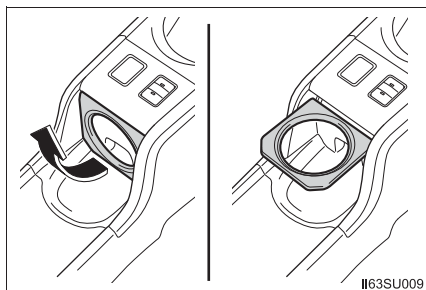


カップホルダー・ボトルホルダー**■ カップホルダー**

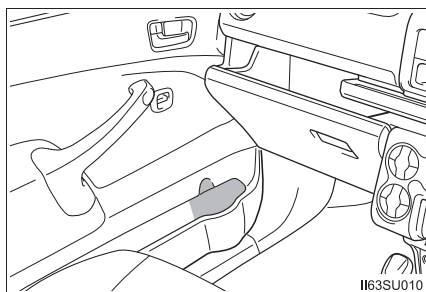
▶ 運転席右側



▶ センターコンソール

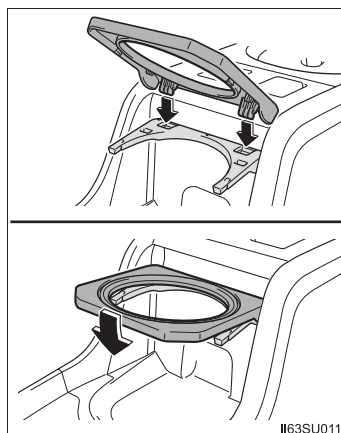


使用するときには、引き起こす

■ ボトルホルダー（助手席ドア）

 知識

- フタを閉められるものは、必ずフタを閉めてから収納してください。
- カップ・缶・ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。
- センターコンソールのカップホルダー部は、はずれてしまっても、再び取り付け使用することができます。

 警告

カップホルダー・ボトルホルダーにはカップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。

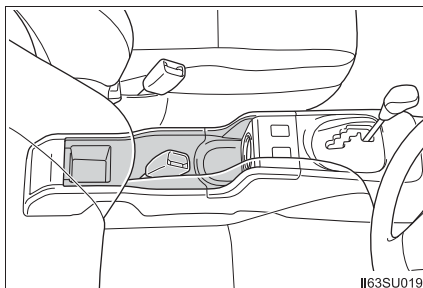
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

 注意

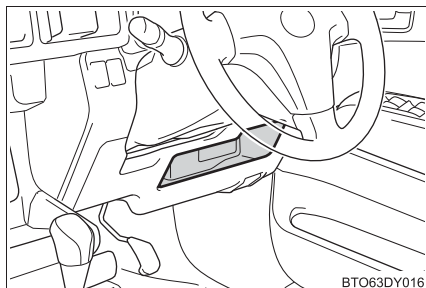
- センターコンソールのカップホルダーに手をついたり、ホルダーを足で踏んだりしないでください。
- 助手席ドアのボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

オープントレイ・ポケット・小物入れ

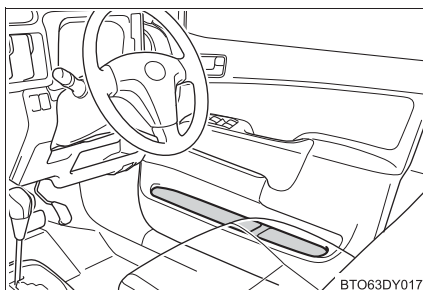
▶ センターコンソールトレイ



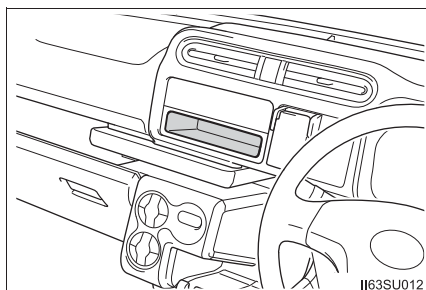
▶ 運転席ロアポケット



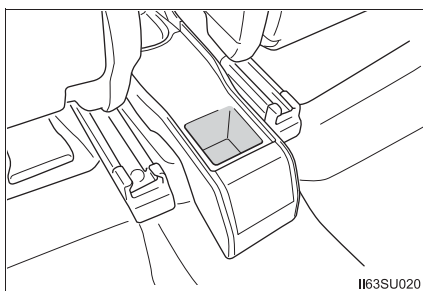
▶ ドアポケット



▶ 1DIN ポケット★



▶ センターコンソール小物入れ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センターコンソールトレイには、転がりやすいものなど不安定なものを置かない
- センターコンソールトレイにかばんなどを置く場合、走行中やブレーキをかけたときなどに、不安定にならないようにする
- ポケットには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かない

 注意

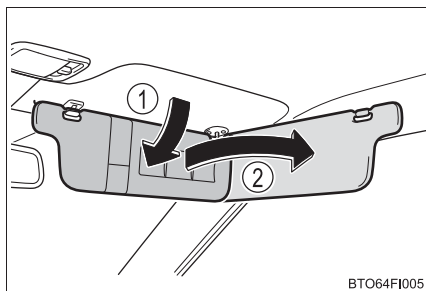
- センターコンソール小物入れはカップホルダー・ボトルホルダーとして使用しないでください。

飲み物などをこぼすとパーキングブレーキの故障へとつながるおそれがあります。

その他の室内装備

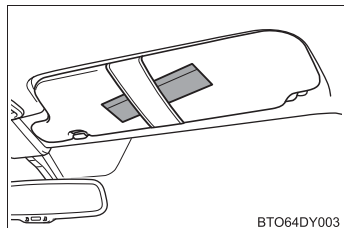
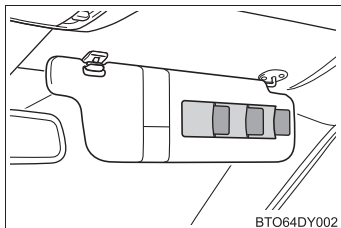
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



知識

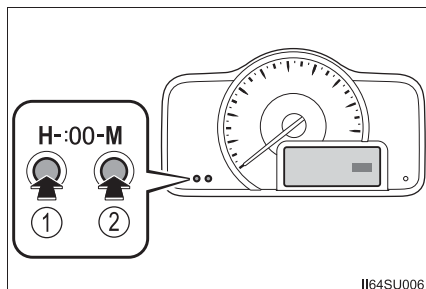
■ チケットホルダー（運転席側）



時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

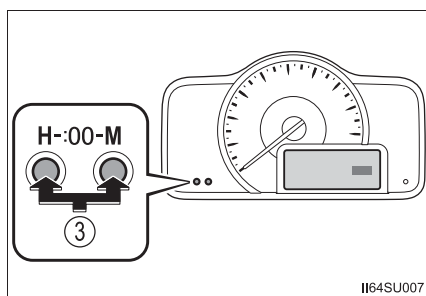
- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する



- ③ “分” を 00 にする ※

時計調整ボタンを同時に 1 秒以上押し続けます。

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

- パワースイッチが “ON” のとき、時刻が表示されます。
- 補機バッテリー端子の脱着を行うと、時刻はリセットされます。

アクセサリソケット・アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリソケット：

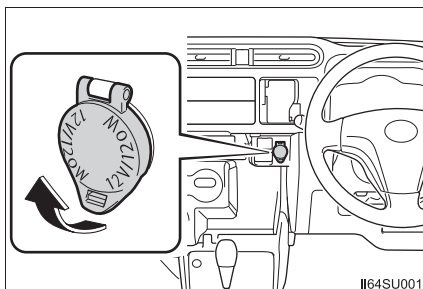
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品

アクセサリコンセント：

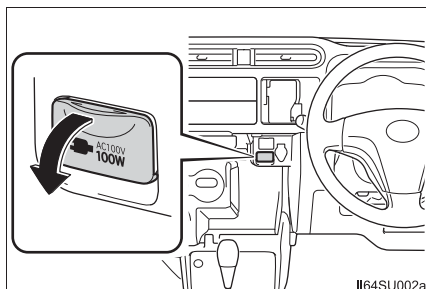
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

▶ アクセサリソケット

▶ アクセサリコンセント



フタを開ける



フタを開ける

知識

■ 作動条件

▶ アクセサリソケット

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき

▶ アクセサリコンセント

パワースイッチが“ON” のとき

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために**▶ アクセサリーソケット**

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）をこえる電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力が 100W をこえる電気製品は使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

充電用 USB 端子

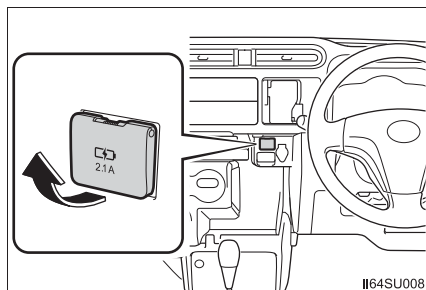
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

 注意**■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

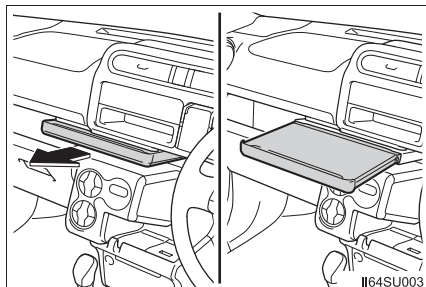
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

インパネテーブル

引き出す

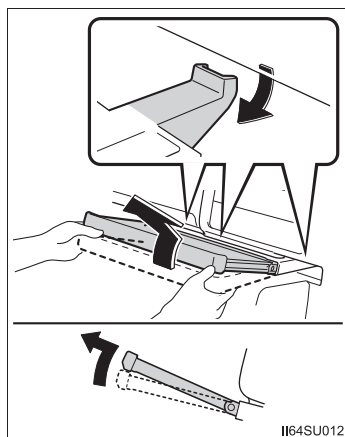
停車しているときに、引き出して使用してください。



知識

- インパネテーブルは、弁当の置き場所、車内での伝票書き、小型パソコンでの作業などに使用できます。
- インパネテーブルの奥にコインやカードなどが入り込んだ場合は、インパネテーブルを次のように取りはずし、入り込んだ物を取り出すことができます。

- 1 テーブルをすべて引き出す
- 2 上方向に力をかけながら手前に引き抜く
テーブルのツメ(3ヶ所)がストッパーからはずれます。



 警告

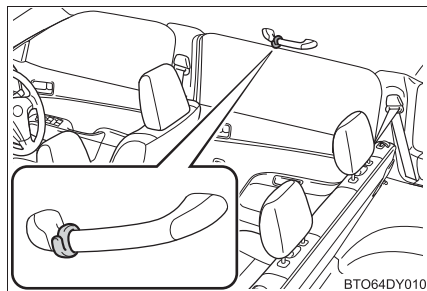
- 走行中は、インパネテーブルを必ず格納してください。
急ブレーキや急旋回時などに、テーブルに体があたったり、テーブルの上に置いているものが落ちたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- インパネテーブルにもたれかからないでください。
テーブルが破損し、けがをするおそれがあります。

 注意

- 破損を防ぐために、インパネテーブルに 10kg をこえるものを置いたり、過度の負荷をかけないでください。
- コインやカードなどを上に置いたまま、インパネテーブルを格納しないでください。
コインやカードなどが中に入り込んで取れなくなるおそれがあります。
(→ P. 245)

コートフック

リヤの運転席側に付いています。



お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	250
内装の手入れ.....	254

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	256
ガレージジャッキ	259
ウォッシャー液の補給	260
タイヤについて	261
タイヤ空気圧について	265
エアコンフィルターの 交換	267
駆動用電池冷却用吸入口／ 吸入口カバーの清掃	270
ワイヤレスキーの電池交換 ...	274
ヒューズの点検・交換	277
電球（バルブ）の交換	280

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけてください。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

 警告**■ 洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの前方センサー取り付け部について (Toyota Safety Sense 装着車)

→ P. 159

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 注意**■ 高圧洗浄機を使うときは**

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により性能が劣化したり、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなどの樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■ アンテナの損傷を防ぐために

→ P. 214

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 62)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 31)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

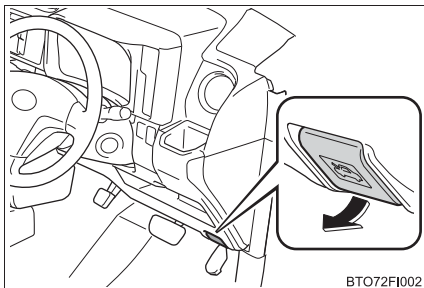
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

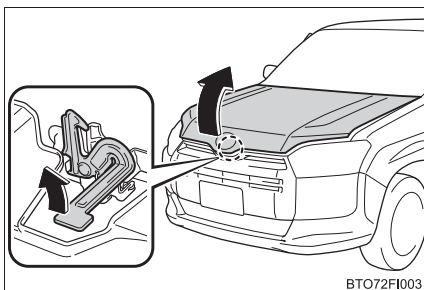
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

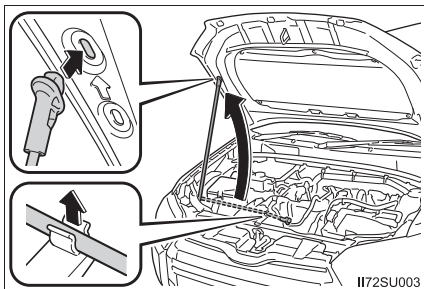
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

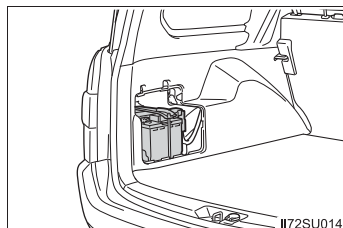


 知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 325）

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

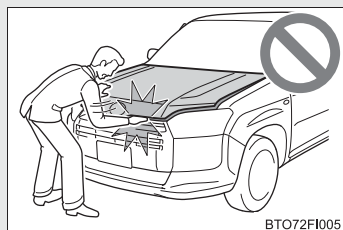
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

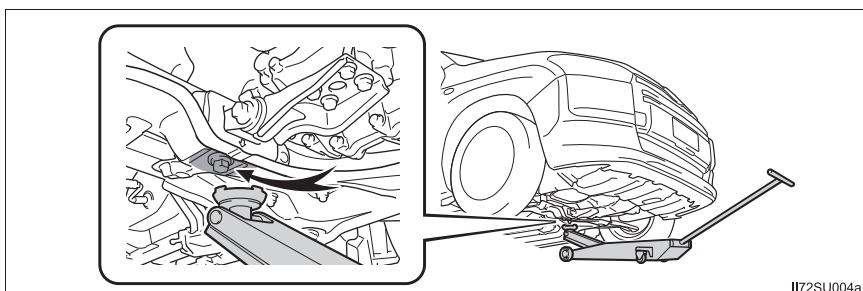
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

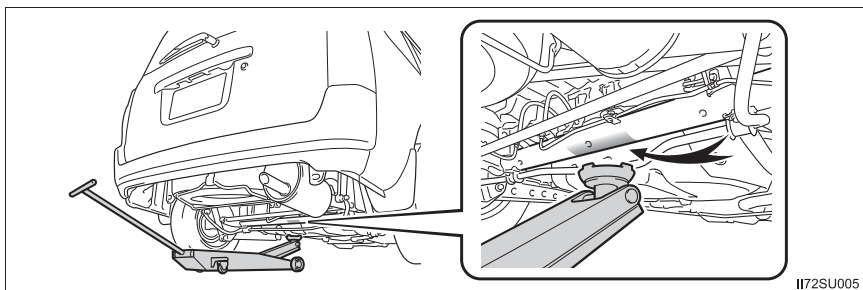
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

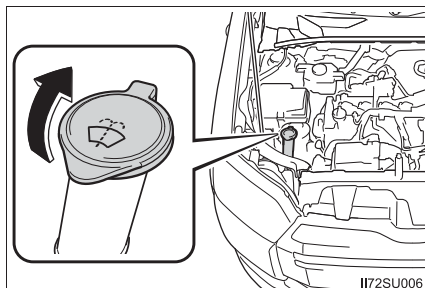


◆ リヤ側



ウォッシャー液の補給

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補給する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付いたり、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

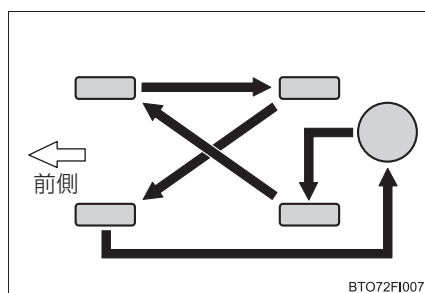
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



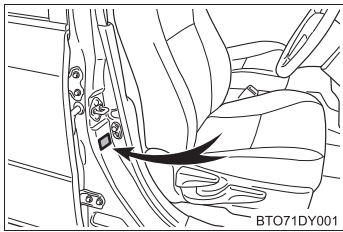
 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
	前輪		後輪	
	空荷時	積荷時 ※	空荷時	積荷時 ※
155/ 80R14 88/86N LT	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)

※ 100kg 以上または 4 名乗車以上

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 321）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 344)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする

- 2 開閉式ワイドフリーラックの開閉口を広げ、上部・下部のツメをはずして取りはずす

① 上部左側のツメを取りはずす

② 上部右側のツメを取りはずす

③ 下部のツメを取りはずす

上部のツメをはずすときは、開閉式ワイドフリーラック側面の「PUSH」の部分を押してください。

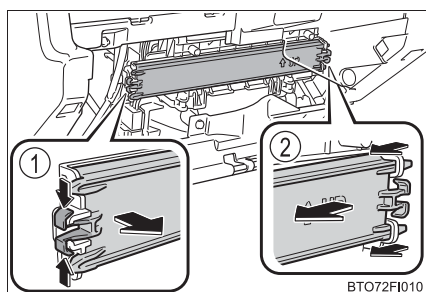
上部左側のツメをはずした状態で、上部右側のツメをはずしてください。



- 3 フィルターカバーを取りはずす

① カバーの固定を解除する

② カバーを矢印の方向にずらして抜く

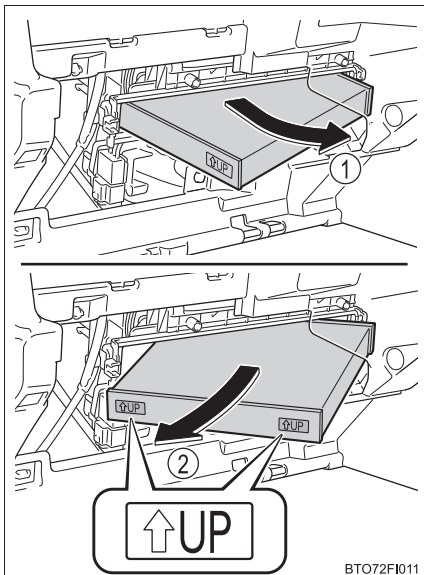


4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

① 車両内側へまわすように引き出す

フィルターの左側面がすべて出るまで引き出してください。

② 車両外側へまわすように取りはずす



BTO72FI011

5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

 知識

■ **フィルターの交換について**

フィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km[※]] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ **エアコンの風量が減少したときは**

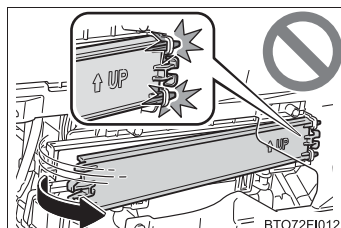
フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意**■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーを取りはずすときは

フィルターカバーの固定を解除するために矢印の方向に動かすときは、カバー右端を固定している部分に無理な力がかからないよう注意してください。
破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口／吸入口カバーの清掃

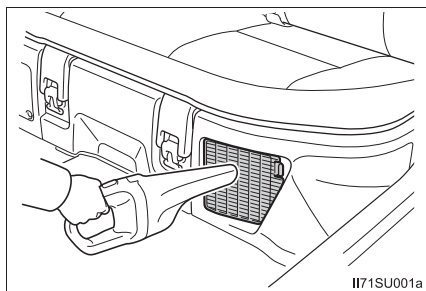
燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやメンテナンス・点検警告灯(→P. 312)が点灯したときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／吸入口カバーのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。

(→P. 273)



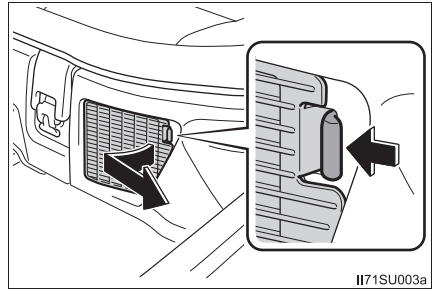
ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして清掃してください。

- 1** パワースイッチを“LOCK”にする

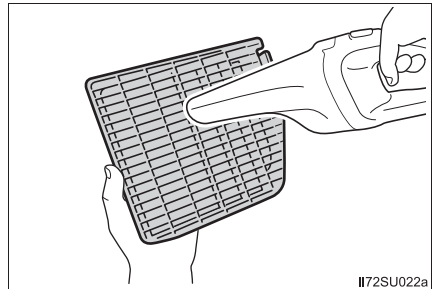
- 2** 吸入口カバーを取りはずす

ツメを押しながら、吸入口カバーを手前に引いて取りはずしてください。



- 3** 掃除機などでほこりを吸い込み、吸入口カバーを清掃する

吸入口カバーが破損しているときは、トヨタ販売店で交換してください。



- 4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識**■ 定期的な清掃が必要なとき**

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安に吸入口カバーを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

- 吸入口／吸入口カバーにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。
- 誤った取り扱いをすると、吸入口カバーが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき

- 吸入口カバーを取りはずして清掃してください。(→ P. 270)
- 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動して警告灯(→ P. 312)が消灯したことを確認してください。
始動後に警告灯が消灯するまでに20分ほど走行が必要な場合があります。
しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 吸入口の清掃をするときは

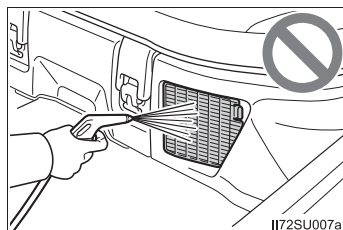
- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを“LOCK”にしてハイブリッドシステムを停止してください。

⚠ 注意

■ 吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずした吸入口カバーは損傷しないよう、慎重に取り扱う
吸入口カバーが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しい吸入口カバーに交換してください。
- 清掃後は、必ず吸入口カバーをもとどおりに取り付け
- この車両用の吸入口カバー以外のものを吸入口に取り付けたり、吸入口カバーを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき

警告灯が点灯している状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。

警告灯が点灯したときは、すみやかに清掃してください。

ワイレスキーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

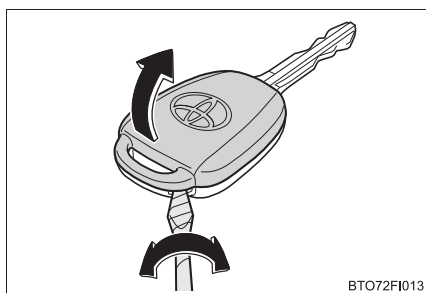
- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

電池交換のしかた

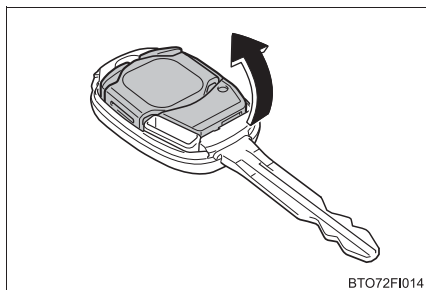
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

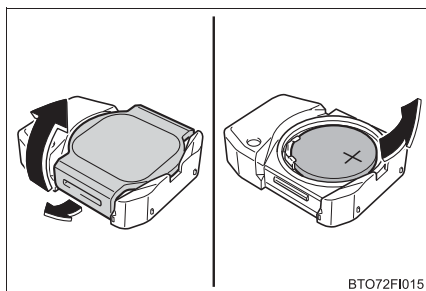


2 モジュールを取り出す



3 モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ ワイヤレスキーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスキーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

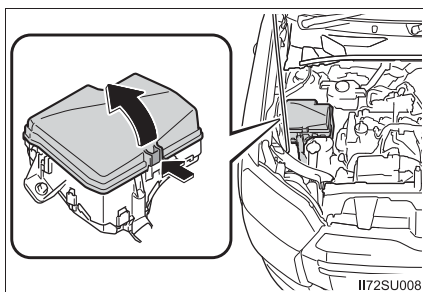
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

❶ パワースイッチを“LOCK”にする

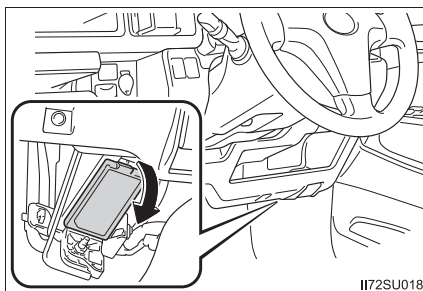
❷ ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）



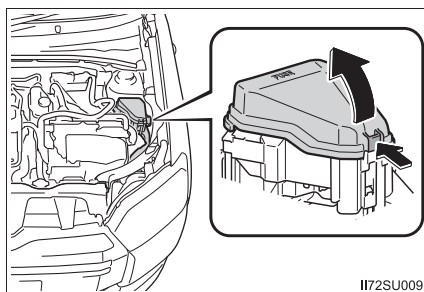
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元



カバーをはずす

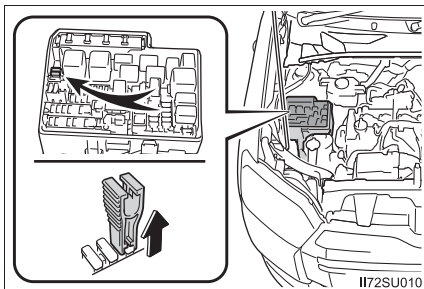
▶ エンジンルーム（助手席側）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム（運転席側）にあるヒューズボックスのカバーに付いています。

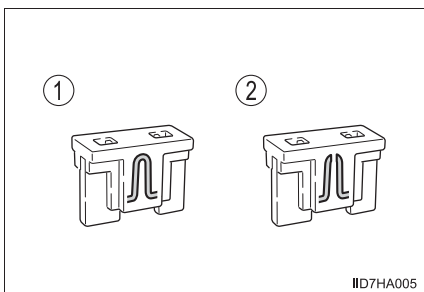


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 280）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

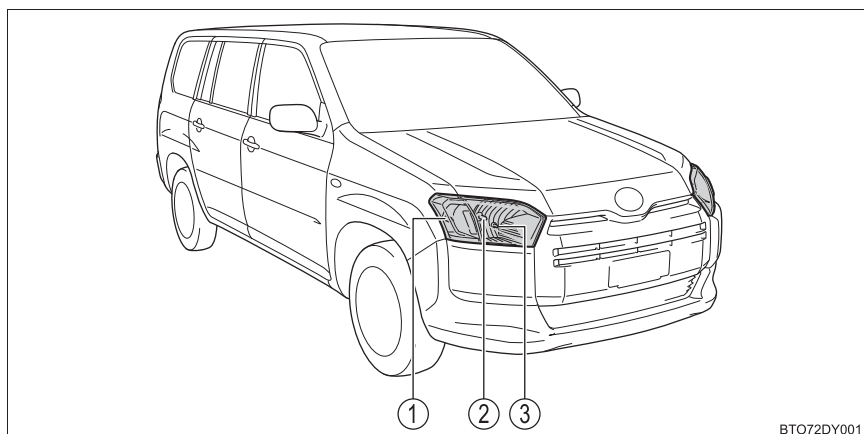
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 345）

バルブ位置

■ フロント



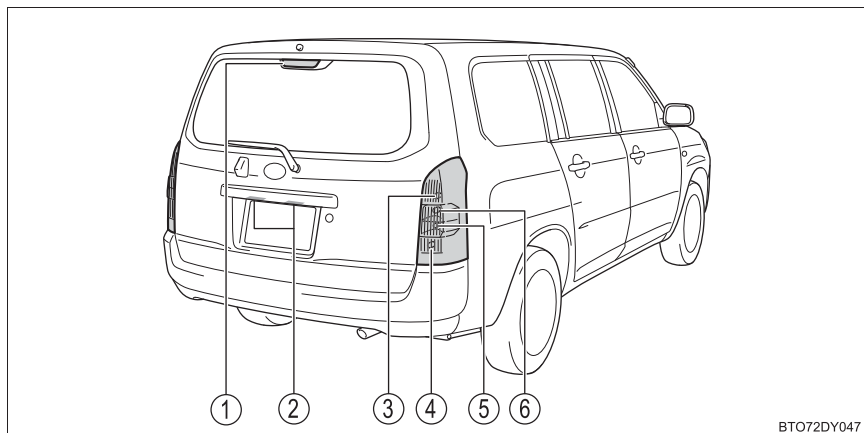
BTO72DY001

① フロント方向指示灯／
非常点滅灯

② ヘッドランプ

③ 車幅灯

■ リヤ



BTO72DY047

① ハイマウントストップランプ

② 番号灯

③ 制動灯／尾灯

④ リヤフォグランプ★

⑤ 後退灯

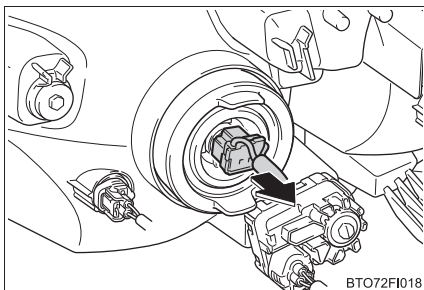
⑥ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

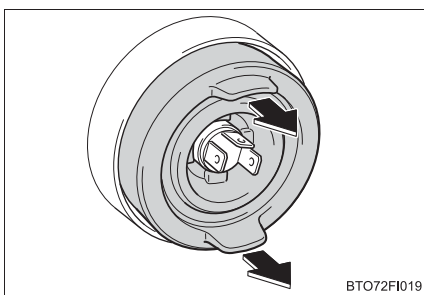
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ

- 1 ボンネットを開け、コネクターを取りはずす

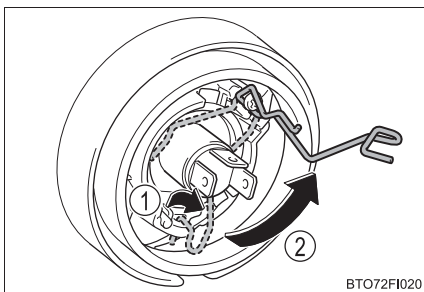


- 2 ゴムカバーを取りはずす

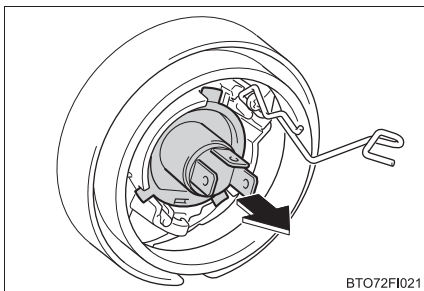


- 3 留め金をはずす

- ① フックからはずす
- ② 開く



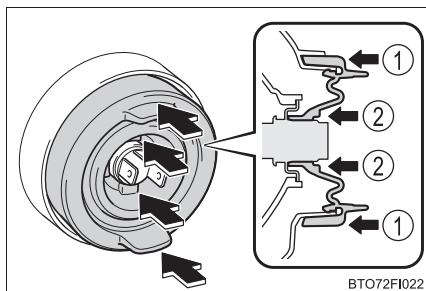
- 4 電球を取りはずす



- 5 新しい電球を取り付け、留め金をかける

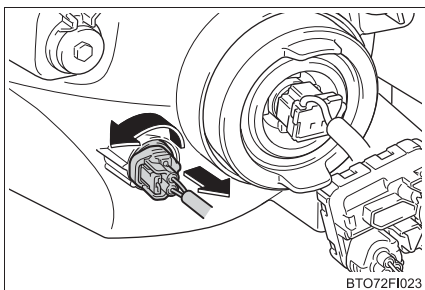
6 ゴムカバーを取り付ける

- ① 外周をしっかりとめ込む
- ② 内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

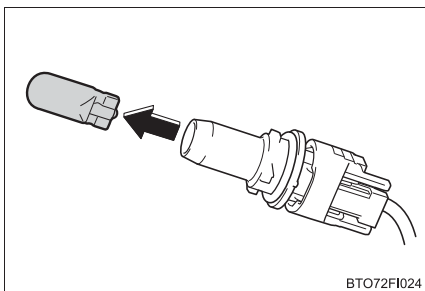
**7** コネクターを取り付け、ボンネットを閉める

■ 車幅灯

- 1** ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



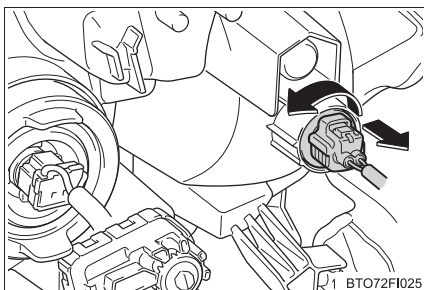
- 2** 電球を取りはずす



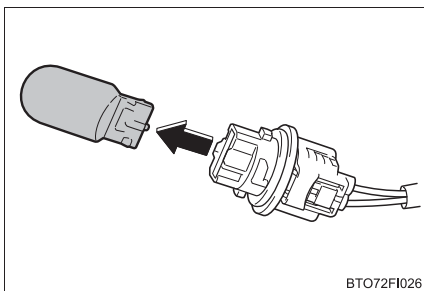
- 3** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

- 1 ボンネットを開け、ソケットを取りはずす



- 2 電球を取りはずす

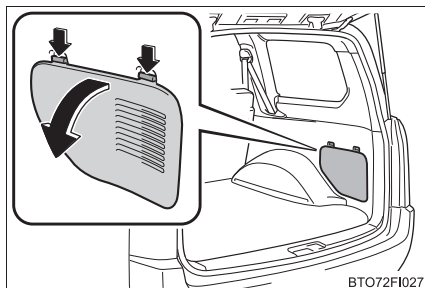


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

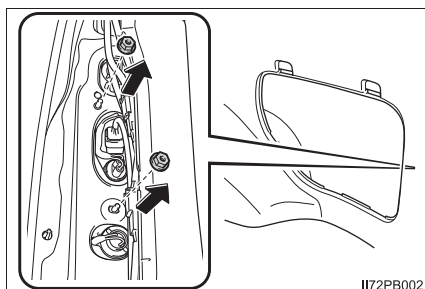
■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯・ リヤフォグランプ★

交換には、トヨタ販売店で部品（ガスケット）の購入が必要となります。
交換作業が難しいと感じられる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

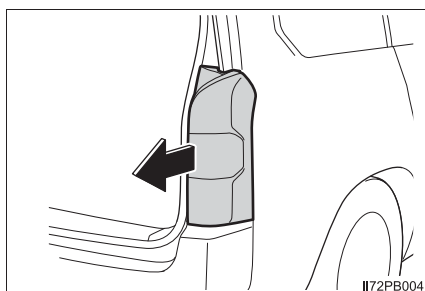
- 1** バックドアを開け、カバーを取りはずす



- 2** ナット（2 個）をはずす

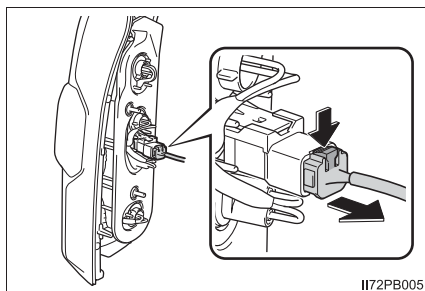


- 3** ランプ本体を手前に引き出し取りはずす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4 コネクターを取りはずす

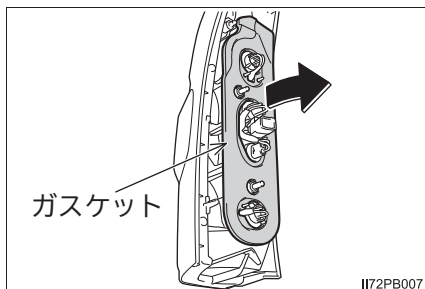


II72PB005

5 ガasketをはがす

確実にもとの状態にもどせるように
ガスケットをはがす前には、ガス
ケットの貼り付け位置をよく確認し
ておいてください。

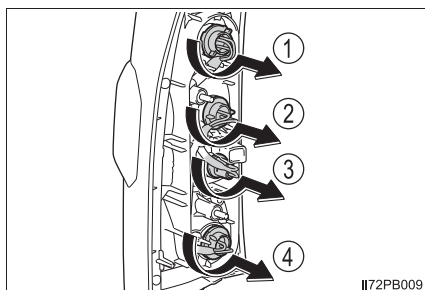
また、ボデー側に残ったガスケット
はすべてはがしてください。



II72PB007

6 ソケットを取りはずす

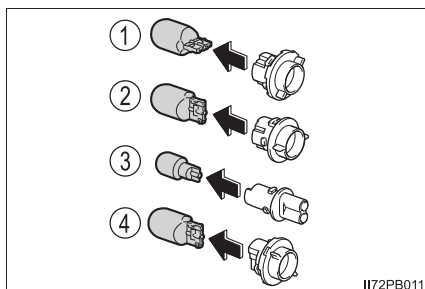
- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅
灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★



II72PB009

7 電球を取りはずす

- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅
灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★

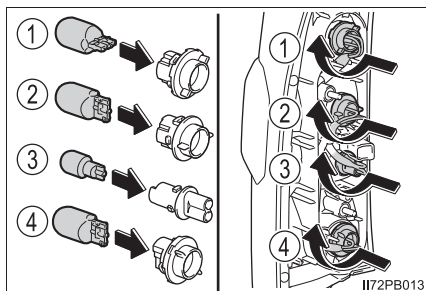


II72PB011

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

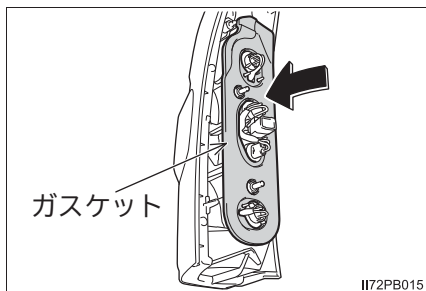
- 8** 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

- ① 制動灯／尾灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★

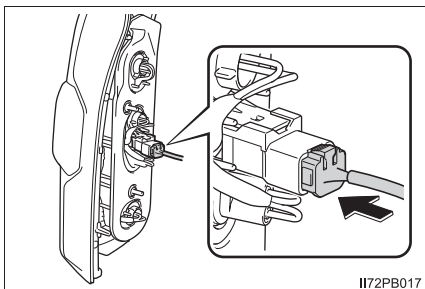


- 9** 新品のガスケットを貼り付ける

手順 **5** で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。



- 10** コネクターを取り付ける



- 11** ランプ本体を取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

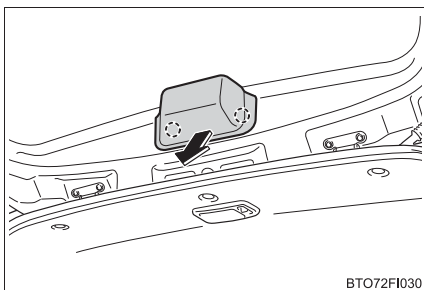
ボデーとのあいだに配線が挟まっていないことを確認の上、突起部をしっかりとめ込んでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

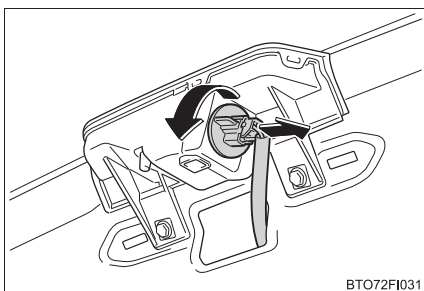
■ ハイマウントストップランプ

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

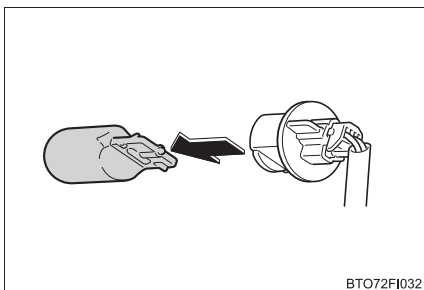
カバー裏に固定具（2 個）があります。



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

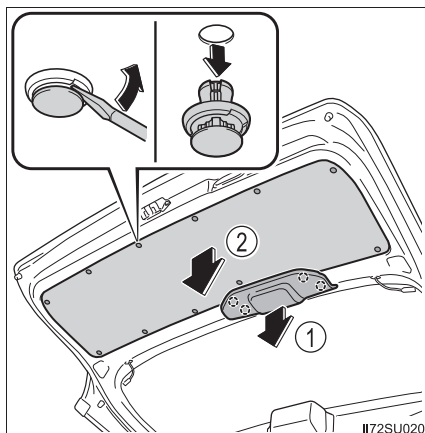
- 1** バックドアを開け、カバーと内張りを取りはずす

① カバー裏に固定具（4 個）があります。

② クリップ（11 個）をはずします。

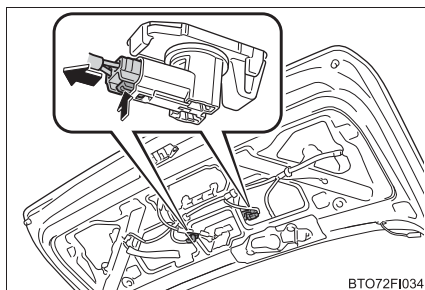
マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

クリップをはずすときは、内張りが落下しないように、手で支えてください。



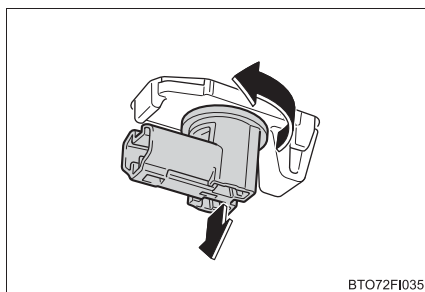
II72SU020

- 2** コネクターを取りはずす

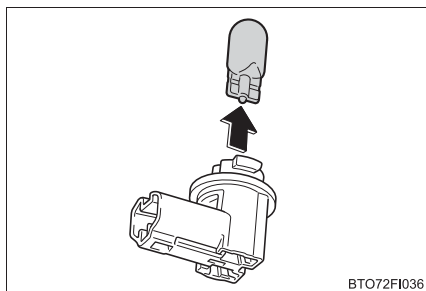


BTO72FI034

- 3** ソケットを取りはずす

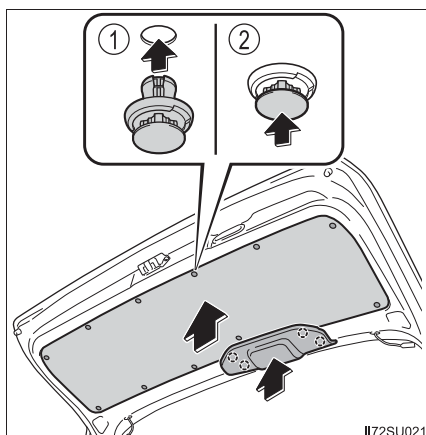


BTO72FI035

4 電球を取りはずす**5** 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける**6** コネクターを取り付ける**7** 内張りとカバーを取り付け、バックドアを閉める

① クリップを挿し込む

② 中央部を押す



■ サイド方向指示灯／非常点滅灯の電球が切れたときは
トヨタ販売店で交換してください。

 知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

 注意**■制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換について**

制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換には、新品のガスケットが必要となります。ガスケットをはがすときは、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度でも使用したガスケットは絶対に再使用しないでください。
- ガスケットを貼り付けるときは、制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯／リヤフォグランプ★の交換手順 **5** で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは.....	294
非常点滅灯 (ハザードランプ)	295
発炎筒	296
車両を緊急停止するには	298
水没・冠水したときは	299

8-2. 緊急時の対処法

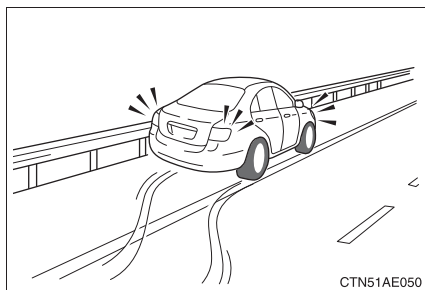
けん引について	300
警告灯がついたときは	307
パンクしたときは	313
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	324
補機バッテリーが あがったときは	325
オーバーヒートしたときは	331
スタックしたときは	336

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

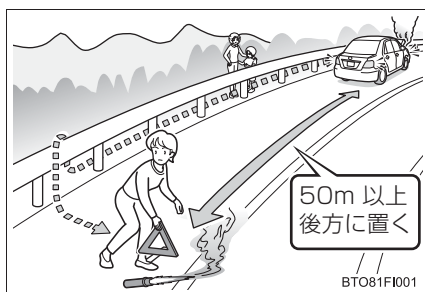
非常点滅灯（→ P. 295）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

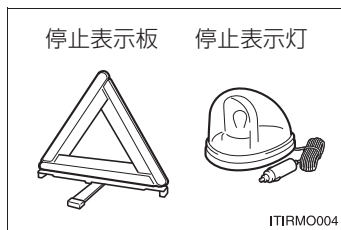
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 296）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

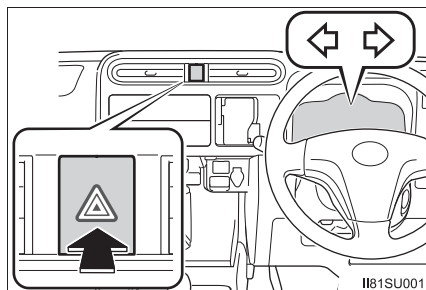


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

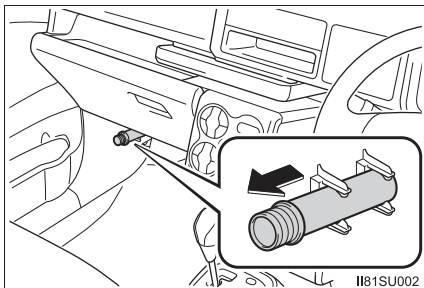
■ 非常点滅灯について

ハイブリッドシステムが停止中(READY インジケーターが点灯していないとき)に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

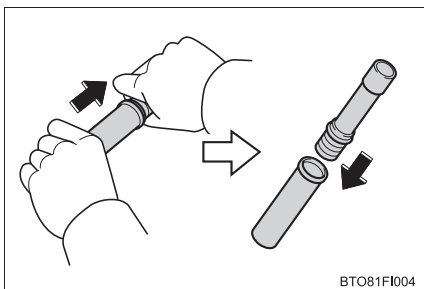
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

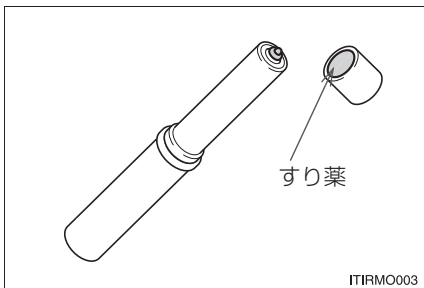


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向けて
 しないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告**■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

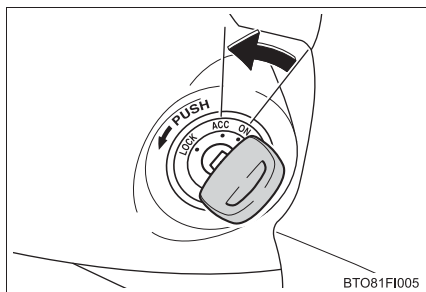
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを“ACC”にして、ハイブリッドシステムを停止する



BTO81FI005

- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

- ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

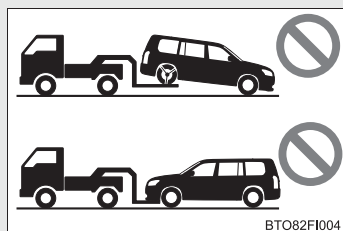
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

！ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを“LOCK” にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）（寒冷地仕様車の助手席側）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

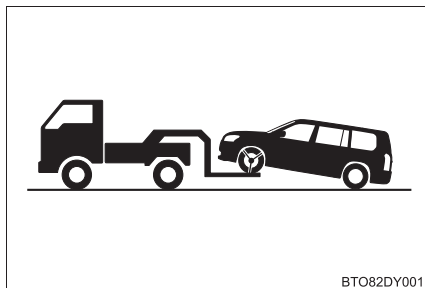
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム異常警告灯が点灯し、車が動かない
- 異常な音がする

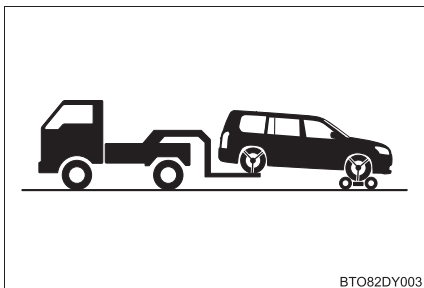
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

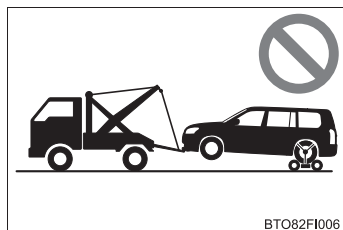
▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

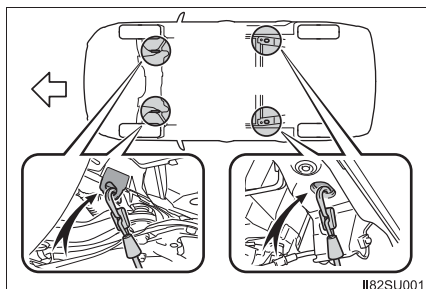
⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

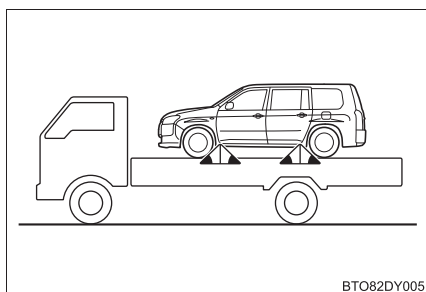


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



上記の方法で固縛できない場合は、タイヤ固縛ベルトを使用してください。

⚠ 注意**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

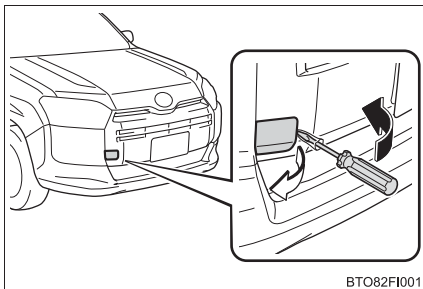
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

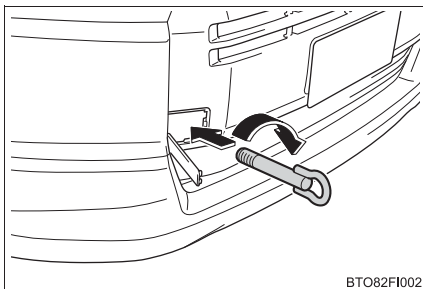
- 1 ホイールナットレンチ・けん引フックを取り出す (→ P. 314)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

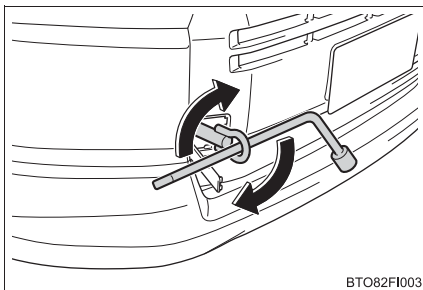
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



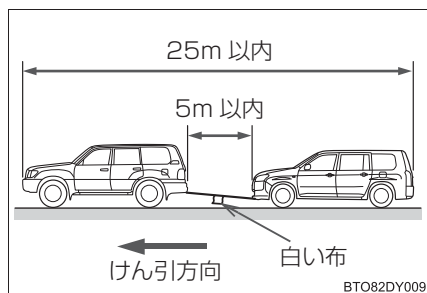
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを“ON”にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 136

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

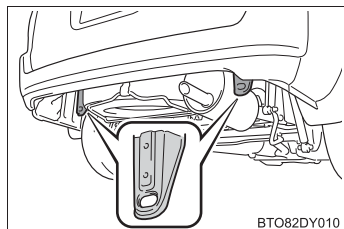
■ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。(→ P. 314)

■輸送用フックについて

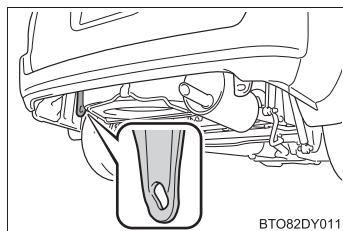
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

(寒冷地仕様車の助手席側は、緊急用フックとして使用することができます)



■ リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）（寒冷地仕様車の助手席側）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、「オーバーヒートしたときは」（→ P. 331）に従ってください。
	エンジン警告灯 ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS の作動時には、点滅します。（→ P. 196） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 （点滅または点灯）	PCS 警告灯★ 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → 要因と対処方法（→ P. 160） プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P. 172
 （黄色）	オートマチックハイビーム表示灯★ オートマチックハイビームの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★ LDA システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム／ ドライブスタートコントロール警告灯 警告灯が点滅した場合： ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯した場合： ・ アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2） いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.3 L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	ハイブリッドシステム異常警告灯（警告ブザー） ハイブリッドシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	P ポジション要求表示灯（警告ブザー） ・一定時間シフトレバーがNになっているため駆動用電池が充電できず駆動用電池の残量が低下した ・シフトレバーがN・D・Bで運転席ドアを開けた ・シフトレバーがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした → シフトレバーをPにする → READY インジケーターが消灯しているときは、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを再始動する
	駆動用電池残量低下警告灯（警告ブザー） 一定時間シフトレバーがNになっているため駆動用電池が充電できず駆動用電池の残量が低下した → 停車するときはシフトレバーをPにする → READY インジケーターが消灯しているときは、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを再始動する
	ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー） ハイブリッドシステムの過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 333）に従ってください。
	車両接近通報装置警告灯 車両接近通報装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※1 **ブレーキ警告ブザー：**

ブレーキ液が不足しているときに車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **半ドア走行時警告ブザー：**

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※3 **シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなる場合があります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

 注意

■ 充電警告灯がひんぱんに点滅するときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりをおこすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

その他に表示される警告灯

次の警告灯が表示されたときは、対処方法に従って処置することで消灯させることができます。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	メンテナンス・点検警告灯（警告ブザー） 駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期 吸入口カバーが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 → 吸入口が汚れている場合は、P. 270 を参考に吸入口の清掃を行ってください。 → 吸入口が汚れていないのに警告灯が点灯したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 261 を参照してください)

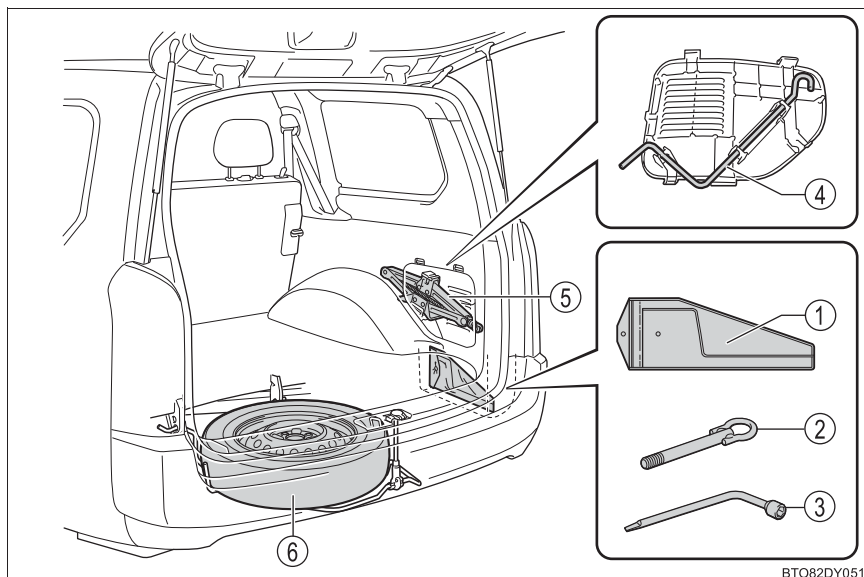
警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 295)

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

- | | |
|--------------|------------|
| ① 工具袋 | ④ ジャッキハンドル |
| ② けん引フック | ⑤ ジャッキ |
| ③ ホイールナットレンチ | ⑥ スペアタイヤ |

 警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

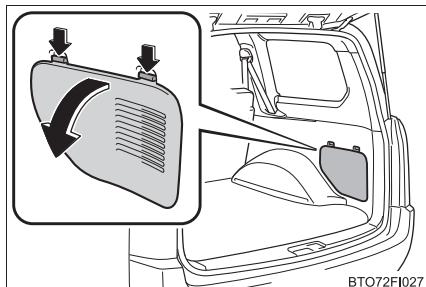
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使えない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具・ジャッキの取り出し方

- 1** ツメを押しながら、カバーを取りはずす

カバーの裏側にジャッキハンドルが取り付けられています。(→ P. 314)

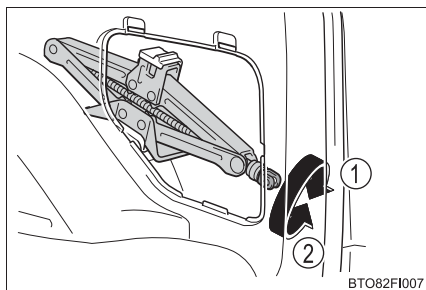
裏側のスペースに工具袋が収納されています。(→ P. 314)



- 2** ジャッキをゆるめて取りはずす

- ① 締まる
- ② ゆるむ

使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。



知識

■ 停止表示板の収納について

カバー裏側のスペースに停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

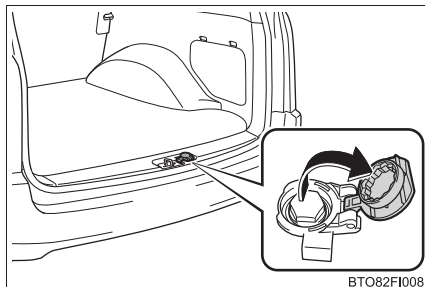
警告

■ カバー裏側のスペースについて

- カバー裏側のスペースには、換気用の弁が取り付けられています。次の理由から工具袋・停止表示板以外のものを収納しないでください。
 - ・ 荷物が弁をふさぎ、換気性能が悪化し、ドアの閉りが悪くなるおそれがあります。
 - ・ 荷物で弁が押し開かれたままの状態になり、車内に排気ガスが侵入したり水が浸入するおそれがあります。
- 工具袋は、収納スペースの最深部に横向きにして収納してください。

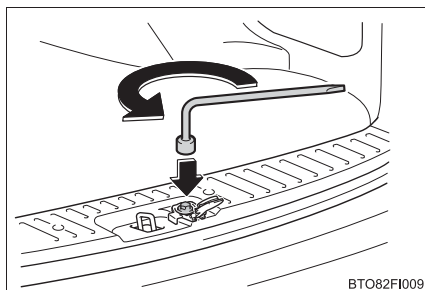
スペアタイヤの取り出し方

1 カバーを開ける



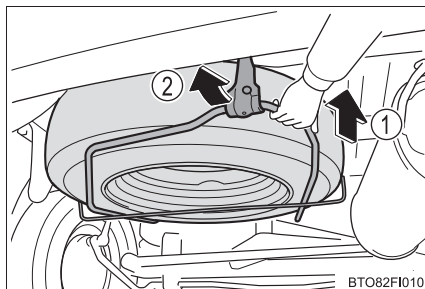
2 スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。



3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ (①)、フックを手前に引いてはずす (②)

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。



4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す

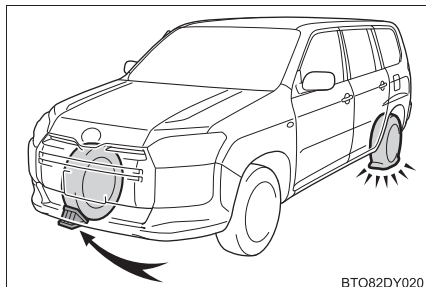
5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。
スペアタイヤを格納するときは：→ P. 322

パンクしたタイヤの取りはずし

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

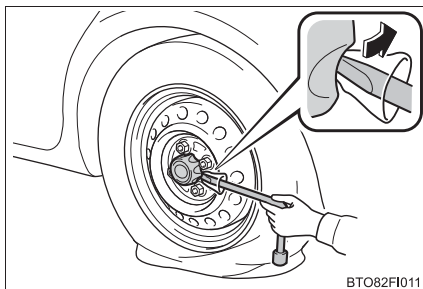


BTO82DY020

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪のうしろ
	右側	左側後輪のうしろ
後輪	左側	右側前輪の前
	右側	左側前輪の前

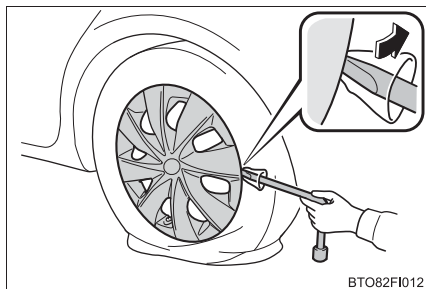
2 ホイールキャップをはずす

▶ センターキャップ装着車



BTO82FI011

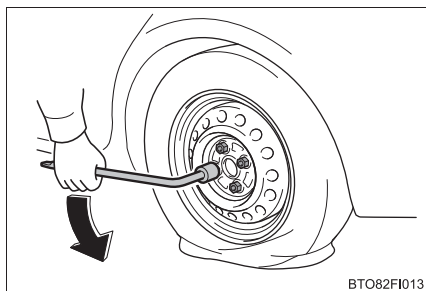
▶ フルキャップ装着車



BTO82FI012

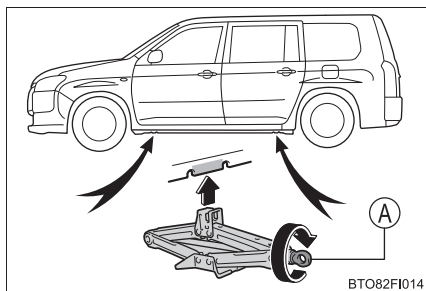
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

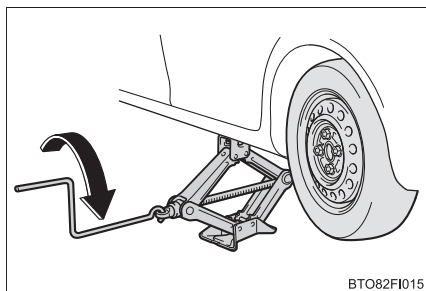


BTO82FI013

- 4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

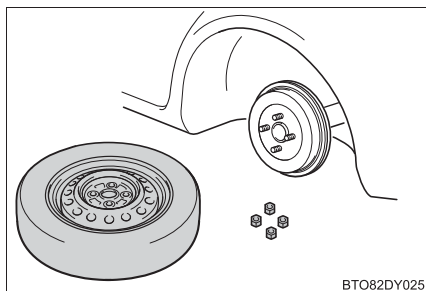


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



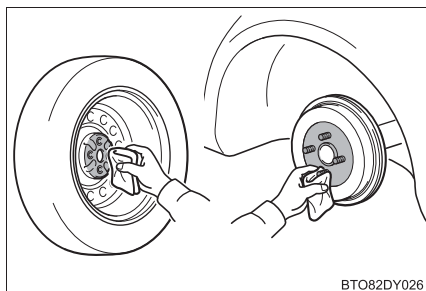
 警告**■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
 - ・ スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1050 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

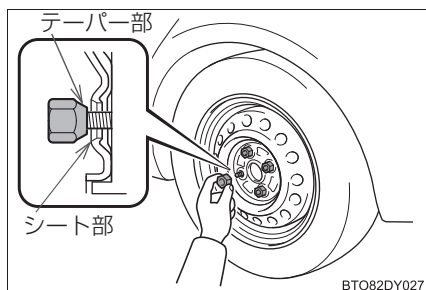


BTO82DY026

- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

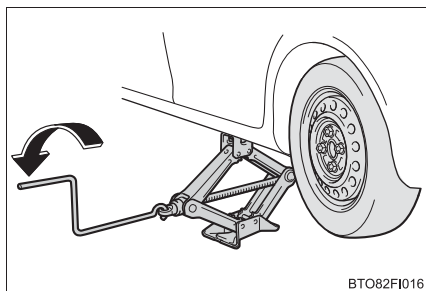
ホイール取り付けボルト・ナットのねじ部・ナットのテーパ部（テーパ部）の汚れ、異物を取り除いてください。

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



BTO82DY027

- 3** 車体を下げる

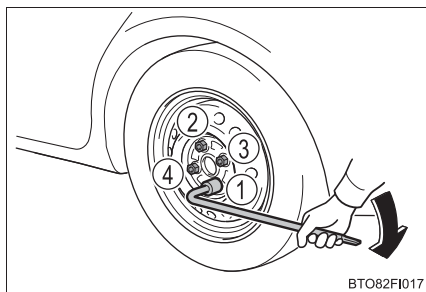


BTO82FI016

- 4** 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

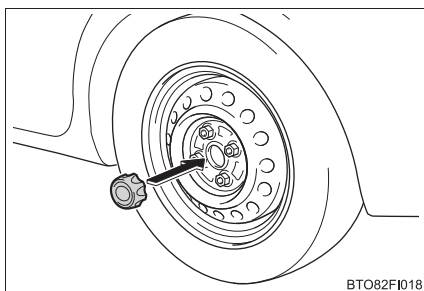
103 N・m (1050 kgf・cm)



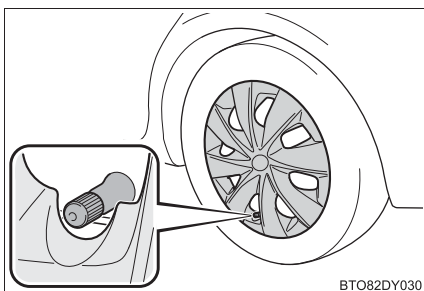
BTO82FI017

5 ホイールキャップを取り付ける

▶ センターキャップ装着車



▶ フルキャップ装着車



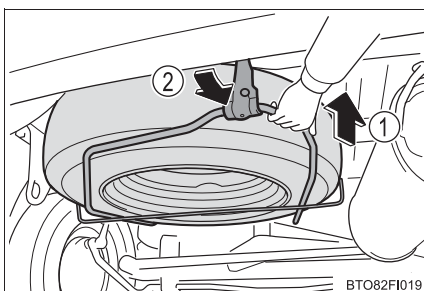
タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

- 1 スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（①）、フックをかけてボルトを締め付ける（②）
フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

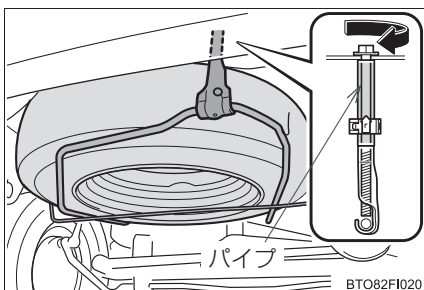
格納具に載せたタイヤががたつかないことを確認してください。



- 2 パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4回転以上締め付ける

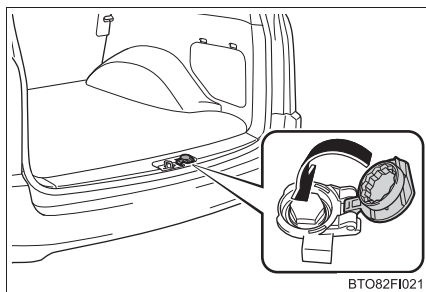
参考：締め付けトルク

16.2 N・m (165.3 kgf・cm) 以上



3 カバーを閉める

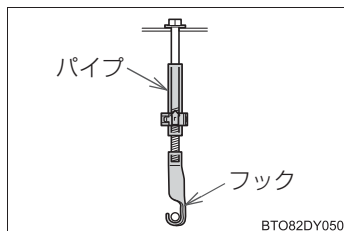
カバーを閉めたあとは、ボルト回転方向にゆさぶり、ボルトの先端に確実にハマっていることを確認してください。

 **知識****■ スペアタイヤについて**

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 344)

■ スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

 **注意****■ スペアタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- インパクトレンチを使用する場合は、締めすぎに注意し、本締めはホイールナットレンチで行ってください。インパクトレンチで本締めを行うと、格納具を損傷するおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 127）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 68）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 325）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 257）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 325）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 257）

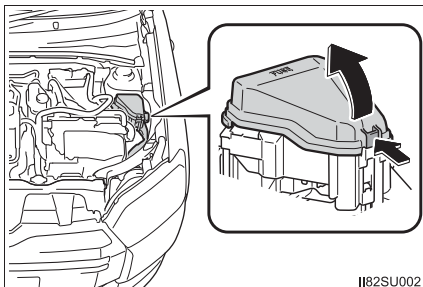
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

補機バッテリーがあがったときは

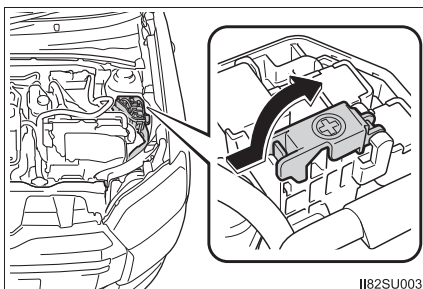
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

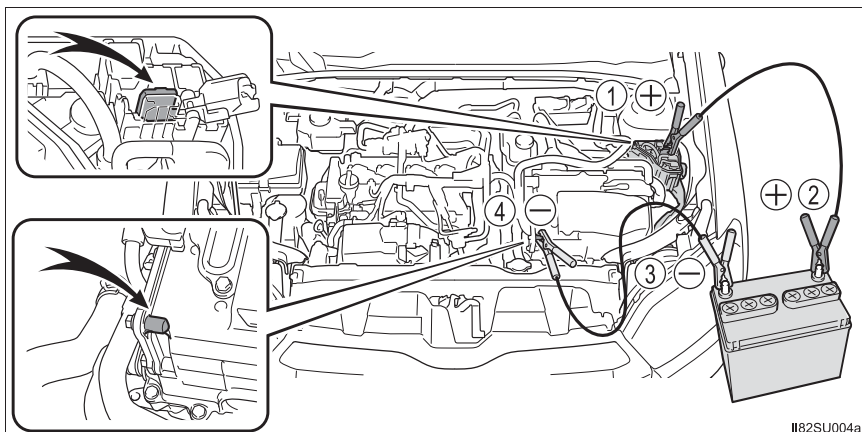
- 1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす
→ P. 277



- 2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける
ツメを軽く引きながら、カバーを開けます



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



II82SU004a

- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON”にしてからハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける
ヒューズボックスのカバーは奥にあるツメ（2ヶ所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーについて

→ P. 257

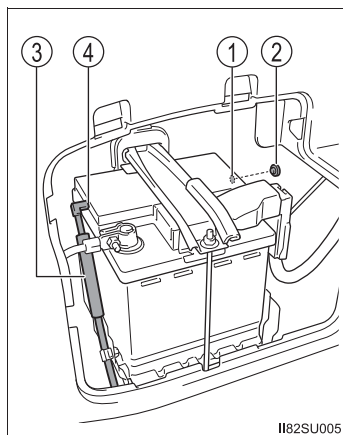
■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ (LNO)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (35Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (240A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
 - 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
 - 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボ / 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ① 排気穴
- ② 排気穴栓
- ③ 排気ホース
- ④ 排気穴



1182SU005

 警告**■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

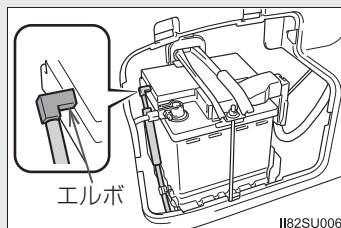
- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

- 早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
- 補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

⚠ 警告**■ 補機バッテリーの交換について**

- 液栓やインジケーターがステアに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの一端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 307）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- ハイブリッドシステム過熱警告灯（→ P. 310）が点灯している。
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

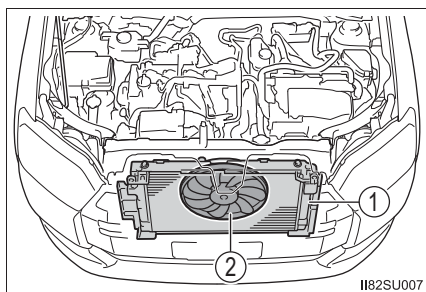
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

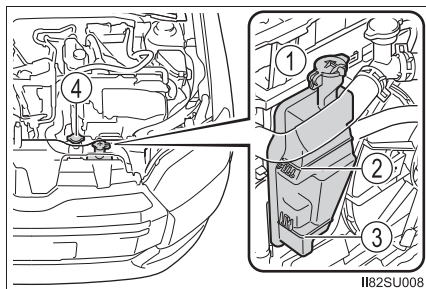
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバタンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



1182SU007

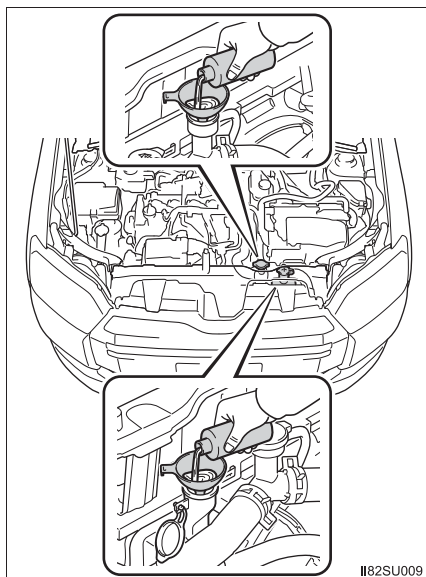


1182SU008

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯したとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

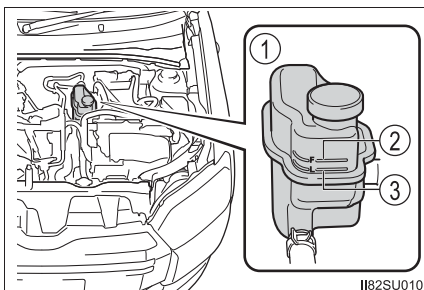
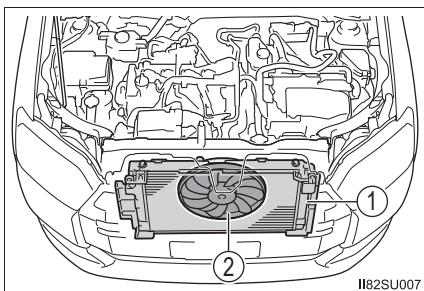
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

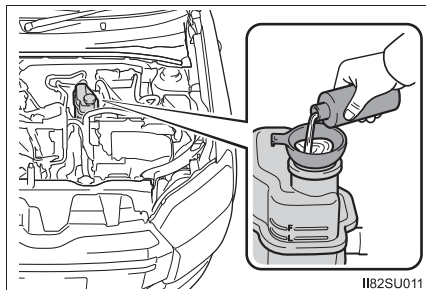
- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、メーターを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーター・リザーバータンクが熱いうちは、ラジエーターキャップおよびリザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

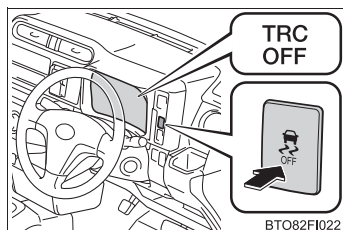
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいときは



を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**9****9-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	340
--------------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	346
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	42

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

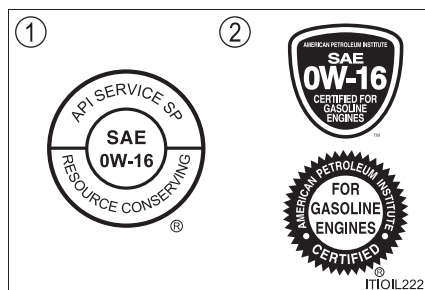
指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.4	3.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

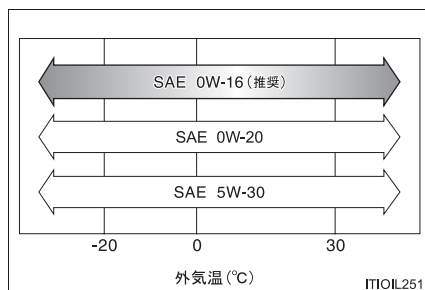
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	ガソリンエンジン	4.5
凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	インバーター	1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	3.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	73 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
踏みしろ 操作力 300 N (30.6 kgf) のときのノッチ ※ 数	7 ~ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.3

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)			
		前輪		後輪	
		空荷時	積荷時 ※	空荷時	積荷時 ※
155/80R14 88/86N LT	14×5J	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)

※ 100kg 以上または 4 名乗車以上

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N · m (kgf · cm)]	
標準タイヤ	103 (1050)
スペアタイヤ	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（バルブタイプ：H4）	60 / 55
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	制動灯／尾灯	21 / 5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	ハイマウントストップランプ	21
	番号灯	5
車内	フロントルームランプ	8
	リヤルームランプ	8

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NHP160V	1NZ-FXE（1.5L ガソリン）	1LM	FF（前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、ボタン操作により設定を変更することができる機能もあります。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① 車両側のボタン操作で設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 140)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度	レベル -2	レベル -1 ~ 2	—	○
ランプオートカット制御	運転席 ドア と連動	パワー スイッチ と連動	—	○

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) ★ (→ P. 80, 173)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
車線逸脱時の警報ブザーが鳴る感度 (警報感度)	高い／普通	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能★ (→ P. 80, 182)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
告知機能	ON / OFF	○	—
告知タイミング	早い / 普通 / 遅い	○	—

■ バックモニター★ (→ P. 192)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
画面の継続的な非表示	表示	非表示	○	—

■ イルミネーション (→ P. 224)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントルームランプの消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
解錠時のフロントルームランプの作動	あり	なし	—	○
パワースイッチ “LOCK” 後の フロントルームランプの作動	あり	なし	—	○

■ オートエアコン (→ P. 216)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外 気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....350

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）353

アルファベット順さくいん.....354

五十音順さくいん356

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 87）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 274）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 90）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 90）

故障かな？と思ったら**ハイブリッドシステムが始動しない**

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 127）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 129）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 325）

**ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？
パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 136）

**ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、キーをパワースイッチから抜くとロックされます。（→ P. 128）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 113）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 353）をご確認ください。

**警告灯が点灯または点滅したとき**

- 警告灯が点灯または点滅したときは、P. 307 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 313）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 336）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／車から降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	パワースイッチにキーが挿してある	P. 129
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 143

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 310
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 139
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 310
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 121
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）★が作動した	P. 161
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 173
前の車が発進しても停止し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 182

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 216

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 195, 308

ACC

(アクセサリー) 128

ECB

(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム) 195

ECO

(エコノミー／エコロジー) 135

EDR

(イベントデータレコーダー) 9

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 195, 308

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 345

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 342

INT

(インターミッテント) 147

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 173, 308

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 161, 308

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 31, 307

TRC

(トラクションコントロール) 195, 308

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 195, 308

五十音順さくいん

あ

アースポイント (補機バッテリーあがりの 処置)	325
アウターミラー (ドアミラー) ...	110
操作	110
格納のしかた	110
ミラーヒーター	218
アクセサリーコンセント	241
アクセサリーソケット	241
アクセサリーモード	128
アンチロックブレーキ システム (ABS)	195
アンテナ ラジオ	214

い

イグニッションスイッチ (パワースイッチ)	127
位置交換 (タイヤローテーション)	261
EV ドライブモード	131
イベントデータレコーダー (EDR)	9
イモビライザーシステム	68
イルミネーテッドエントリー システム	225
インジケーター (表示灯) ハイブリッドシステム インジケーター	76
表示灯	73
READY	127
インナーミラー	108
インパネテーブル	245
インパネトレイ	233

う

ウインカー (方向指示灯)	138
電球 (バルブ) の 交換	280
方向指示レバー	138
ワット数	345
ウインドウ	112
ウォッシャー	147, 149
パワーウインドウ	112
リヤウインドウ デフォッガー	218
ウインドウロックスイッチ	113

ウォーニングランプ (警告灯)	71, 307
ウォッシャー	147, 149
液の補給	260
スイッチ	147, 149
タンク容量	344
冬の前の準備・点検	204
動けなくなったときは (スタック)	336
運転	116
雨の日の運転	117
運転を補助する装置	195
寒冷時の運転	204
正しい運転姿勢	24
手順	116
運転席ロアポケット	237

え

エアコン	216
曇り取り (フロント ウインドウガラス)	218
フィルターの交換	267
エアバッグ	31
SRS エアバッグ警告灯	307
お子さまのための注意	32
改造・廃棄	34
作動条件	35
正しい姿勢	24
配置	31

AUX 端子	212
LDA (レーンディパーチャー アラート/車線逸脱警報)	173
エコドライブモード	135
エレクトリックパワー ステアリング (EPS)	195
エンジン イモビライザーシステム	68
エンジン警告灯	307
オーバーヒート	331
ハイブリッドシステムが 始動できない	324
ハイブリッドシステムの 始動方法	127
緊急時の停止方法	298
パワー (イグニッション) スイッチ	127
ボンネット	256
エンジンオイル	341
冬の前の準備・点検	204
メンテナンスデータ	341
油圧警告灯	307
容量	341
エンジンフード (ボンネット) 開け方	256

お

オイル（エンジンオイル）	341
応急用タイヤ	313
空気圧	344
交換方法	313
オーディオ	208
アンテナ	214
AUX 端子	212
オーディオの種類	208
音質調整	209
外部入力端子	212
ラジオ	210
オートエアコン	216
オートマチックハイビーム	178
オーバーヒート	331
オープナー	
給油扉	153
ボンネット	256

オープントレイ	237
お子さまを乗せるとき	38
ウインドウロックスイッチ	113
エアバッグ	32
お子さまの安全のために	38
キーの電池	275
子供専用シート	39
シートの取り扱いに	
関する警告	97, 102
シートベルトの着用	28
チャイルドシートの取り付け ...	54
チャイルドプロテクター	90
発炎筒の取り扱いに	
関する警告	297
バックドアに関する警告	94
パワーウィンドウに	
関する警告	114
オドメーター	
機能	78
表示切りかえボタン	77

か

カードホルダー.....	239
カーベット	
洗浄	254
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	76
回生ブレーキ	58
外装の電球（バルブ）	
交換要領.....	280
ワット数.....	345
開閉式ワイドフリーラック	234
買い物フック	229
カスタマイズ機能.....	80, 346
ガソリンスタンドでの情報	372
型式	345
カップホルダー.....	235
カメラ	
Toyota Safety Sense	156
バックモニター	184
ガラスの曇り取り（リヤ	
ウインドウデフォグガー）	218
ガレージジャッキ	259
冠水路走行	125
寒冷時の運転	204

き

キー	86
キーナンバープレート	86
キーの構成	86
キーレスエントリー	86
キーをなくした	87
電池が切れた	274
ワイヤレスリモコン	86
キーレスエントリー	
ワイヤレスドアロック	86
給油	151
給油のしかた	151
メンテナンスデータ	340
緊急時シートベルト固定機構	28
緊急時の対処	
オーバーヒートした	331
キーの電池が切れた	274
キーをなくした	87
緊急用フック	306
警告灯がついた	307
けん引	300
故障したときは	294
車両を緊急停止する	298
水没・冠水したときは	299
スタックした	336
ハイブリッドシステムが	
始動できない	324
発炎筒	296
パンクした	313
非常点滅灯	
（ハザードランプ）	295
補機バッテリーがあがった	325
緊急ブレーキシグナル.....	195

く

空気圧 (タイヤ)	344
空調	
フィルターの交換	267
オートエアコン	216
区間距離計 (トリップメーター)	
機能	78
表示切りかえボタン	77
曇り取り	
フロントウインドウガラス	218
リヤウインドウ	
デフォッガー	218
クラクション (ホーン)	106
クリアランスランプ (車幅灯) ...	140
スイッチ	140
電球 (バルブ) の交換	283
ワット数	345
クリップ	
フロアマット	22
グローブボックス	234

け

警告音 (ホーン)	106
計器類 (メーター)	75
警告灯 / 表示灯	70
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	76
メーター	75
警告灯	71, 307
ABS & ブレーキアシスト	308
SRS エアバッグ	307
エンジン	307
オートマチックハイビーム	308
高水温	307
シートベルト非着用	309
充電	307
スリップ	308
ドライブスタート	
コントロール	309
トラクションコントロール	308
燃料残量	309
パワーステアリング	308
半ドア	309
ビークルスタビリティ	
コントロール	308
ヒルスタートアシスト	
コントロール	308
プリクラッシュセーフティ	308
プリテンショナー	307
ブレーキ	307
ブレーキオーバーライド	
システム	309
油圧	307
レーンディパーチャー	
アラート	308

警告ブザー

キー抜き忘れ	129
シートベルト非着用	309
車線逸脱警報	173
衝突警報	161
先行車発進告知機能	182
パーキングブレーキ	
未解除走行時	139
パワーステアリング	308
半ドア	309
ブレーキ	307
油圧	307
ランプ消し忘れ	143
リバース	135
けん引	300
けん引のしかた	300
フック	304

こ**交換**

エアコンフィルター	267
キーの電池	274
タイヤ	313
電球（バルブ）	280
ヒューズ	277
工具（ツール）	314
光軸調整ダイヤル	142
航続可能距離	79
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	285
ワット数	345
高電圧部位	61
コートフック	247
子供専用シート	39
選択方法	44
取り付け方	54
コンセント	241
コンソールトレイ	237
コンライト	
（自動点灯・消灯機能）	140

さ

サイド方向指示灯	138
方向指示レバー	138
ワット数	345
サイドミラー（ドアミラー）	110
格納のしかた	110
操作	110
ミラーヒーター	218
三角表示板収納スペース	316
サンバイザー	239

し

シート.....	97, 98
子供専用シート.....	39
正しい運転姿勢.....	24
調整.....	97, 98
手入れ.....	254
ヘッドレスト.....	104
リヤシートの前倒し.....	98
シートベルト.....	26
お子さまの着用.....	28
緊急時シートベルト固定機構.....	28
シートベルト非着用警告灯.....	309
正しく着用するには.....	26
着け方・はずし方.....	26
手入れ.....	254
妊娠中の方の着用.....	29
シートベルト非着用警告灯.....	309
シートベルトプリテンショナー.....	27
機能.....	27
プリテンショナー警告灯.....	307
室内灯（ルームランプ）.....	224
始動のしかた.....	127
シフトポジション.....	134

シフトレバー.....	134
シフトロックシステム	
（解除ボタン）.....	136
操作.....	134
リバース警告ブザー.....	135
シフトレバーがシフト	
できないときは.....	136
シフトロックシステム.....	135
締め付けトルク	
（ホイール）.....	321, 344
車線逸脱警報機能.....	173
ジャッキ	
ガレージジャッキ.....	259
車載ジャッキ.....	314
ジャッキハンドル.....	314
車幅灯.....	140
電球（バルブ）の交換.....	283
ランプスイッチ.....	140
ワット数.....	345
車両型式.....	345
車両仕様（スペック）.....	340
車両データの記録.....	8
車両を緊急停止するには.....	298
収納装備.....	226
手動光軸調整ダイヤル.....	142
ジュニアシート.....	39
充電用 USB 端子.....	243
瞬間燃費.....	78
仕様（車両仕様）.....	345

す

水温	70
高水温警告灯	307
スイッチ	
イグニッション	127
EV ドライブモード	131
ウインドウロック	113
ウォッシャー	147, 149
エコドライブモード	135
LDA	175
オーディオ	208
オートマチックハイビーム	178
ドアミラー	110
ドアロック	89
ハザードランプ	295
パワーウインドウ	112
パワースイッチ	127
PCS	165
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	295
VSC OFF	196
フォグランプ	145
方向指示レバー	138
ホーン (警音器)	106
メーター表示切りかえ	77
ランプ	140
リヤウインドウ	
デフォッガー	218
ルームランプ	225
ワイパー	147, 149

スタック	336
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	106
ステアリングロック	
解除できないとき	129
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	285
ワット数	345
スノータイヤ (冬用タイヤ)	204
スピードメーター	75
スペアタイヤ	313
空気圧	344
交換方法	313
スペック (車両仕様)	340
スモールランプ (車幅灯)	140
電球 (バルブ) の交換	283
ランプスイッチ	140
ワット数	345

せ

清掃	250, 254
外装	250
駆動用電池冷却用吸入口／ 吸入口カバー	270
シートベルト	254
内装	254
制動灯	
電球（バルブ）の交換	285
ワット数	345
積算距離計（オドメーター）	
機能	78
表示切りかえボタン	77
先行車発進告知機能	182
センサー	
インナーミラー	109
オートマチックハイビーム	156
先行車発進告知機能	156
前方センサー	156
プリクラッシュセーフティ	156
ライトセンサー	143
レーンディパーチャー アラート	156
洗車	250
前照灯（ヘッドランプ）	140
オートマチックハイビーム	178
手動光軸調整ダイヤル	142
電球（バルブ）の交換	282
ライトセンサー	143
ランプ消し忘れ警告ブザー	143
ランプ消し忘れ防止機能	143
ランプスイッチ	140
ワット数	345

センターコンソールトレイ	237
センターコンソール小物入れ	237
センタートレイ （ドリンクホルダー付）	228
照明	224
センターボックス	234
前方センサー	156

そ

速度計 （スピードメーター）	75
-------------------------	----

た

ターンシグナルランプ （方向指示灯）	138
電球（バルブ）の 交換	284, 285
方向指示レバー	138
ワット数	345
タイヤ	261
空気圧	265, 344
交換	313
締め付けトルク	321, 344
チェーン	204
点検	261
パンクしたときは	313
冬用タイヤ	204
ホイールサイズ	344
ローテーション （位置交換）	261
タイヤが空まわりする （スタックした）	336
タイヤチェーン	204

ち

チェーン (タイヤチェーン)	204
チケットホルダー	239
チャイルドシート	39
規格	44
シートベルトでの固定	54
知っておいて	
いただきたいこと	39
選択方法	44
取り付け方	54
チャイルドプロテクター	90
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	139
操作	139
冬季の注意	205
パーキングブレーキ表示灯	73
未解除走行時	
警告ブザー	139
メンテナンスデータ	343

つ

ツール (工具)	314
----------------	-----

て

停止表示板収納スペース	316
手入れ	250, 254
外装	250
シートベルト	254
内装	254
テーブル	245
テールランプ (尾灯)	140
電球 (バルブ) の交換	285
ランプスイッチ	140
ワット数	345
デフォッガー (リヤウインドウ	
デフォッガー)	218

電球 (バルブ)

交換要領 (外装バルブ)	280
ワット数	345
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	340
電池交換 (キー)	274

と

ドア	88
チャイルドプロテクター	90
ドアガラス	112
ドアロックスイッチ	89
バックドア	92
半ドア警告灯	309
ロックレバー	89
ワイヤレスリモコン	88
ドアガラス	112
ドアポケット	237
ドアミラー	110
格納のしかた	110
操作	110
ミラーヒーター	218
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	68
時計	
時刻を設定する	240
表示	76
Toyota Safety Sense	155
オートマチックハイビーム	178
先行車発進告知機能	182
前方センサー	156
ブリクラッシュセーフティ	161
レーンディパーチャー	
アラート	173
ドライブスタート	
コントロール	117

トラクションコントロール (TRC).....	195
トランスミッション.....	134
メンテナンスデータ	343
トリップメーター	
機能	78
表示切りかえボタン	77
ドリンクホルダー	228

な

内装	
収納装備.....	226
手入れ.....	254

に

荷物	
積むときの注意.....	126
リヤシートの前倒し	98

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	336
--------------------------	-----

ね

燃費	
瞬間燃費.....	78
平均燃費.....	78
燃料.....	340
ガソリンスタンドでの情報....	372
給油	151
種類	340
燃料残量警告灯	309
容量	340
燃料計	76

は

パーキングブレーキ	139
操作	139
冬季の注意	205
パーキングブレーキ表示灯	73
未解除走行時	
警告ブザー.....	139
メンテナンスデータ	343
排気ガス.....	37
ハイビーム (ヘッドランプ).....	140
オートマチックハイビーム	178
電球 (バルブ) の交換	282
ランプスイッチ	140
ワット数	345
ハイブリッドシステム	
EV ドライブモード.....	131
運転のアドバイス.....	202
オーバーヒート.....	331
回生ブレーキ	58
ガス欠になったとき	63
緊急時の停止方法.....	298
緊急停止システム.....	62
駆動用電池冷却用吸入口	62
高電圧部位	61
サービスプラグ.....	64
事故が発生したとき	64
始動できないときは.....	324
始動方法	127
車両接近通報装置.....	58
充電.....	59
注意.....	61
特徴.....	57
特有の音と振動.....	60

パワー (イグニッション)	
スイッチ	127
補機バッテリーがあがった	325
メンテナンス・	
修理・廃車するとき	60
ハイブリッドシステム	
インジケーター	76
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	288
ワット数	345
ハザードランプ (非常点滅灯) ...	295
スイッチ	295
電球 (バルブ) の	
交換	284, 285
ワット数	345
挟み込み防止機能	
運転席ドアガラス	114
発炎筒	296
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	285
ワット数	345
バックドア	92
バックドアグリップ	93
バックドアハンドル	93
半ドア警告灯	309
バックモニター	184
バッテリー (駆動用電池)	61
充電について	59
搭載位置	61
冷却用吸入口	62

バッテリー (補機バッテリー)	
交換するとき	328
搭載位置	257
補機バッテリーがあがった	325
冬の前の準備	204
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	280
ワット数	345
パワーウィンドウ	112
ウィンドウロックスイッチ ...	113
操作	112
挟み込み防止機能	114
パワースイッチ	127
位置の切りかえ	128
車両を緊急停止するには	298
ハイブリッドシステム	
始動のしかた	127
パワーステアリング	195
パワーステアリング警告灯 ...	308
パンクした	313
番号灯 (ライセンスプレート	
ランプ)	140
電球 (バルブ) の交換	289
ランプスイッチ	140
ワット数	345
ハンドル	
(ステアリングホイール)	106
位置調整	106

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	195
ヒーター	
オートエアコン	216
シートヒーター	222
ミラーヒーター	218
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	295
スイッチ	295
電球 (バルブ) の	
交換	284, 285
ワット数	345
尾灯 (テールランプ)	140
電球 (バルブ) の交換	285
ランプスイッチ	140
ワット数	345
ヒューズ	277
表示灯	73
日よけ (サンバイザー)	239
ヒルスタートアシスト	
コントロール	195

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	325
フォグランプ	145
スイッチ	145
電球 (バルブ) の交換	285
ワット数	345

ブザー

キー抜き忘れ警告	129
シートベルト非着用警告	309
車線逸脱警報	173
衝突警報	161
先行車発進告知機能	182
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告	139
パワーステアリング警告	308
半ドア警告	309
ブレーキ警告	307
油圧警告	307
ランプ消し忘れ警告	143
リバース警告	135

フック

買い物フック	229
けん引フック	304
コートフック	247
フロアマット固定フック	22

フューエルメーター (燃料計)

フューエルリッド (給油口)

給油のしかた	151
--------------	-----

冬の前の準備 (寒冷時の運転)

冬用タイヤ

ブリクラッシュセーフティ

(PCS)	161
-------------	-----

ブレーキ

回生ブレーキ	58
パーキングブレーキ	139
ブレーキ警告灯	307
メンテナンスデータ	343

ブレーキアシスト

ABS & ブレーキアシスト

警告灯	308
機能	195

ブレーキオーバーライド システム	117
ブレーキ付近から キーキー音が聞こえる	121
ブレーキフルード	343
フロアマット	22
フロントシート	97
正しい運転姿勢	24
調整	97
手入れ	254
ヘッドレスト	104
フロント方向指示灯	138
電球（バルブ）の交換	284
方向指示レバー	138
ワット数	345
フロントルームランプ	225

へ

平均燃費	78
ヘッドランプ	140
オートマチックハイビーム	178
手動光軸調整ダイヤル	142
電球（バルブ）の交換	282
ライトセンサー	143
ランプ消し忘れ警告ブザー	143
ランプ消し忘れ防止機能	143
ランプスイッチ	140
ワット数	345
ヘッドレスト	104
ベビーシート	39

ほ

ホイール 交換（タイヤ）	313
メンテナンスデータ	344
ホイールナットレンチ	314
方向指示灯	138
電球（バルブ）の 交換	284, 285
方向指示レバー	138
ワット数	345
ホーン（警告器）	106
補機バッテリー 交換するとき	328
補機バッテリーが あがったときは	325
補機バッテリーについて	257
ポケット	237
保証	10
ボトルホルダー	235
ボンネット 開け方	256

ま

マルチインフォメーション ディスプレイ	76
カスタマイズモード	80
先行車発進告知機能	182
トリップ インフォメーション	78
ブリクラッシュセーフティ	165
レーンディパーチャー アラート	175
マルチホルダー	230

み

ミラー

アウターミラー	110
インナーミラー	108
ドアミラー	110
ミラーヒーター	218

め

メーター（計器類）	75
カスタマイズモード	80
警告灯	71, 307
照度調整	79
表示切りかえボタン	77
表示灯	73
マルチインフォメーション ディスプレイ	76
メーター	75
メーター照度調整	79
メンテナンスデータ	340

も

モーター（電気モーター）	61
モーターでの走行 （EV ドライブモード）	131

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	346
雪道ですべて動けない （スタックした）	336
油脂類	340

ら

ライセンスプレートランプ

（番号灯）	140
電球（バルブ）の交換	289
ランプスイッチ	140
ワット数	345

ラゲージルーム

補機バッテリー	257
---------------	-----

ラジエーター

オーバーヒート	331
メンテナンスデータ	343

ラジオ

ランプ

オートマチックハイビーム	178
室内灯	224
センタートレイ（ドリンク ホルダー付）照明	224
電球（バルブ）の交換	280
非常点滅灯 （ハザードランプ）	295
ヘッドランプ（前照灯）	140
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）	138
ライトセンサー	143
ランプ消し忘れ警告ブザー	143
ランプ消し忘れ防止機能	143
リヤフォグランプ	145
ルームランプ	225
ワット数	345
ランプ消し忘れ警告ブザー	143
ランプ消し忘れ防止機能	143

り

リヤウインドウデフォッガー	218
リヤシート	
クッション固定式シート	98
クッション引き起こし式	
シート	99
リヤフォグランプ	145
スイッチ	145
電球（バルブ）の交換	285
ワット数	345
リヤ方向指示灯	138
電球（バルブ）の交換	285
方向指示レバー	138
ワット数	345
リヤルームランプ	225

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	108
ルームランプ	225

れ

冷却水	343
高水温警告灯	307
冬の前の準備	204
メンテナンスデータ	343
冷却装置（ラジエーター）	343
オーバーヒート	331
メンテナンスデータ	343
レーンディパーチャー	
アラート（LDA）	173

レバー

シフト	134
ハンドル位置調整	106
方向指示	138
ボンネット解除	256
ロック（ドア）	89

ろ

ロアポケット	237
ロック	
ウインドウロック	113
シフトロック	135
チャイルドプロテクター	90
ドア	88
バックドア	92
ワイヤレスリモコン	88

わ

ワイドフリーラック	234
ワイパー & ウォッシャー	
ウォッシャー液の補給	260
フロント	147
リヤ	149
ワイパーブレード（寒冷地用）	205
ワイヤレスリモコン	86
作動の合図	89
操作	88
電池の交換	274
ワックス	250
ワット数	345
1DIN ポケット	237

ガソリンスタンドでの情報

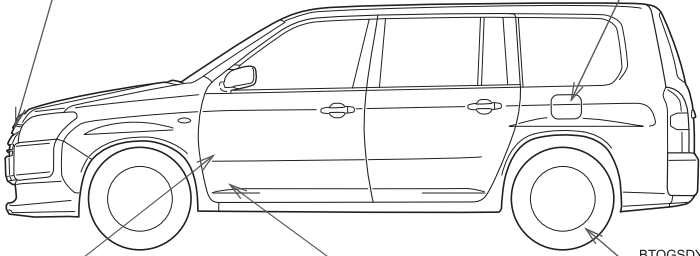
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 256

給油口

P. 153



BTOGSDY001

ボンネットオープナー

P. 256

給油扉オープナー

P. 153

タイヤ空気圧

P. 344

燃料の容量（参考値）	42L			
燃料の種類	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。			
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	前輪		後輪	
	空荷時	積荷時※	空荷時	積荷時※
	220 (2.2)	240 (2.4)	230 (2.3)	290 (2.9)
※100kg 以上または 4 名乗車以上				
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時：3.4L オイルとフィルター交換時：3.7L			
エンジンオイルの種類	推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 (API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16) 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20) トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30)			

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。



トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

